

次世代育成支援に関する アンケート調査結果

II . 次世代育成支援に関するアンケート調査結果

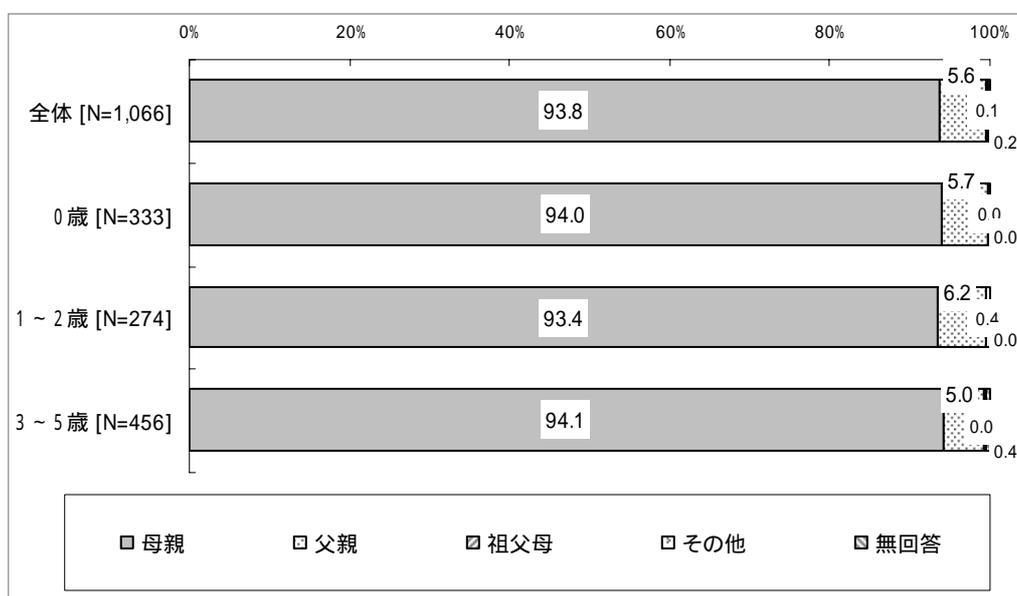
1 . 就学前児童保護者調査結果の分析

1 . 調査対象者とその家族の状況

(1) 調査票の回答者

回答者は、「母親」が大半を占めており、93.8%となっています。

図表 II-1 回答者[N=1,066]



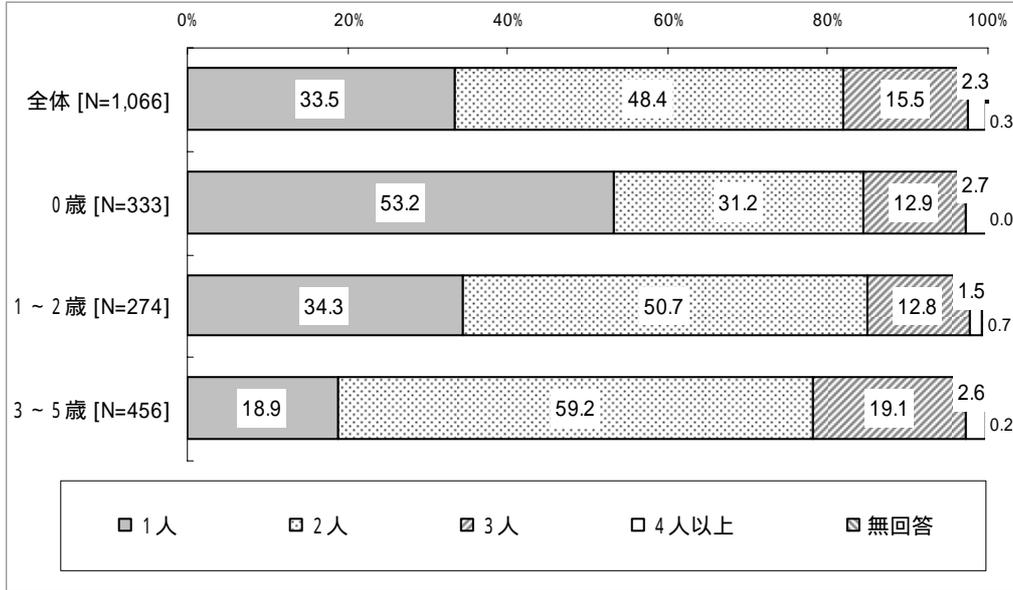
グラフの見方

就学前児童保護者の調査結果は、全体（N=1,066）を集計するとともに、調査対象の児童の年齢により、母集団を0歳（N=333）、1～2歳（N=274）、3～5歳（N=456）に区分しクロス集計しています。各項目におけるグラフは、上から順番に、全体、0歳、1～2歳、3～5歳の集計結果となっています。

(2) 子どもの人数

子どもの人数は、「2人」(48.4%)、「1人」(33.5%)の順に高い割合となっています。

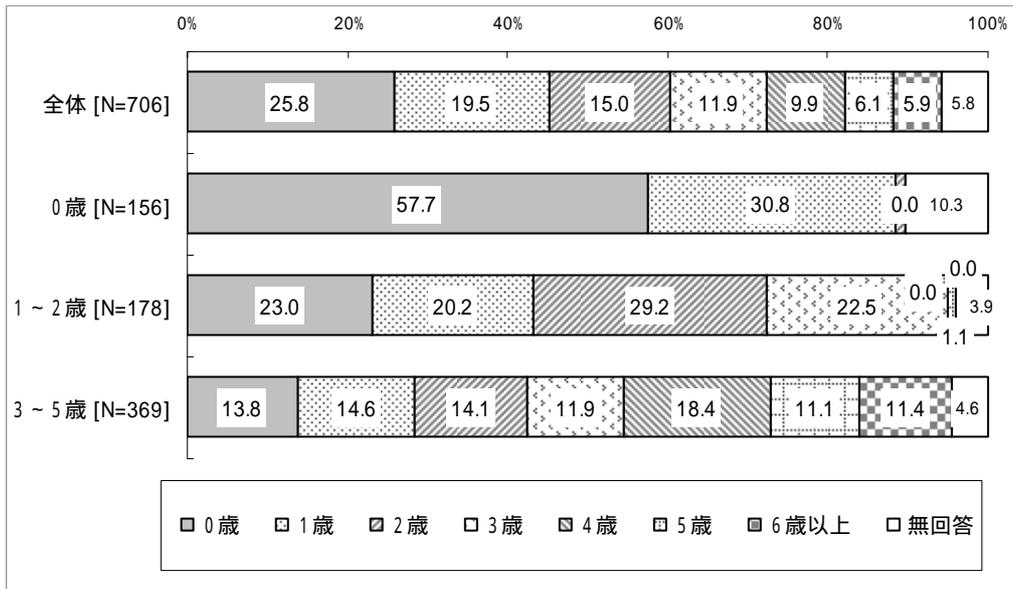
図表 II-2 子どもの人数[N=1,066]



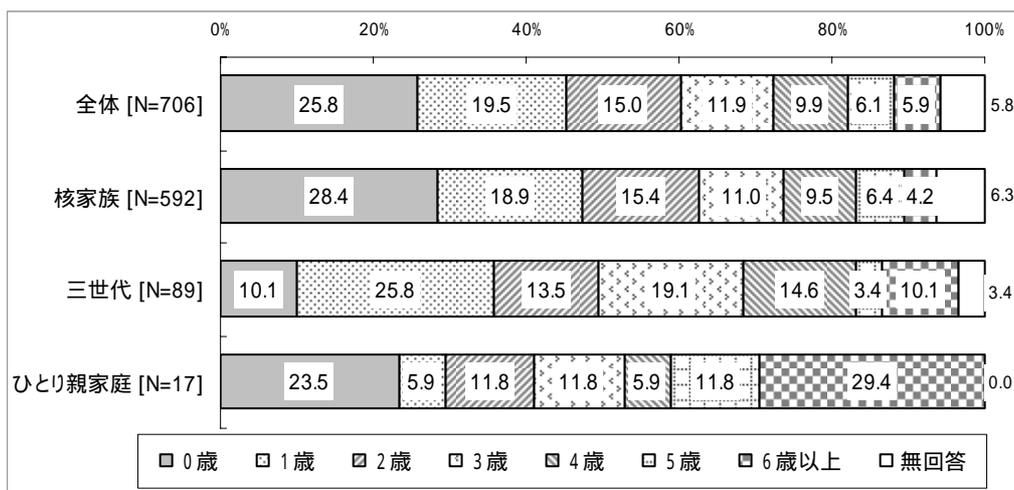
2人以上子どもがいる人に、末子の年齢を聞いたところ、「0歳」(25.8%)、「1歳」(19.5%)、「2歳」(15.0%)の順に高い割合となっています。

これを家族構成別に見ると、核家族に比べて、三世代では「0歳」の割合が低く、ひとり親家庭では、「6歳以上」の割合が高くなっています。

図表 II-3 末子の年齢[N=706]



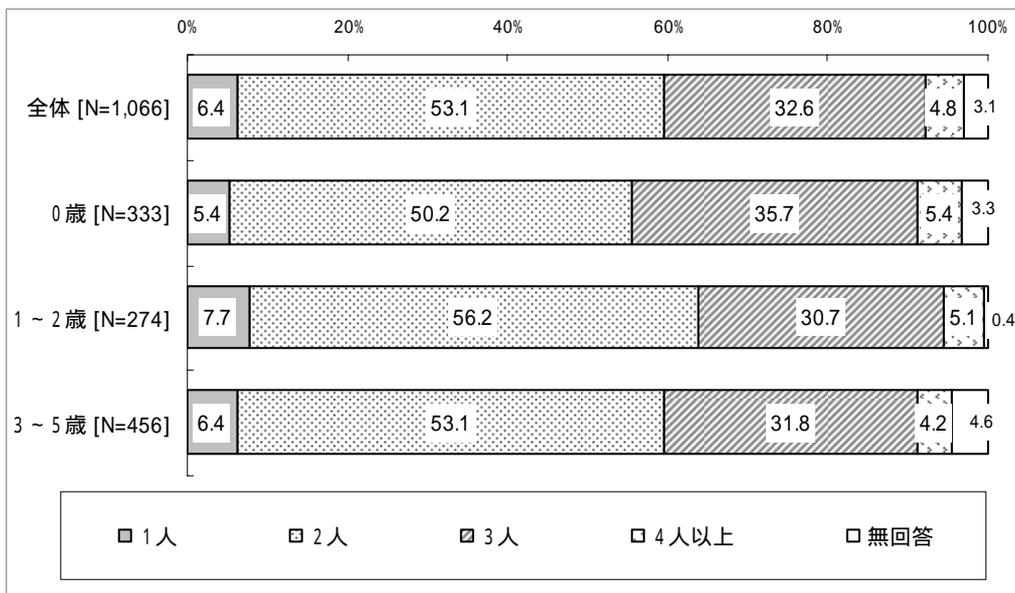
図表 II-4 (家族構成別) 末子の年齢[N=706]



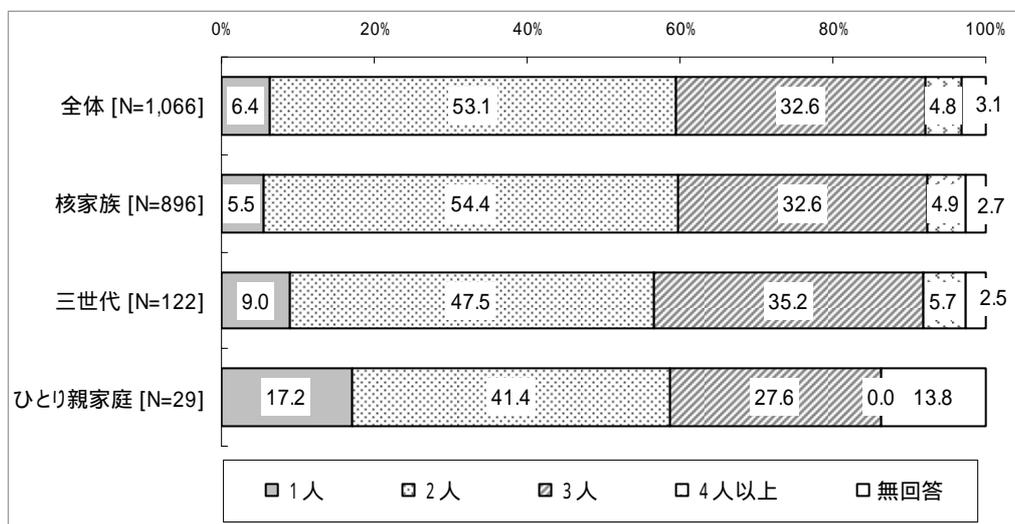
希望する子どもの人数を聞いたところ、「2人」という人の割合が最も高く 53.1%、次いで、「3人」という人の割合が高く 32.6%となっています。

これを家族構成別に見ると、「1人」という人の割合はひとり親家庭で高く、「3人」という人の割合は三世代で高くなっています。

図表 II-5 希望する子どもの人数[N=1,066]



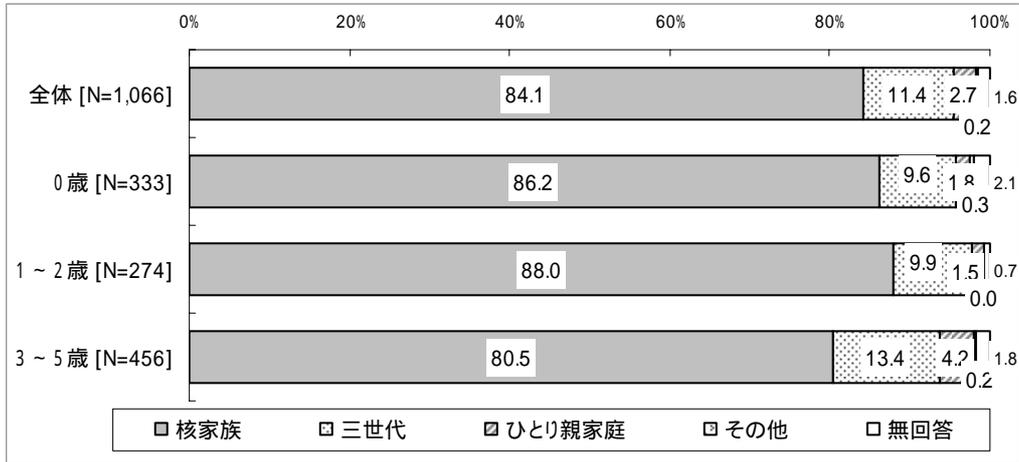
図表 II-6 (家族構成別) 希望する子どもの人数[N=1,066]



(3) 同居・近居の状況

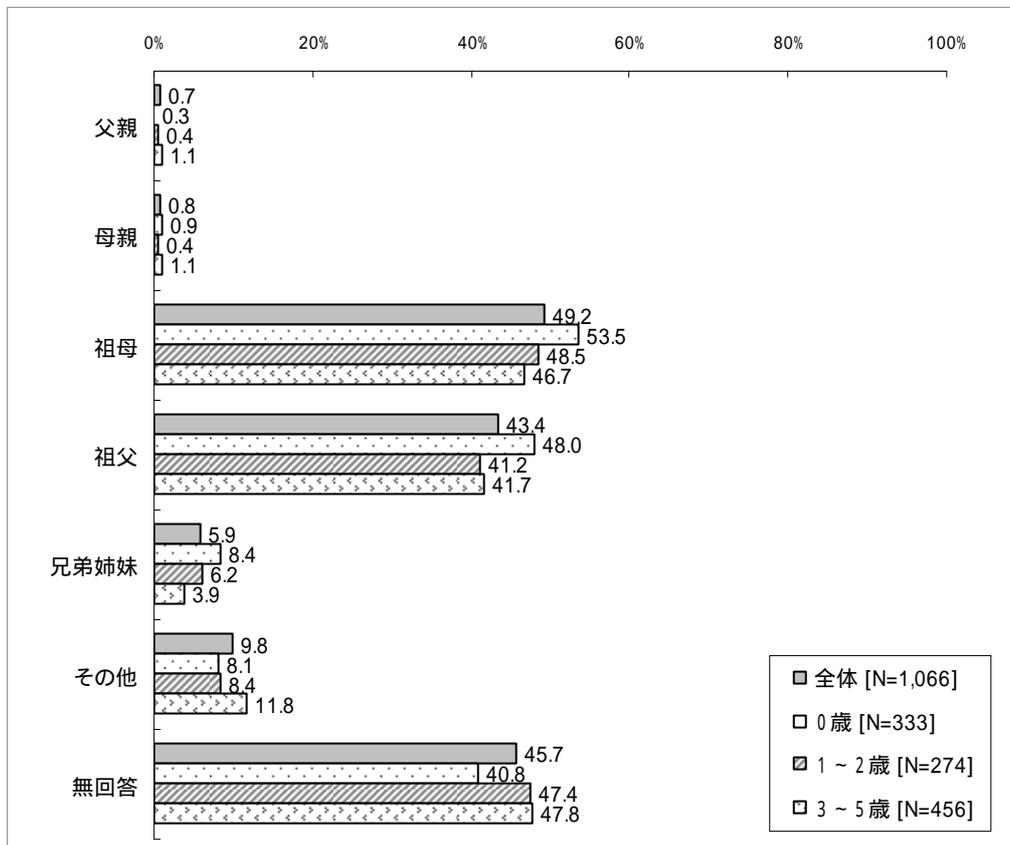
家族構成は、「核家族」の割合が最も高く84.1%、次いで、「三世代」(11.4%)、「ひとり親家庭」(2.7%)の順に、高い割合となっています。

図表 II-7 家族構成[N=1,066]



また、近居している人としては、「祖母」(49.2%)、「祖父」(43.4%)の順に高い割合となっています。年齢別にみると、0歳では「祖母」「祖父」の割合が高くなっています。

図表 II-8 近居している人[N=1,066 ; 複数回答]

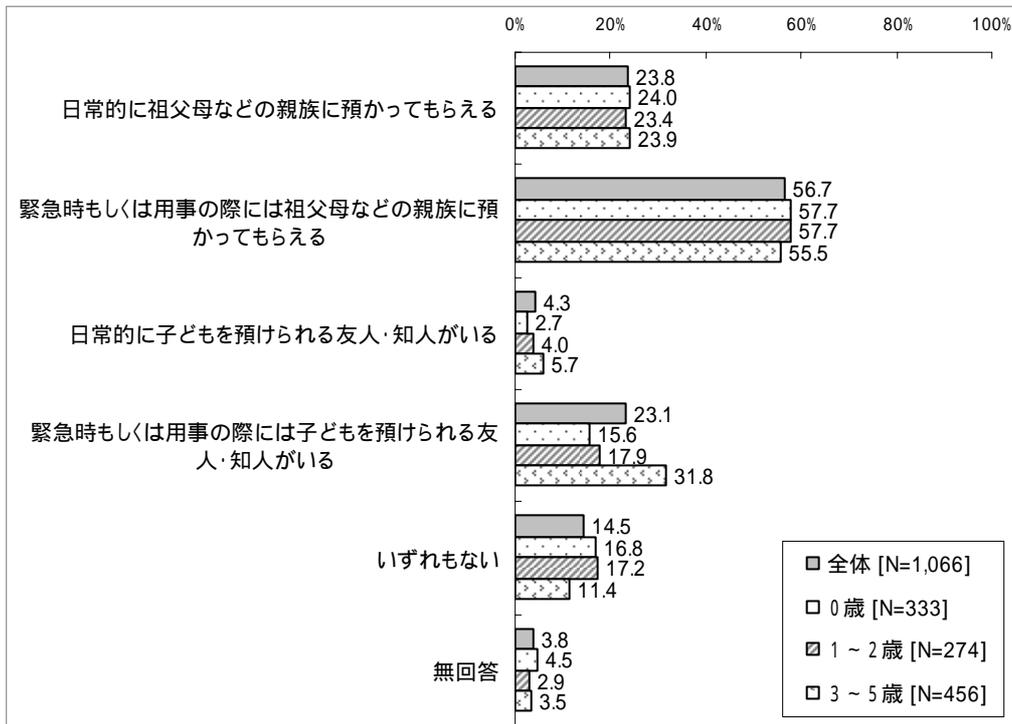


(4) 子どもの預かりの状況

日頃、子どもを預かってもらえる人がいるか聞いたところ、「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族に預かってもらえる」という人の割合が最も高く56.7%、次いで、「日常的に祖父母などの親族に預かってもらえる」(23.8%)、「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」(23.1%)の順に高い割合となっています。

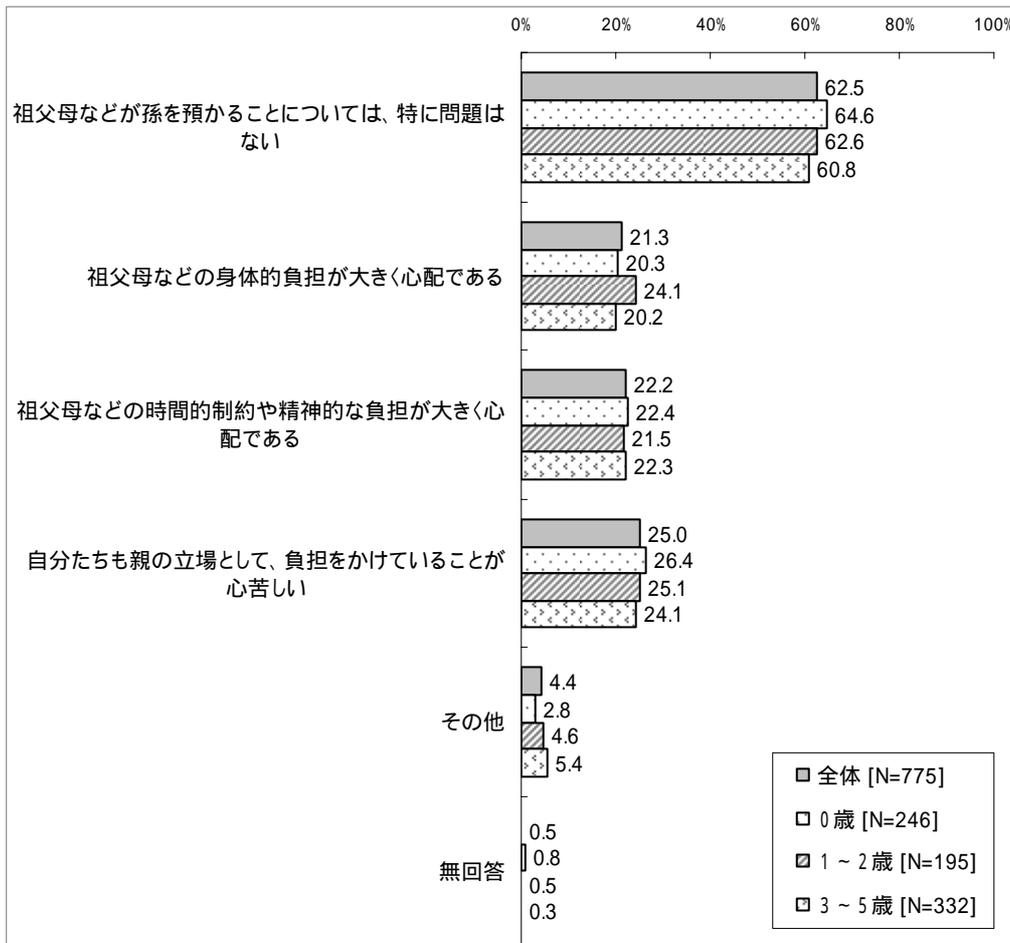
これを年齢別に見ると、「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」という人の割合は、年齢が上がるにつれて高くなっています。

図表 II-9 日頃、子どもを預かってもらえる人がいるか[N=1,066；複数回答]



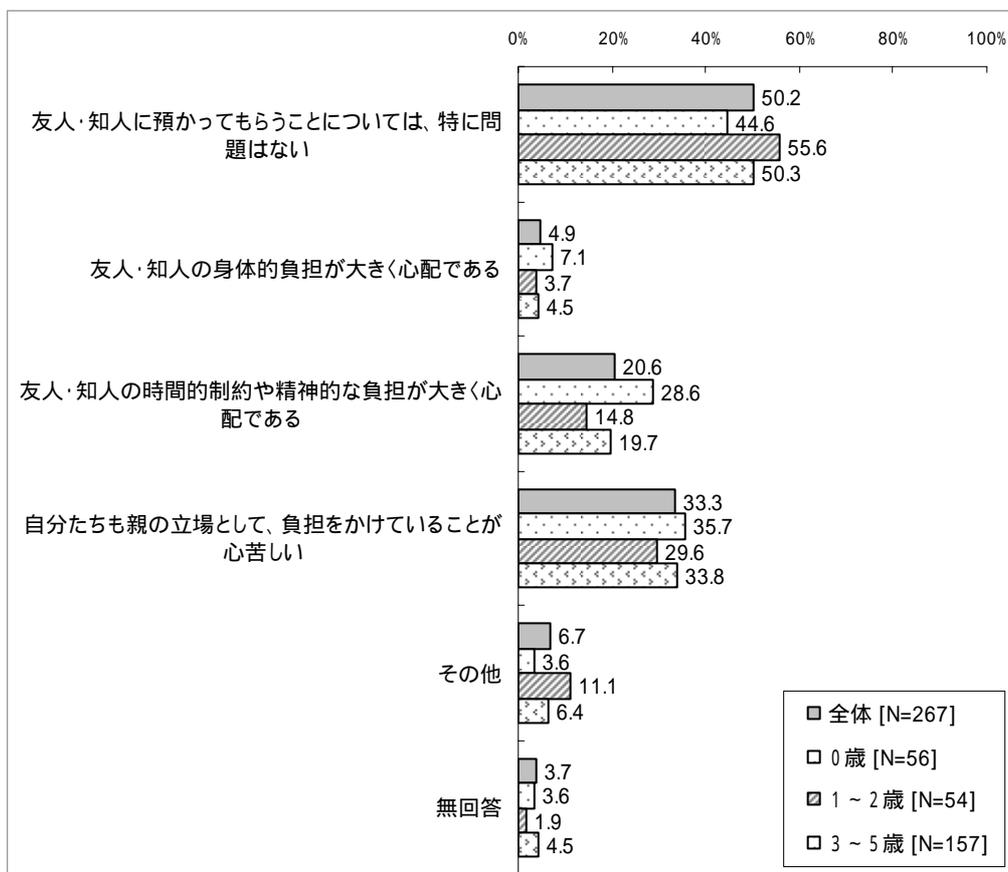
子どもを預かってもらえる人の有無について、「日常的に祖父母などの親族に預かってもらえる」「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族に預かってもらえる」と回答した人に、祖父母などに預かってもらっている状況について聞いたところ、「祖父母などが孫を預かることについては、特に問題はない」という人の割合が最も高く 62.5%、次いで、「自分たちも親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」という人の割合が高く 25.0%となっています。

図表 II-10 祖父母などに預かってもらっている状況について[N=775；複数回答]



子どもを預かってもらえる人の有無について、「日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる」「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」と回答した人に、友人や知人に預かってもらっている状況について聞いたところ、「友人・知人に預かってもらうことについては、特に問題はない」という人の割合が最も高く 50.2%、次いで、「自分たちも親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」という人の割合が高く 33.3%となっています。

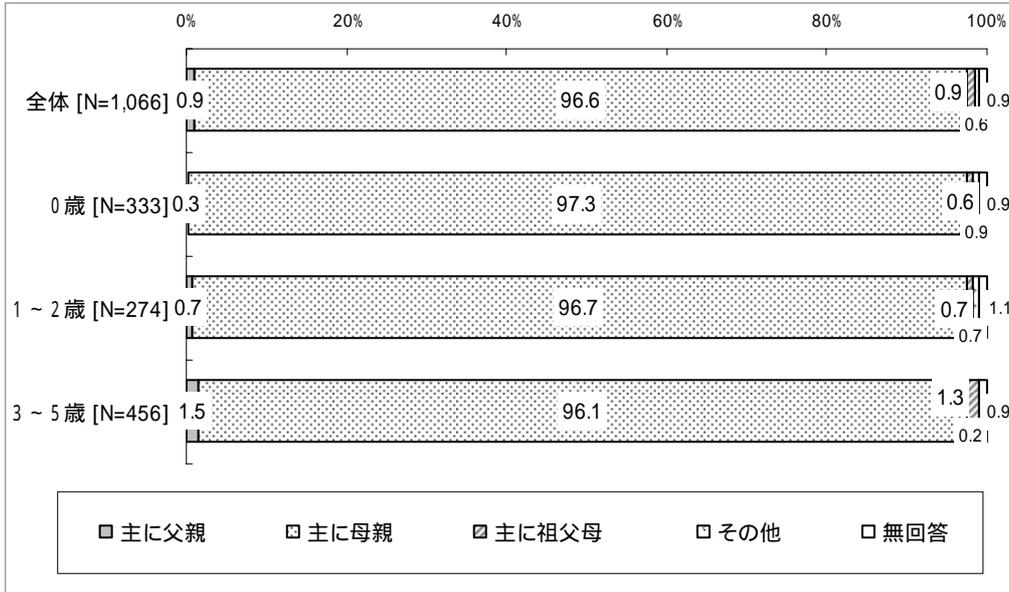
図表 II-11 友人や知人に預かってもらっている状況について[N=267；複数回答]



(5) 子どもの身の回りの世話などを主にする人

子どもの身の回りの世話を主にする人を聞いたところ、「主に母親」という人が大半を占めており、96.6%となっています。

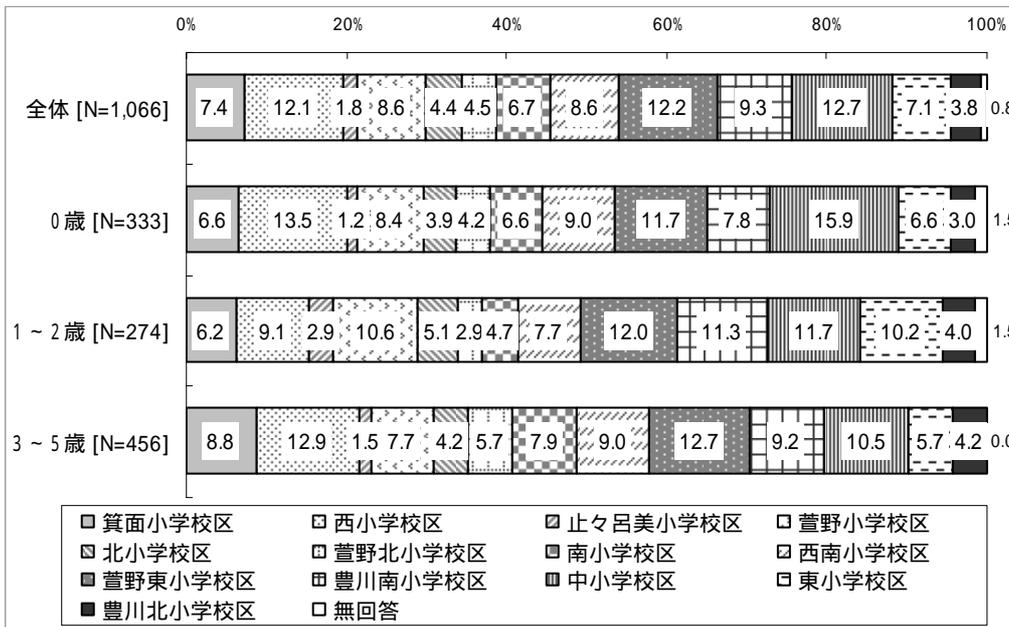
図表 II-12 子どもの身の回りの世話を主にしているの[N=1,066]



(6) 小学校区

小学校区は、割合の高い順に、「中小小学校区」(12.7%)、「萱野東小学校区」(12.2%)、「西小学校区」(12.1%)等となっています。

図表 II-13 小学校区[N=1,066]



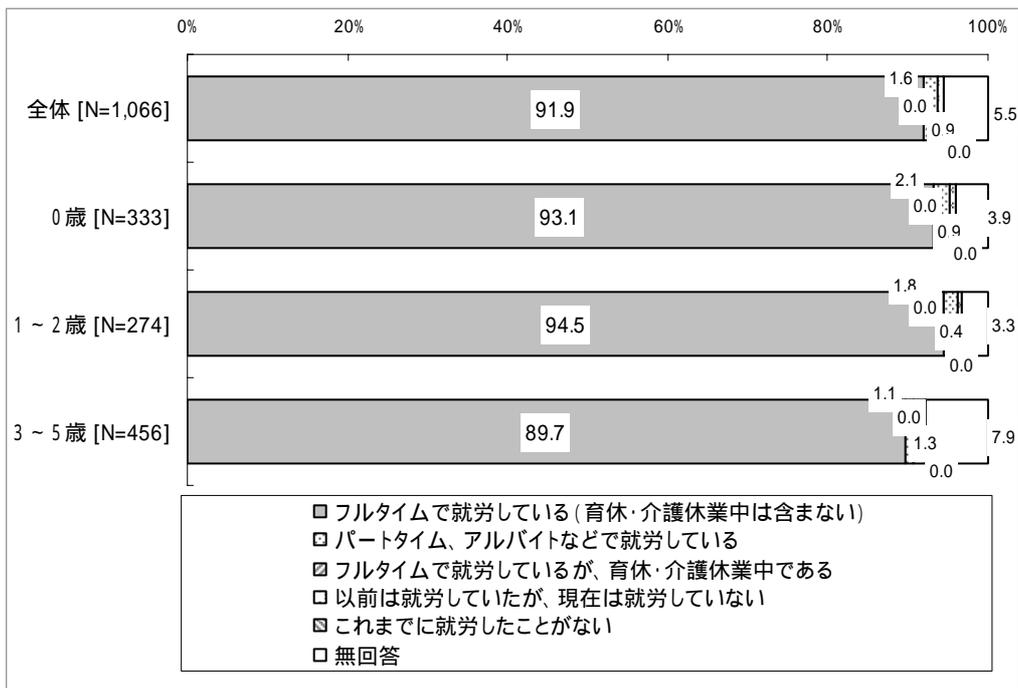
2. 保護者の就労状況

(1) 父親

就労状況

父親の就労状況を聞いたところ、「フルタイムで就労している（育休・介護休業中は含まない）」という人が大半を占めており、91.9%となっています。

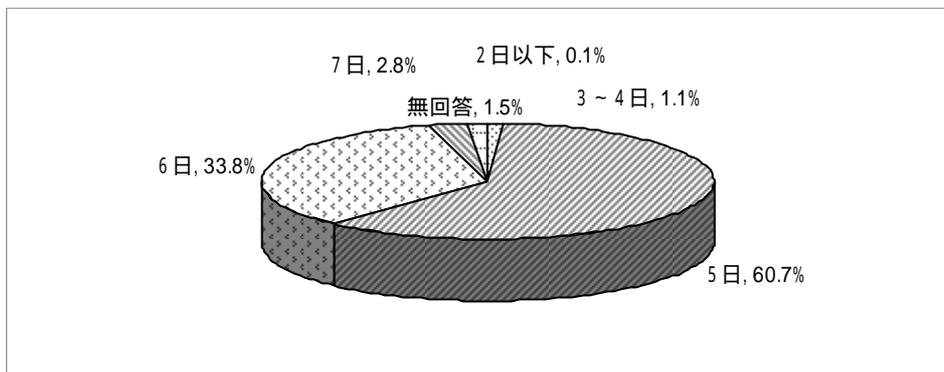
図表 II-14 父親の就労状況[N=1,066]



フルタイム就労の父親の状況

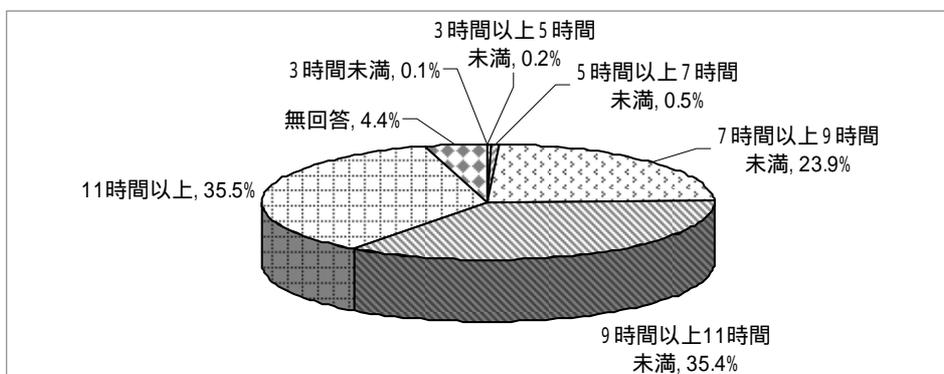
フルタイム就労の父親の1週間の就労日数は、「5日」の割合が最も高く60.7%、次いで、「6日」の割合が高く33.8%となっています。

図表 II-15 フルタイム就労の父親の1週間の就労日数[N=980]



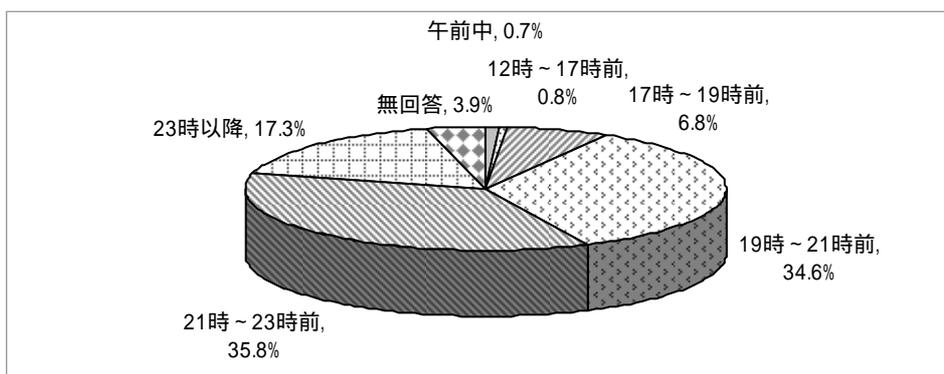
フルタイム就労の父親の1日の勤務時間は、割合の高い順に、「11時間以上」(35.5%)、「9時間以上11時間未満」(35.4%)、「7時間以上9時間未満」(23.9%)となっています。

図表 II-16 フルタイム就労の父親の1日の勤務時間[N=980]



フルタイム就労の父親の帰宅時間は、割合の高い順に、「21時～23時前」(35.8%)、「19時～21時前」(34.6%)、「23時以降」(17.3%)となっています。

図表 II-17 フルタイム就労の父親の帰宅時間[N=980]



(2) 母親

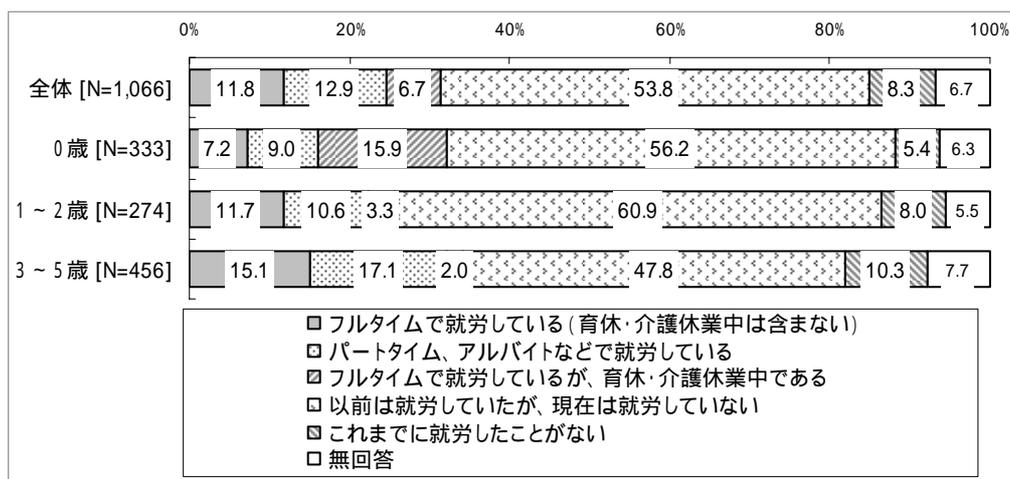
就労状況

母親の就労状況を聞いたところ、「以前は就労していたが、現在は就労していない」という人の割合が最も高く 53.8%、次いで「パートタイム、アルバイトなどで就労している」(12.9%)、「フルタイムで就労している(育休・介護休業中は含まない)」(11.8%)の順に、高い割合となっています。

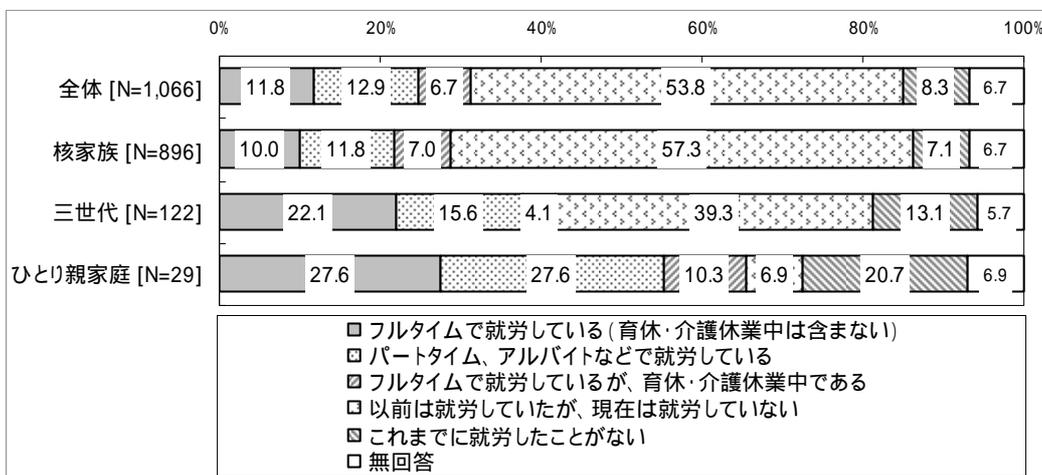
これを年齢別に見ると、「フルタイムで就労している(育休・介護休業中は含まない)」「パートタイム、アルバイトなどで就労している」という人の割合は年齢が上がるにつれて高くなっており、「以前は就労していたが、現在は就労していない」という人の割合は、1～2歳で高くなっていきます。

また、家族構成別に見ると、「フルタイムで就労している(育休・介護休業中は含まない)」「パートタイム、アルバイトなどで就労している」「これまで就労したことがない」という人の割合は、核家族よりも三世帯、三世帯よりもひとり親家庭で高くなっていきます。

図表 II-18 母親の就労状況[N=1,066]



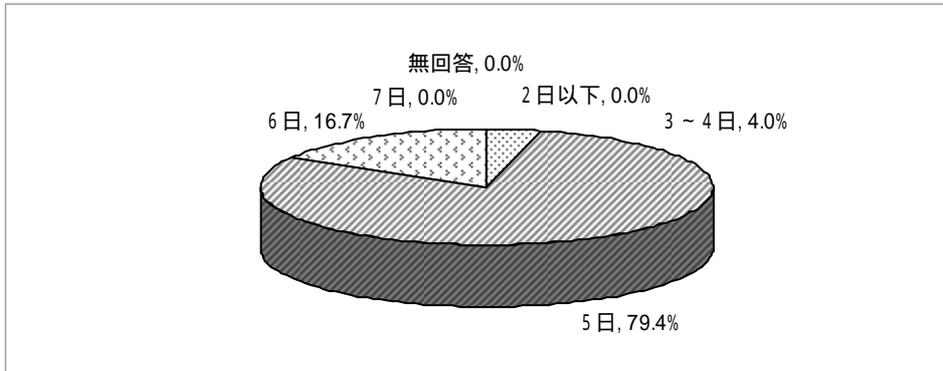
図表 II-19 (家族構成別) 母親の就労状況[N=1,066]



フルタイム就労の母親の状況

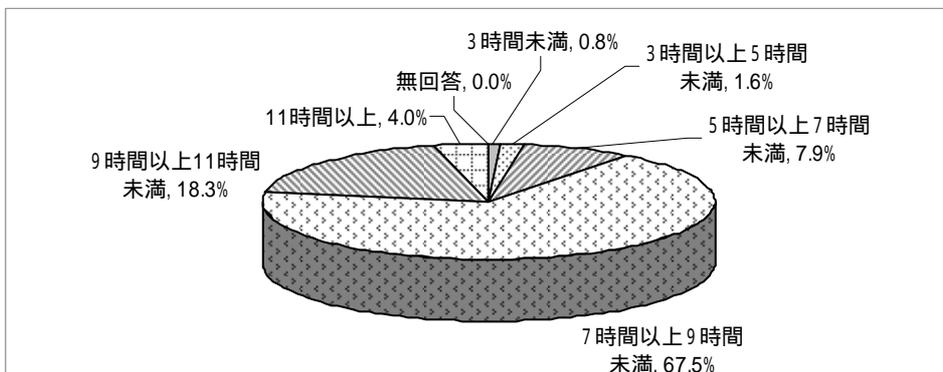
フルタイム就労の母親の1週間の就労日数は、「5日」の割合が最も高く79.4%、次いで、「6日」の割合が高く16.7%となっています。

図表 II-20 フルタイム就労の母親の1週間の就労日数[N=126]



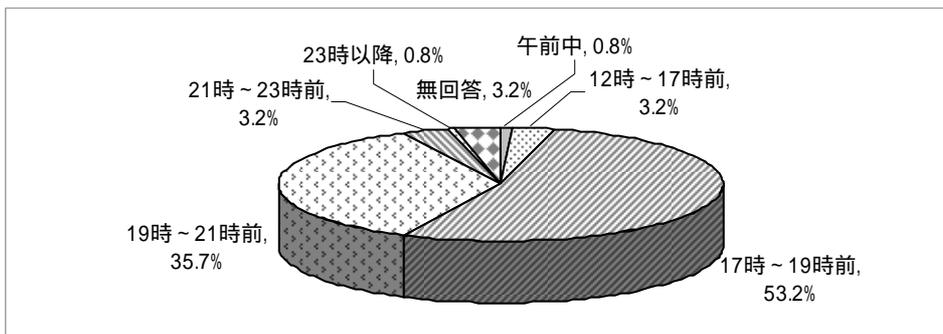
フルタイム就労の母親の1日の勤務時間は、「7時間以上9時間未満」という人の割合が最も高く67.5%、次いで、「9時間以上11時間未満」という人の割合が高く18.3%となっています。

図表 II-21 フルタイム就労の母親の1日の勤務時間[N=126]



フルタイム就労の母親の帰宅時間は、「17時～19時前」という人の割合が最も高く53.2%、次いで、「19時～21時前」という人の割合が高く35.7%となっています。

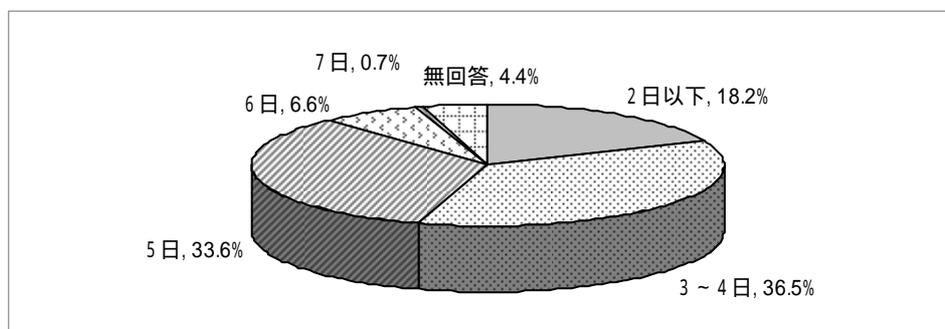
図表 II-22 フルタイム就労の母親の帰宅時間[N=126]



パートタイム、アルバイト等で就労している母親の状況

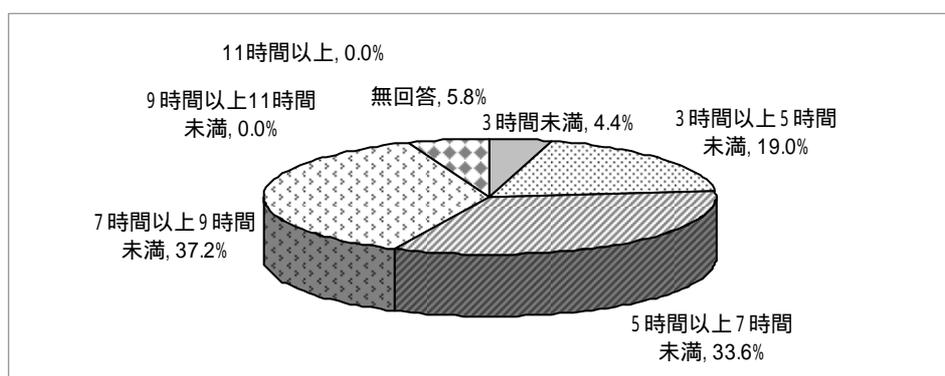
パートタイム、アルバイト等で就労している母親の1週間の就労日数は、割合の高い順に、「3～4日」(36.5%)、「5日」(33.6%)、「2日以下」(18.2%)となっています。

図表 II-23 パートタイム、アルバイト等で就労している母親の1週間の就労日数[N=137]



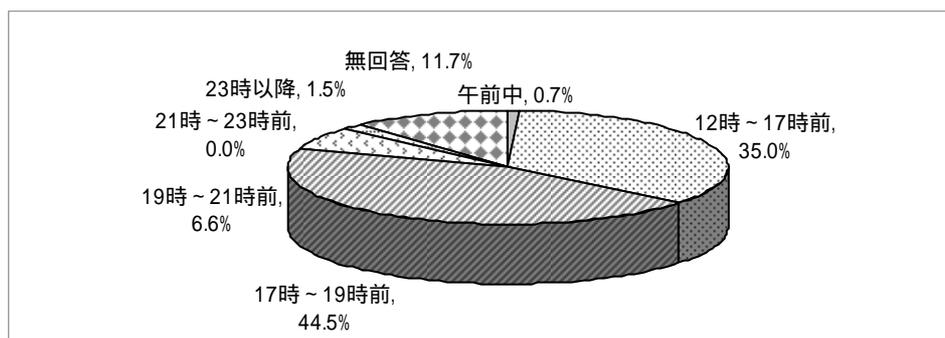
パートタイム、アルバイト等で就労している母親の1日の勤務時間は、割合の高い順に、「7時間以上9時間未満」(37.2%)、「5時間以上7時間未満」(33.6%)、「3時間以上5時間未満」(19.0%)となっています。

図表 II-24 パートタイム、アルバイト等で就労している母親の1日の勤務時間[N=137]



パートタイム、アルバイト等で就労している母親の帰宅時間は、「17時～19時前」という人の割合が最も高く44.5%、次いで、「12時～17時前」という人の割合が高く35.0%となっています。

図表 II-25 パートタイム、アルバイト等で就労している母親の帰宅時間[N=137]

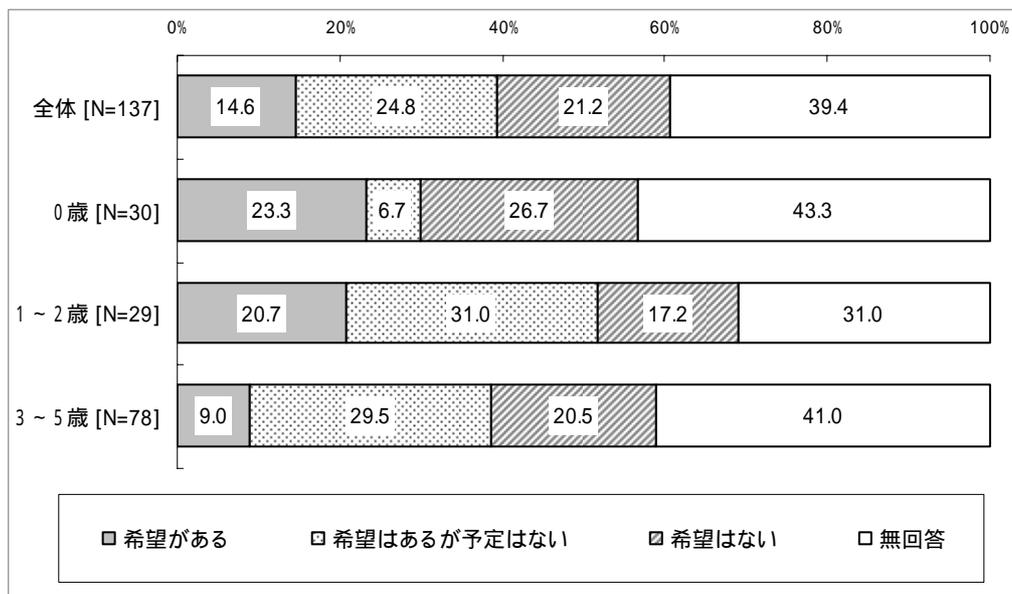


パートタイム、アルバイト等で就労している母親に、フルタイムへの転換希望があるか聞いたところ、割合の高い順に、「希望はあるが予定はない」(24.8%)、「希望はない」(21.2%)、「希望がある」(14.6%)となっています。

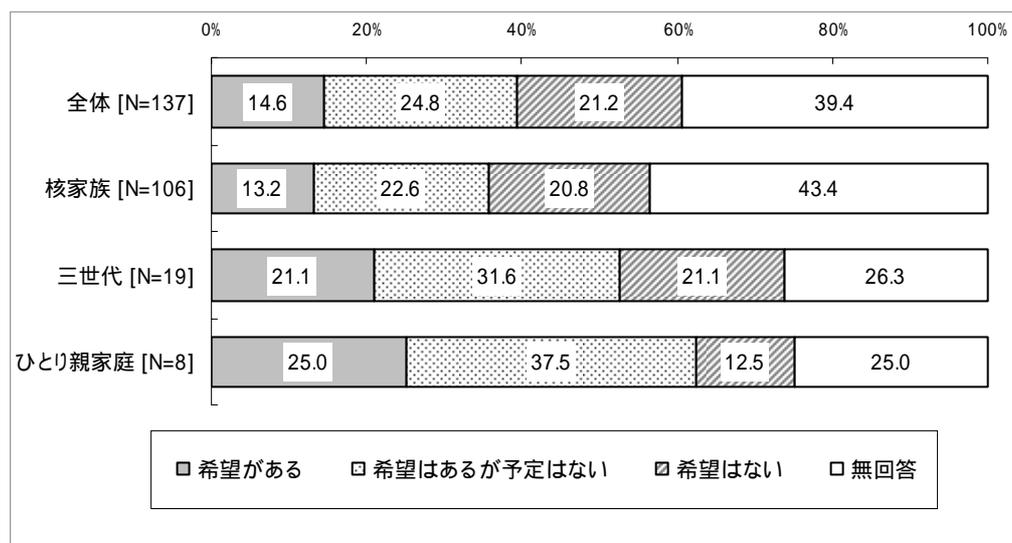
これを年齢別に見ると、年齢が上がるにつれて、「希望がある」という人の割合は低くなり、「希望はあるが予定はない」という人の割合は1歳以上で高くなっています。

また、家族構成別に見ると、「希望がある」「希望はあるが予定はない」という人の割合は、核家族よりも三世代、三世代よりもひとり親家庭で高くなっています。

図表 II-26 フルタイムへの転換希望があるか[N=137]



図表 II-27 (家族構成別)フルタイムへの転換希望があるか[N=137]

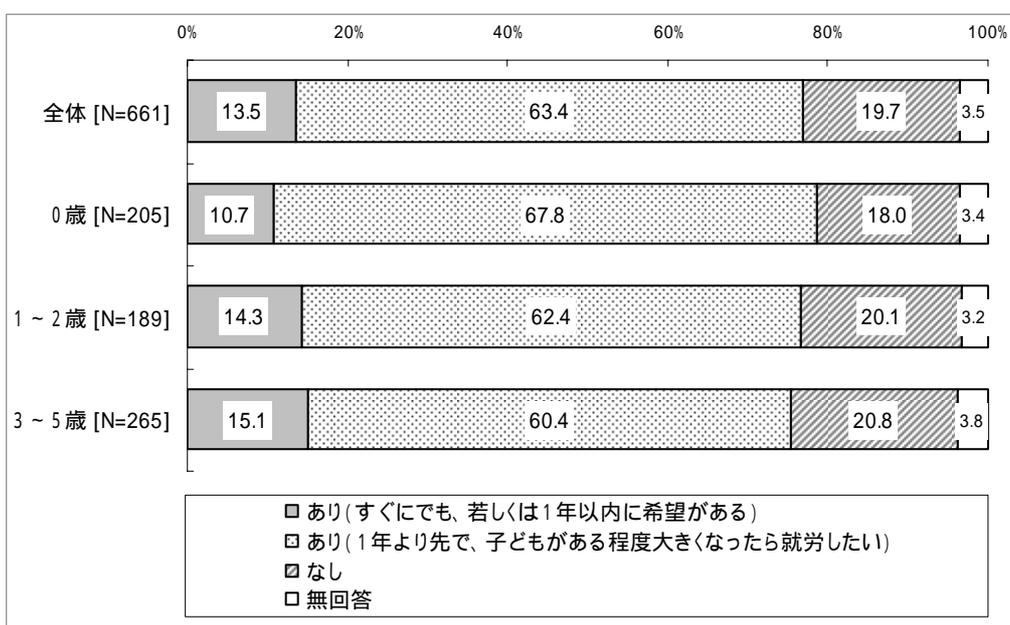


現在、就労していない母親の状況

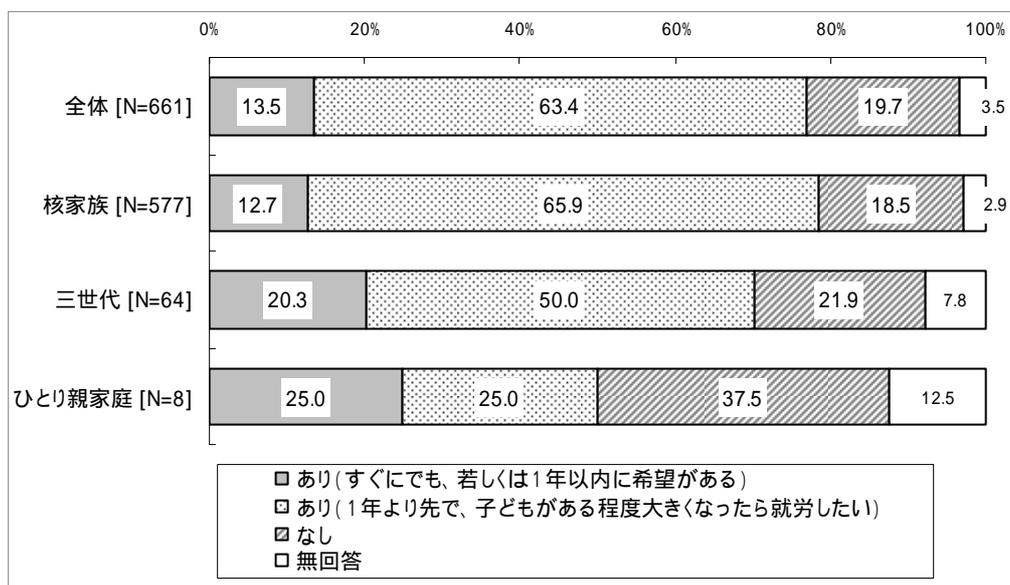
母親の就労状況について、「以前は就労していたが、現在は就労していない」「これまでに就労したことがない」と回答した人に、就労希望があるか聞いたところ、「あり(1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい)」という人の割合が最も高く63.4%、次いで、「なし」(19.7%)、「あり(すぐにでも、若しくは1年以内に希望がある)」(13.5%)の順に高い割合となっています。

これを家族構成別に見ると、「あり(すぐにでも、若しくは1年以内に希望がある)」「なし」という人の割合は、それぞれ核家族よりも三世代、三世代よりもひとり親家庭で高くなっています。

図表 II-28 就労希望の有無[N=661]

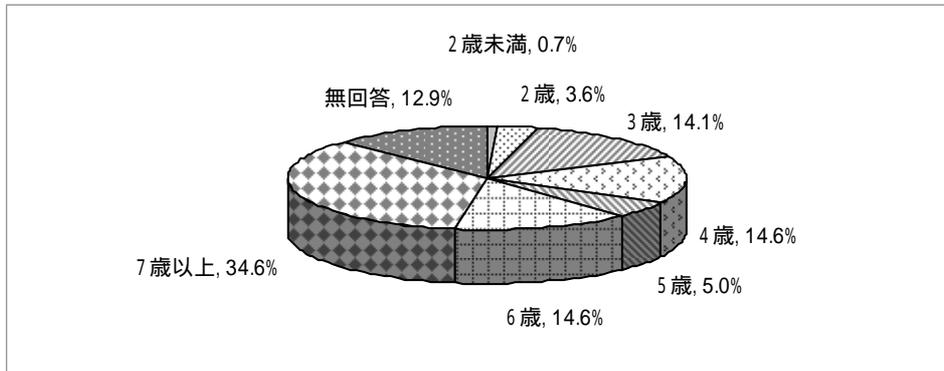


図表 II-29 (家族構成別) 就労希望の有無[N=661]



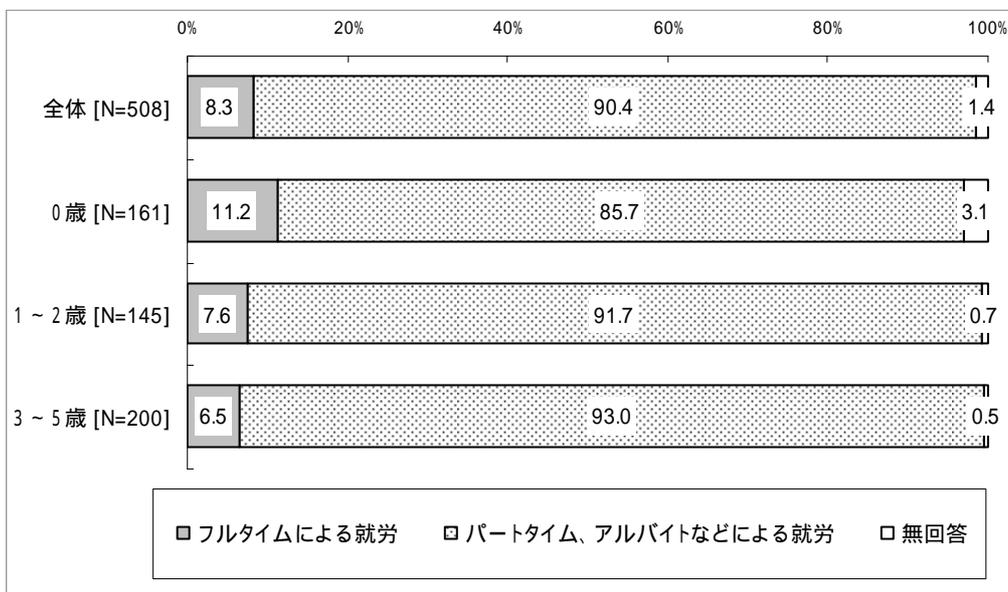
現在、就労していない母親で、就労希望について、「あり（1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい）」と回答した人に、一番小さい子どもが何歳になったときに就労を希望するか聞いたところ、割合の高い順に、「7歳以上」（34.6%）、「6歳」（14.6%）、「3歳」（14.1%）となっています。

図表 II-30 就労を希望するときの子どもの年齢[N=416]



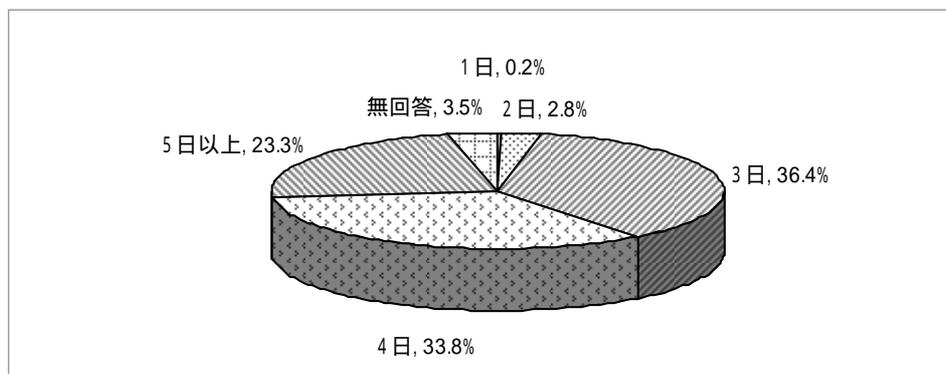
現在、就労していない母親で、就労希望について、「あり（すぐにでも、若しくは1年以内に希望がある）」、「あり（1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい）」と回答した人に、就労希望の形態について聞いたところ、「パートタイム、アルバイトなどによる就労」という人が大半となっており、90.4%となっています。

図表 II-31 就労希望の形態[N=508]



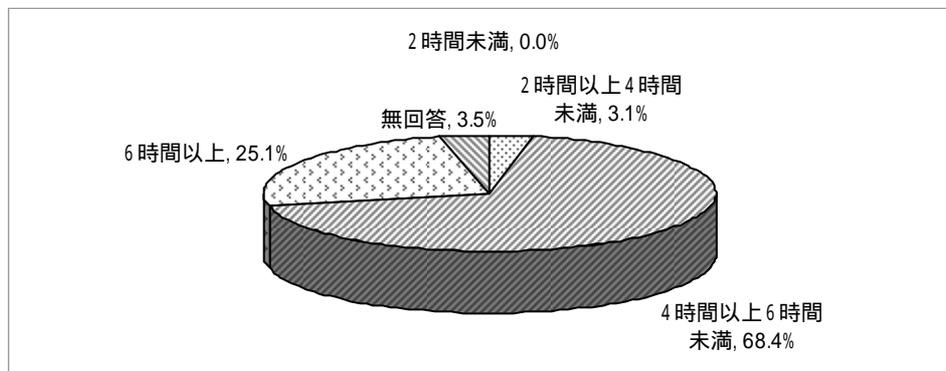
現在、就労していない母親で、「パートタイム、アルバイトなどによる就労」を希望すると回答した人に、希望する1週あたりの就労日数を聞いたところ、割合の高い順に、「3日」(36.4%)、「4日」(33.8%)、「5日以上」(23.3%)となっています。

図表 II-32 パートタイム、アルバイトなどによる就労を希望する母親の1週あたりの就労希望日数
[N=459]



また、希望する1日あたりの就労時間は、「4時間以上6時間未満」の割合が最も高く68.4%、次いで、「6時間以上」の割合が高く25.1%となっています。

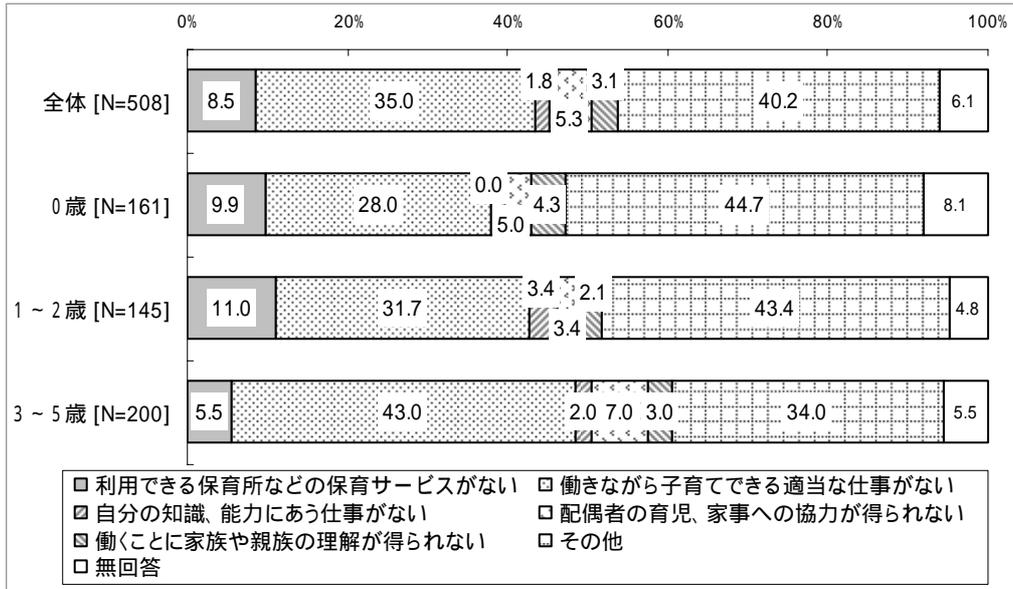
図表 II-33 パートタイム、アルバイトなどによる就労を希望する母親の1日あたりの就労希望時間
[N=459]



就労希望がありながら、現在働いていない母親に、その理由を聞いたところ、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」という人の割合が 35.0%となっています。また、40.2%を占めている「その他」の回答としては、「まだ子どもが小さいため」「今は育児に専念したいため」という回答が多く見られました。

これを年齢別に見ると、年齢が上がるにつれて、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」という人の割合は高くなっています。

図表 II-34 就労希望がありながら、現在働いていない理由[N=508]



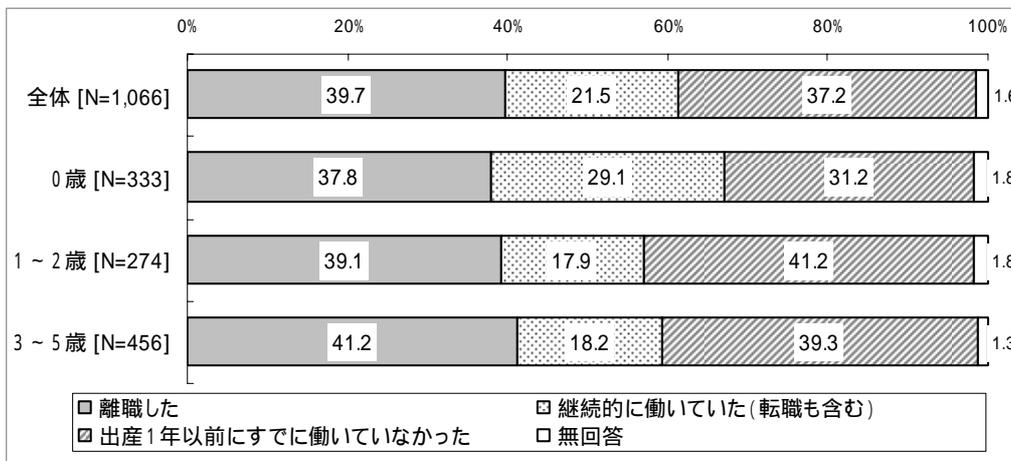
(3) 出産前後の離職

子どもの出産前後に離職をしたか聞いたところ、「離職した」(39.7%)、「出産1年以前にすでに働いていなかった」(37.2%)、「継続的に働いていた(転職も含む)」(21.5%)の順に高い割合となっています。

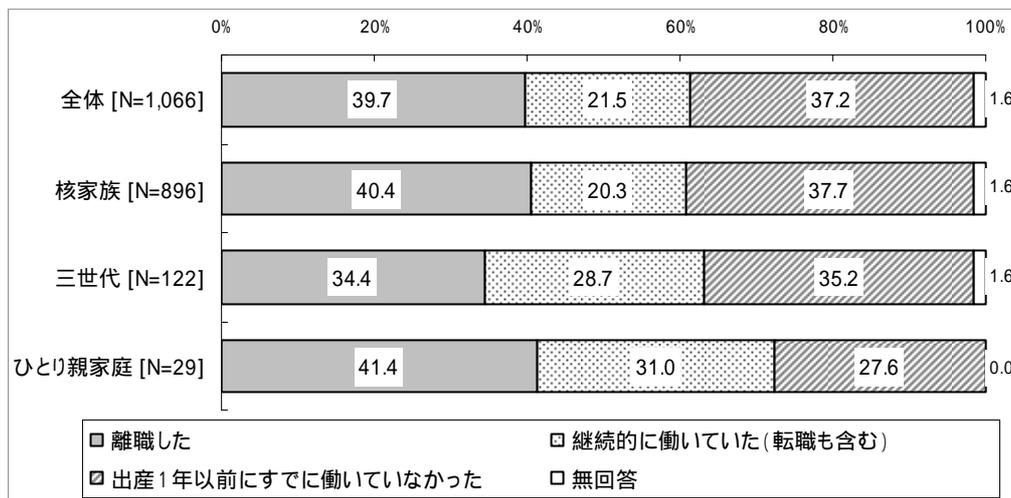
これを年齢別に見ると、0歳で「継続的に働いていた(転職も含む)」という人の割合が高くなっています。

また、家族構成別に見ると、「継続的に働いていた(転職も含む)」という人の割合は、核家族よりも三世代、三世代よりもひとり親家庭で高くなっています。

図表 II-35 子どもの出産前後に離職をしたか[N=1,066]



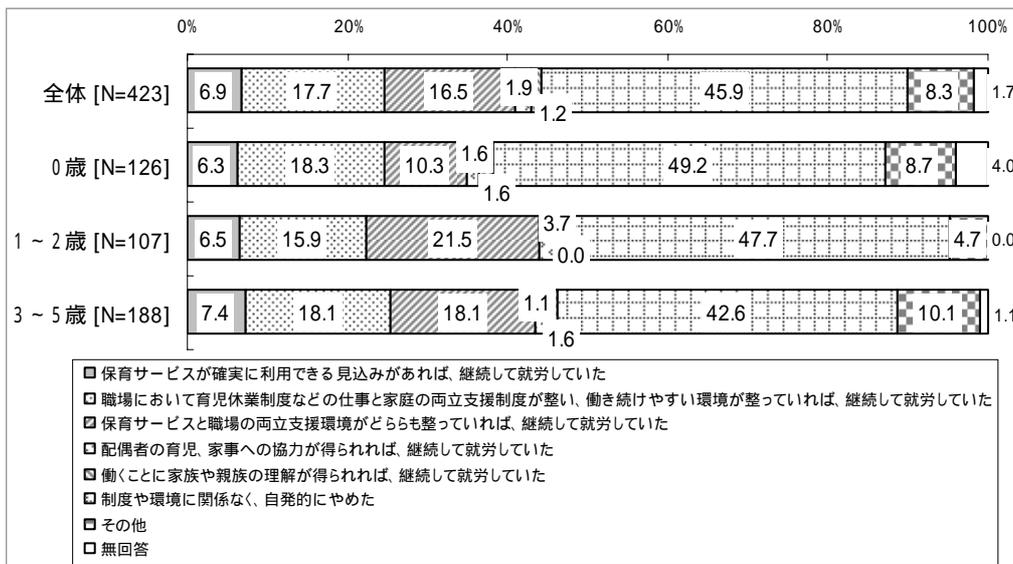
図表 II-36 (家族構成別) 子どもの出産前後に離職をしたか[N=1,066]



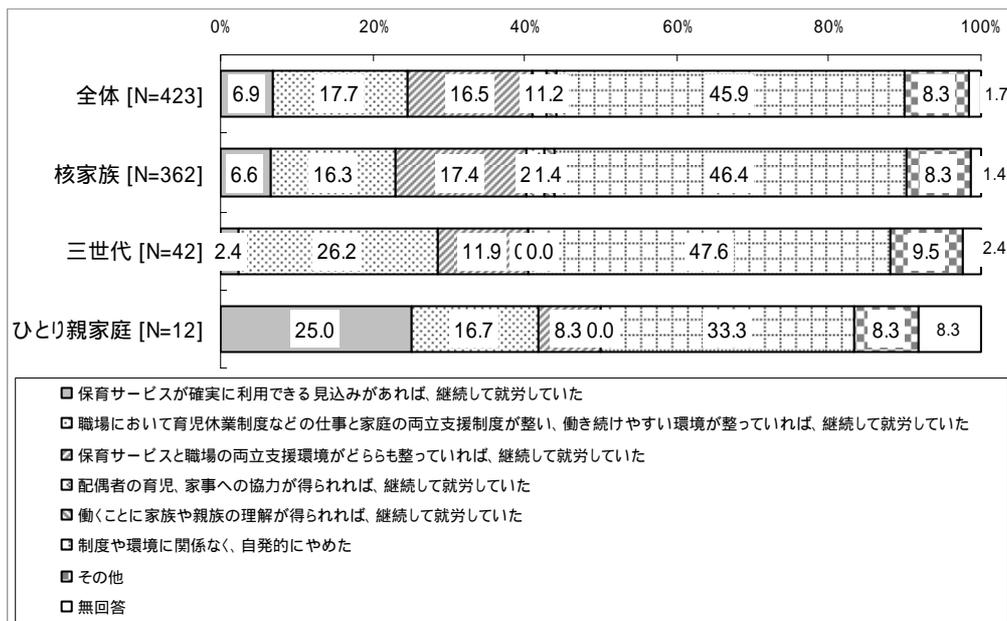
子どもの出産前後に「離職した」と回答した人に、仕事と家庭の両立を支援する保育サービスや環境が整っていたら、就労を継続したか聞いたところ、「制度や環境に関係なく、自発的にやめた」という人の割合が最も高く45.9%となっています。

これを家族構成別に見ると、「保育サービスが確実に利用できる見込みがあれば、継続して就労していた」という人の割合はひとり親家庭で高く、「職場において育児休業制度などの仕事と家庭の両立支援制度が整い、働き続けやすい環境が整っていれば、継続して就労していた」という人の割合は三世代で高くなっています。

図表 II-37 どのような条件が整っていたら、就労を継続したか[N=423]



図表 II-38 (家族構成別) どのような条件が整っていたら、就労を継続したか[N=423]



3. 保育サービスの利用状況と今後の利用希望

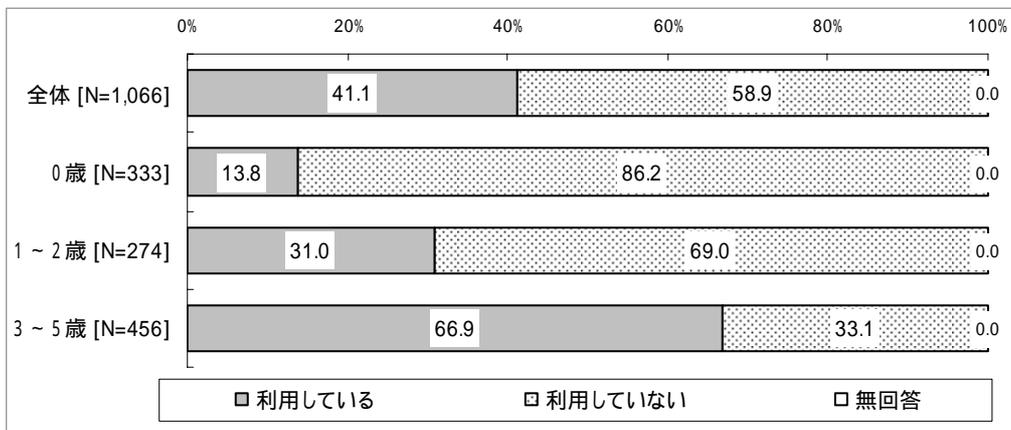
(1) 保育サービスの利用状況

現在の保育サービスを利用の有無については、「利用している」という人が41.1%、「利用していない」という人が58.9%となっています。

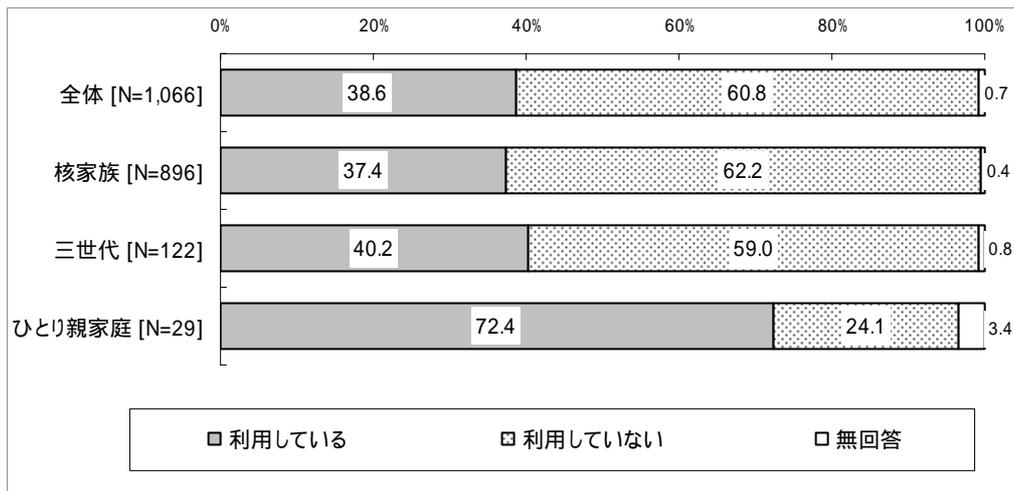
これを年齢別に見ると、年齢が上がるにつれて、「利用している」という人の割合が高くなっています。

また、家族構成別に見ると、ひとり親家庭で「利用している」という人の割合が高くなっています。

図表 II-39 現在、保育サービスを利用しているか[N=1,066]



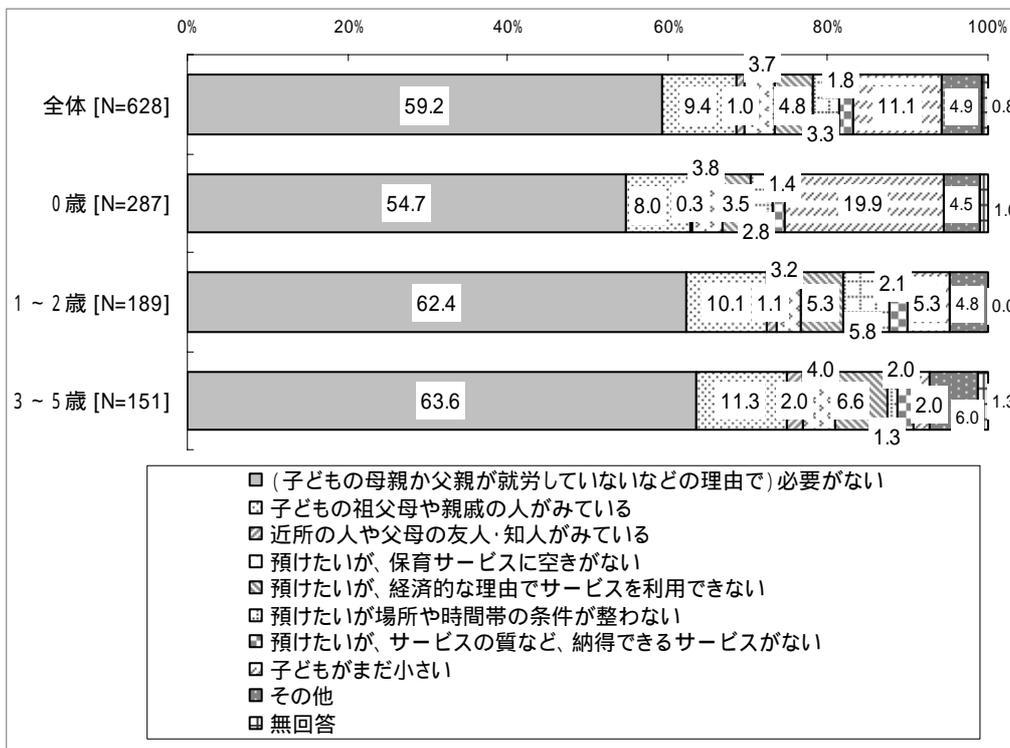
図表 II-40 (家族構成別) 現在、保育サービスを利用しているか[N=1,066]



保育サービスを「利用していない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 必要がない」という人の割合が最も高く59.2%、次いで、「子どもがまだ小さい」という人の割合が高く11.1%となっています。

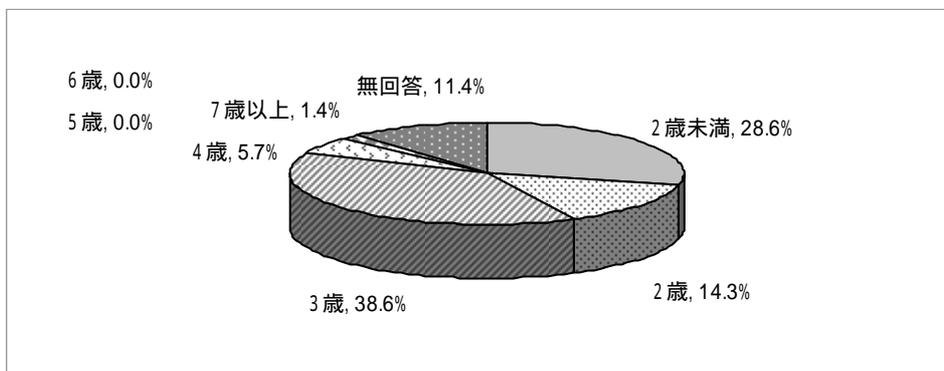
これを年齢別に見ると、「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 必要がない」という人の割合は、年齢が上がるにつれて高くなっています。

図表 II-41 保育サービスを利用していない理由[N=628]



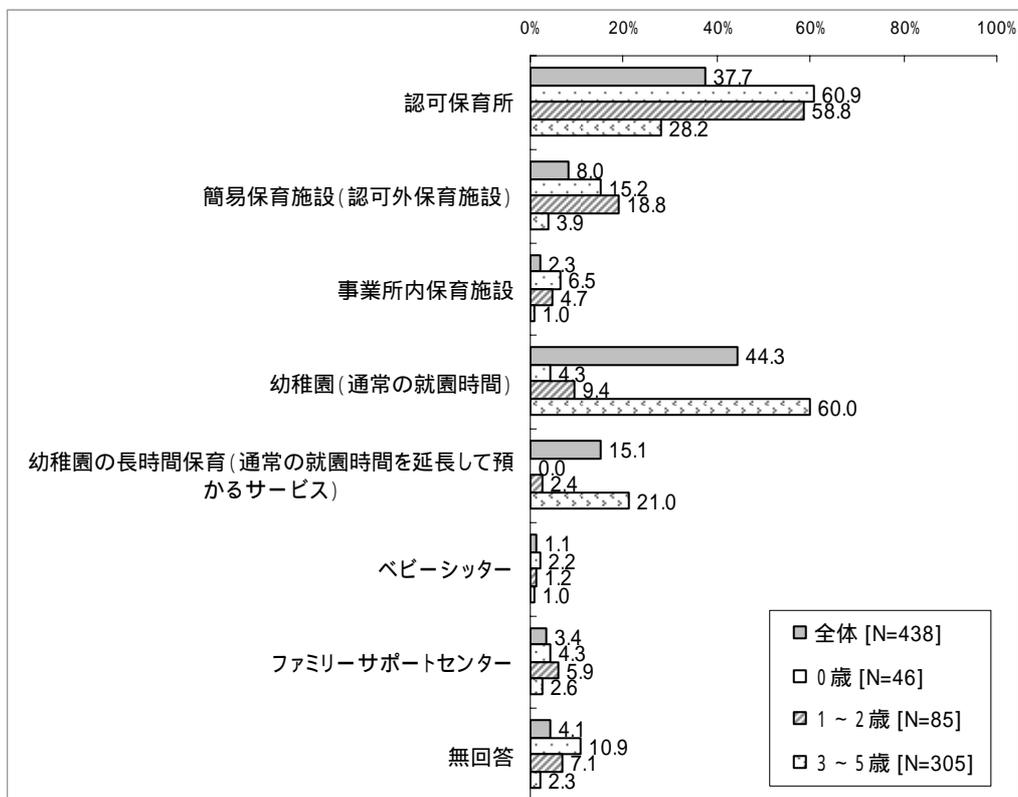
保育サービスを利用していない理由として、「子どもがまだ小さい」と回答した人に、子どもが何歳くらいになったら預けようと考えているか聞いたところ、「3歳(38.6%)」「2歳未満(28.6%)」の順に高い割合となっています。

図表 II-42 預けようと考えている子どもの年齢[N=70]



保育サービスを「利用している」と回答した人に、利用しているサービスを聞いたところ、「幼稚園（通常の就園時間）」（44.3%）、「認可保育所」（37.7%）、「幼稚園の長時間保育（通常の就園時間を延長して預かるサービス）」（15.1%）の順に、高い割合となっています。

図表 II-43 現在、利用している保育サービス[N=438 ; 複数回答]

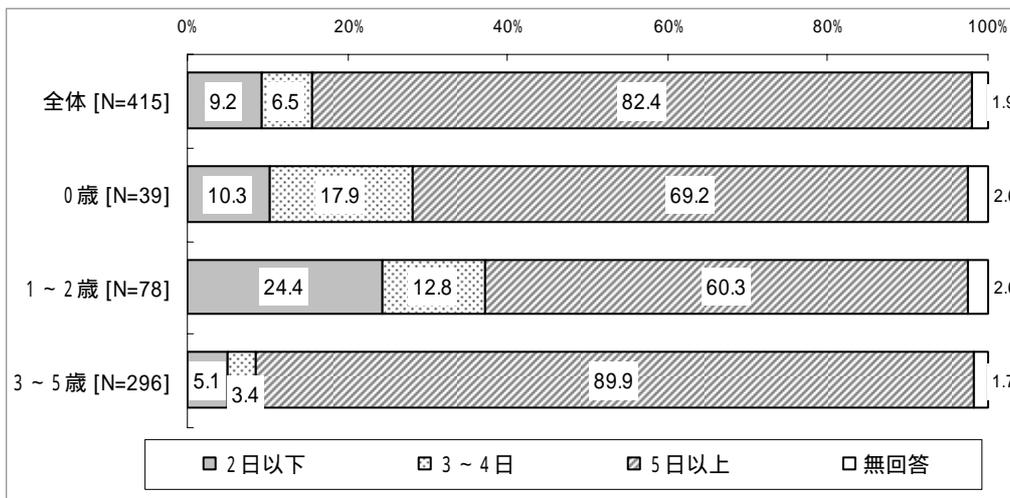


「認可保育所」「簡易保育施設（認可外保育施設）」「事業所内保育施設」「幼稚園（通常の就園時間）」「幼稚園の長時間保育」を利用していると回答した人に、1週あたりの利用日数を聞いたところ、「5日以上」という人の割合が82.4%と最も高くなっています。

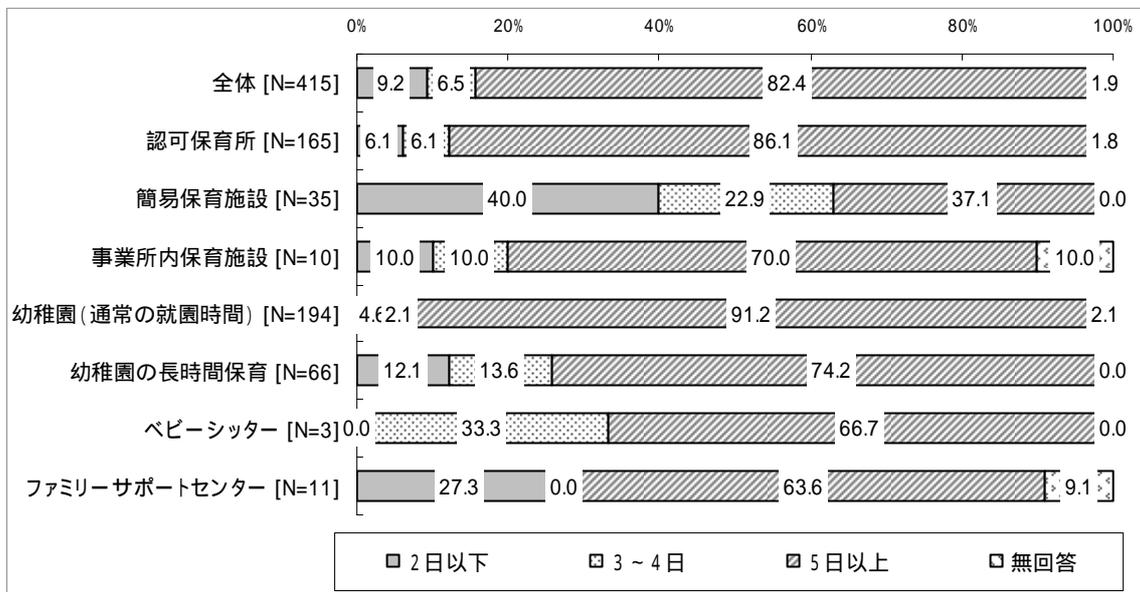
これを年齢別に見ると、「5日以上」の割合は3～5歳で高くなっています。

また、利用サービス別にみると、大半のサービスで「5日以上」という人の割合が最も高くなっているのに対し、「簡易保育施設」では、「2日以下」という人の割合が最も高く、40.0%となっています。

図表 II-44 1週あたりの利用日数[N=415]



図表 II-45 (利用サービス別) 1週あたりの利用日数[N=415]

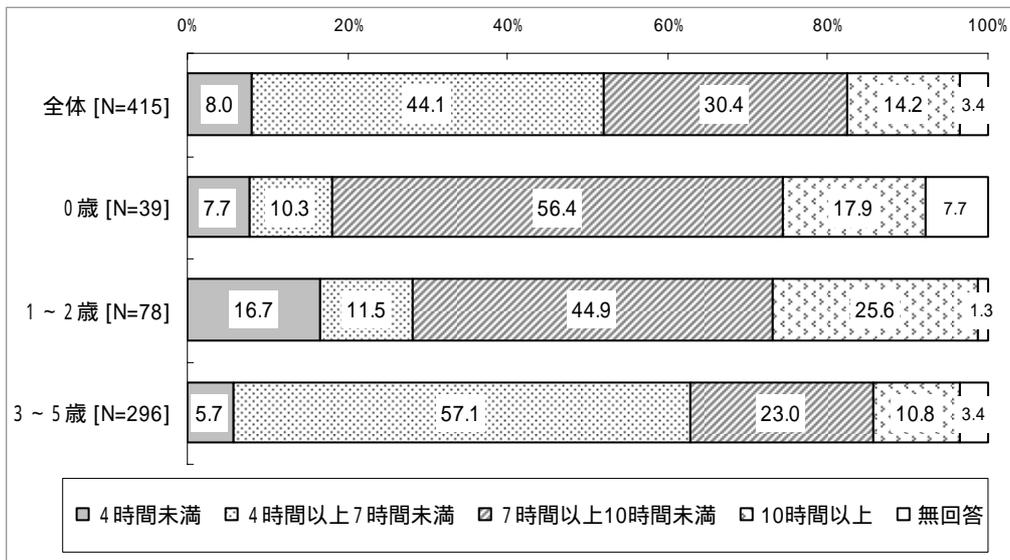


「認可保育所」「簡易保育施設（認可外保育施設）」「事業所内保育施設」「幼稚園（通常の就園時間）」「幼稚園の長時間保育」を利用していると回答した人に、1日あたりの利用時間を聞いたところ、「4時間以上7時間未満」（44.1%）、「7時間以上10時間未満」（30.4%）の順に高い割合となっています。

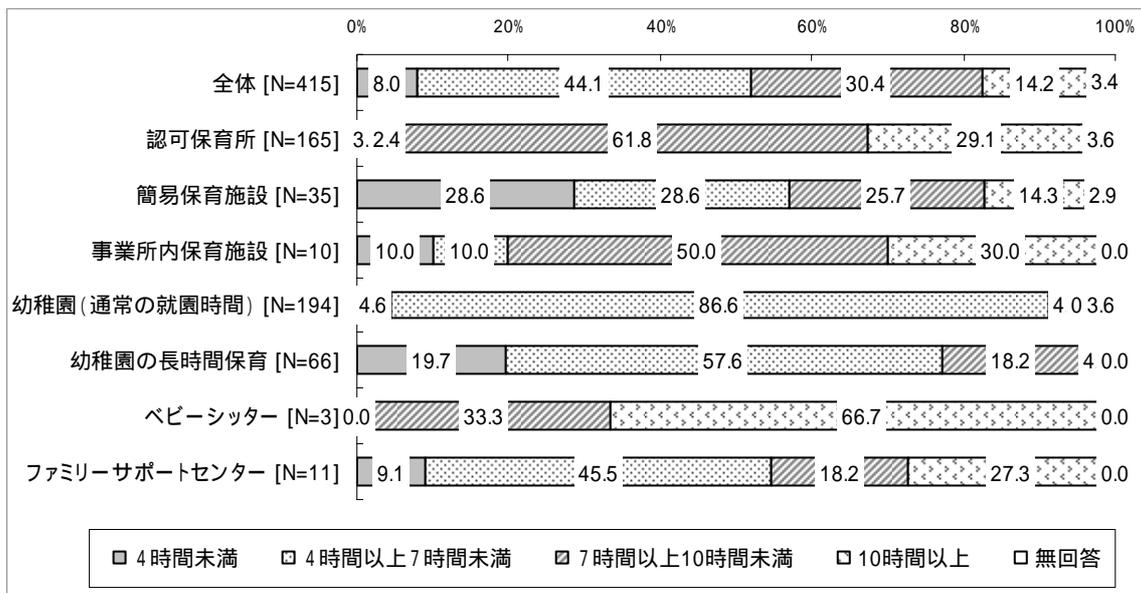
これを年齢別に見ると、年齢が上がるにつれて、時間数は概ね少なくなる傾向があります。

また、利用サービス別に見ると、「認可保育所」や「事業所内保育施設」では、1日あたりの利用時間が長くなっています。

図表 II-46 1日あたりの利用時間[N=415]

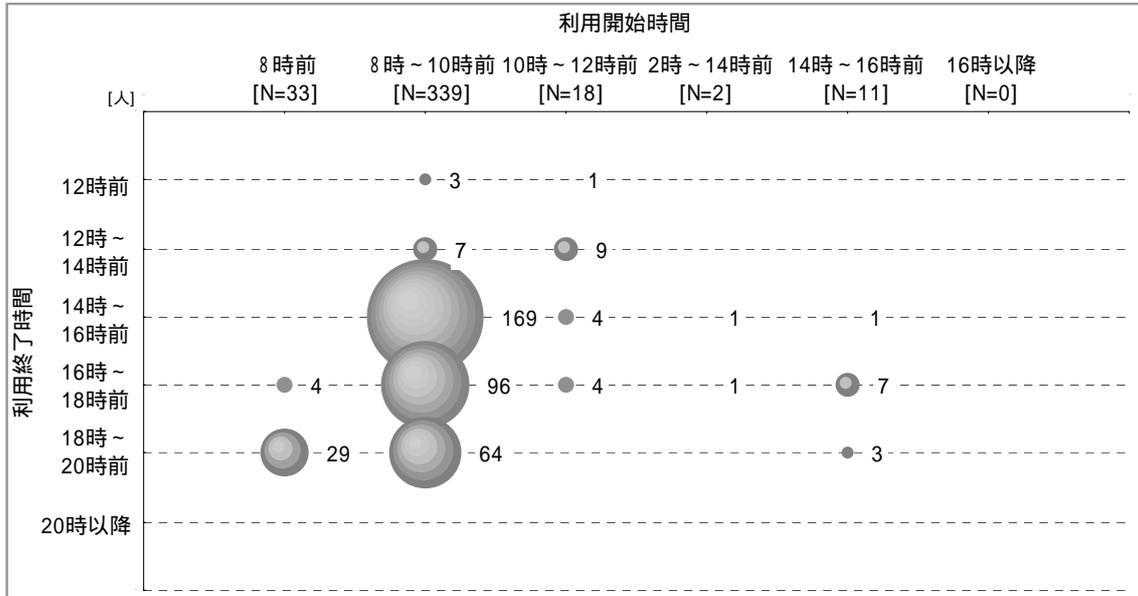


図表 II-47 (利用サービス別) 1日あたりの利用時間[N=415]



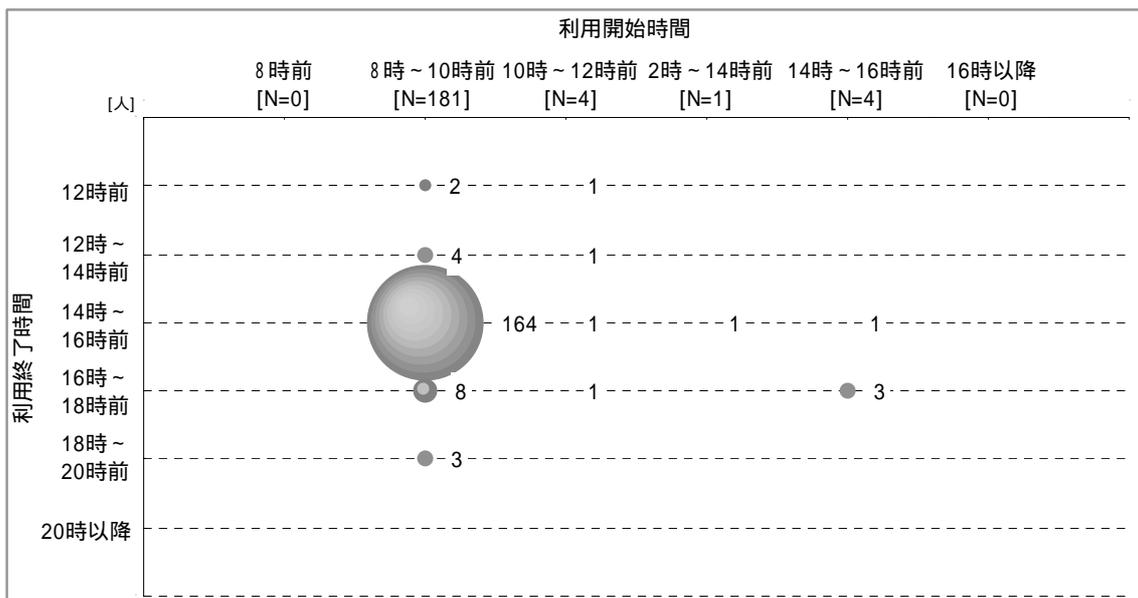
「認可保育所」「簡易保育施設（認可外保育施設）」「事業所内保育施設」「幼稚園（通常の就園時間）」「幼稚園の長時間保育」を利用していると回答した人に、開始時間と終了時間を聞いたところ、開始時間が「8時～10時前」という人が最も多く339人、うち、終了時間が「14～16時前」（169人）、「16時～18時前」（96人）の順に多くなっています。

図表 II-48 保育サービスの開始時間と終了時間[N=403；無回答を除く]



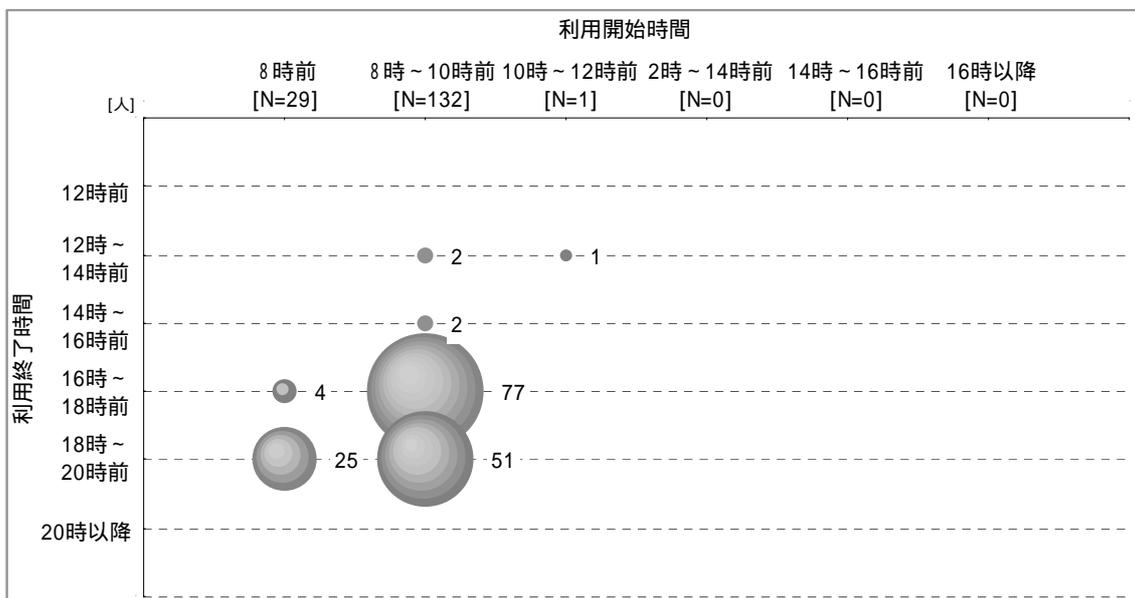
利用している人が多い上位3つのサービスについて、開始時間と終了時間をみると、幼稚園（通常の就園時間）では、開始時間が「8時～10時前」で終了時間が「14～16時前」という人が最も多く164人となっています。

図表 II-49 幼稚園（通常の就園時間）の開始時間と終了時間[N=190；無回答を除く]



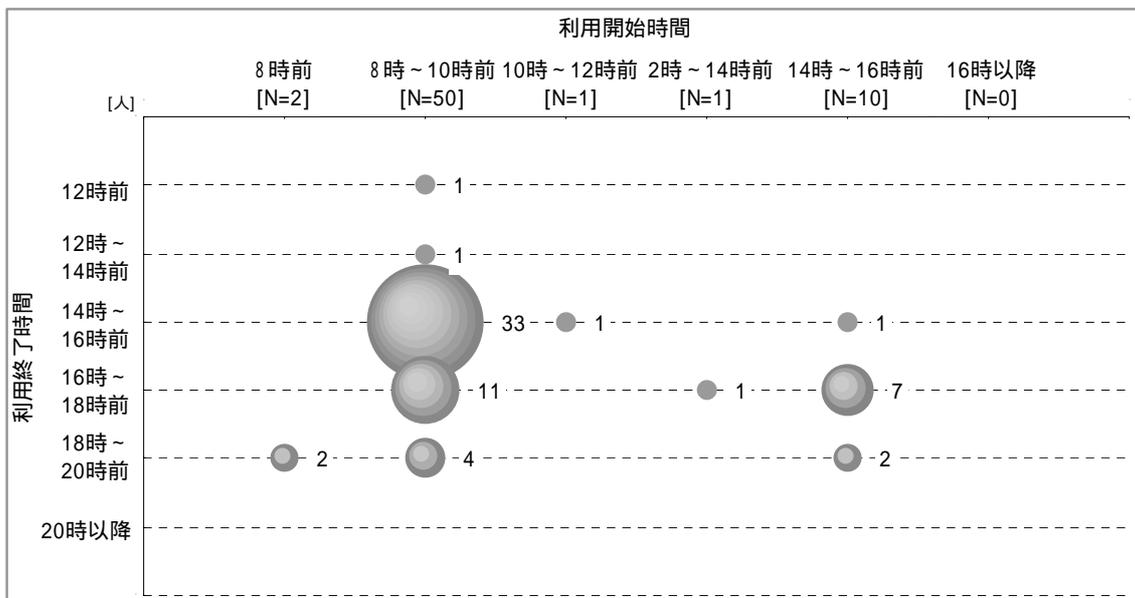
認可保育所では、開始時間が「8時～10時前」という人が最も多く132人、うち終了時間が「16～18時前」(77人)、「18時～20時前」(51人)の順に多くなっています。

図表 II-50 認可保育所の開始時間と終了時間[N=162；無回答を除く]



幼稚園の長時間保育では、開始時間が「8時～10時前」という人が最も多く50人、うち終了時間が「14時～16時前」(33人)、「16～18時前」(11人)の順に多くなっています。

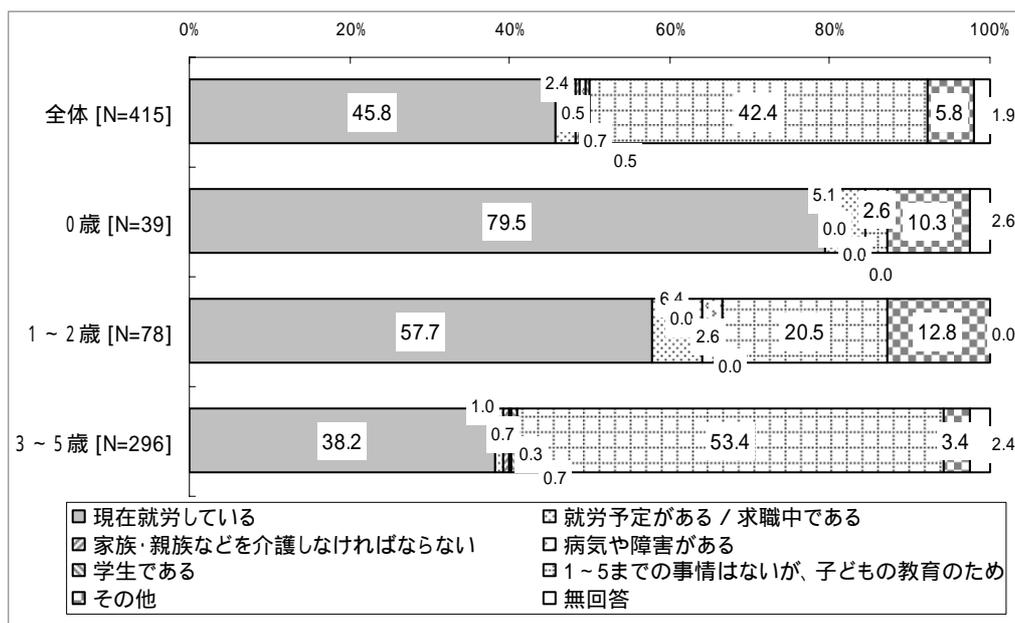
図表 II-51 幼稚園の長時間保育の開始時間と終了時間[N=64；無回答を除く]



「認可保育所」「簡易保育施設（認可外保育施設）」「事業所内保育施設」「幼稚園（通常の就園時間）」「幼稚園の長時間保育」を利用していると回答した人に、利用している理由を聞いたところ、「現在就労している」（45.8%）、「1～5までの事情はないが、子どもの教育のため」（42.4%）の順に高い割合となっています。

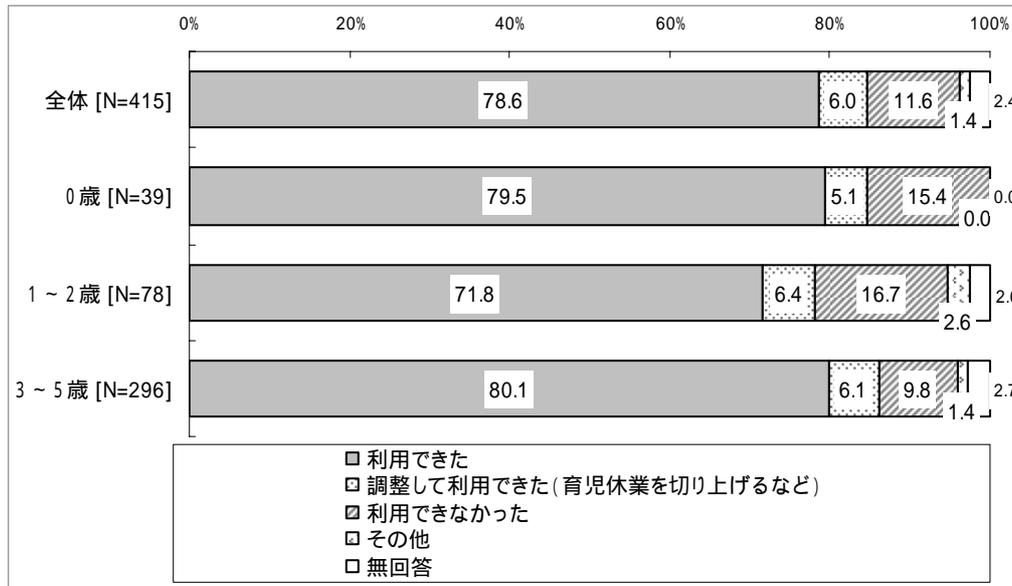
これを年齢別に見ると、年齢が上がるにつれて、「現在就労している」という人の割合は低くなり、「1～5までの事情はないが、子どもの教育のため」という人の割合は高くなっています。

図表 II-52 保育サービスを利用している理由[N=415]



「認可保育所」「簡易保育施設（認可外保育施設）」「事業所内保育施設」「幼稚園（通常の就園時間）」「幼稚園の長時間保育」を利用していると回答した人に、希望した時期に希望した保育サービスを利用することができたか聞いたところ、「利用できた」という人の割合が最も高く 78.6%、次いで、「利用できなかった」という人の割合が高く 11.6%となっています。また、「調整して利用できた」人の調整内容としては、「育児休業を延長した/短くした」という回答が多く見られました。

図表 II-53 希望した時期に、希望した保育サービスを利用することができたか[N=415]

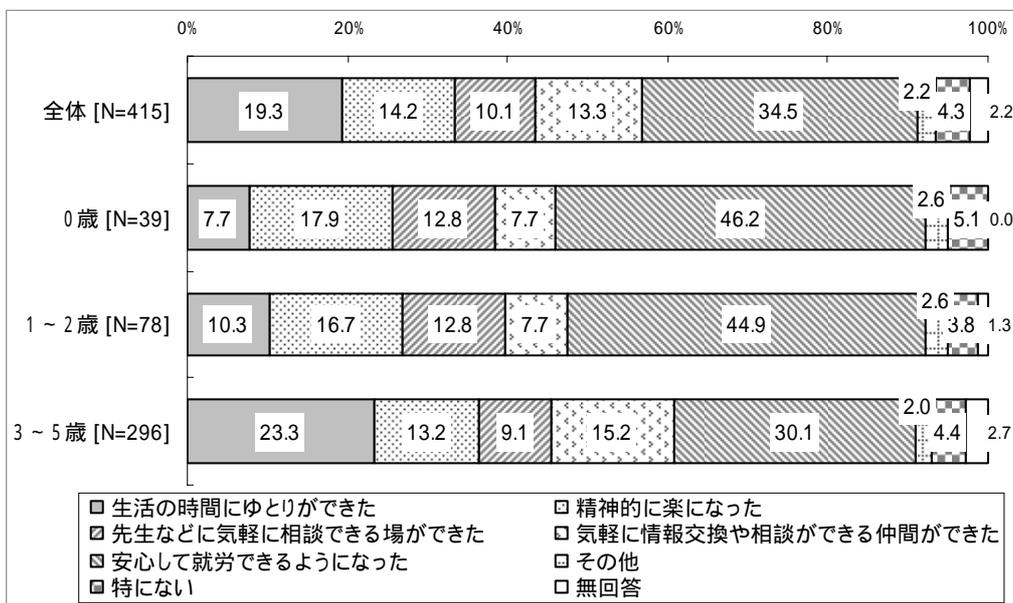


「認可保育所」「簡易保育施設（認可外保育施設）」「事業所内保育施設」「幼稚園（通常の就園時間）」「幼稚園の長時間保育」を利用していると回答した人に、利用してよかったことを聞いたところ、保護者からみてよかったこととしては、「安心して就労できるようになった」（34.5%）、「生活の時間にゆとりができた」（19.3%）、「精神的に楽になった」（14.2%）の順に高い割合となっています。

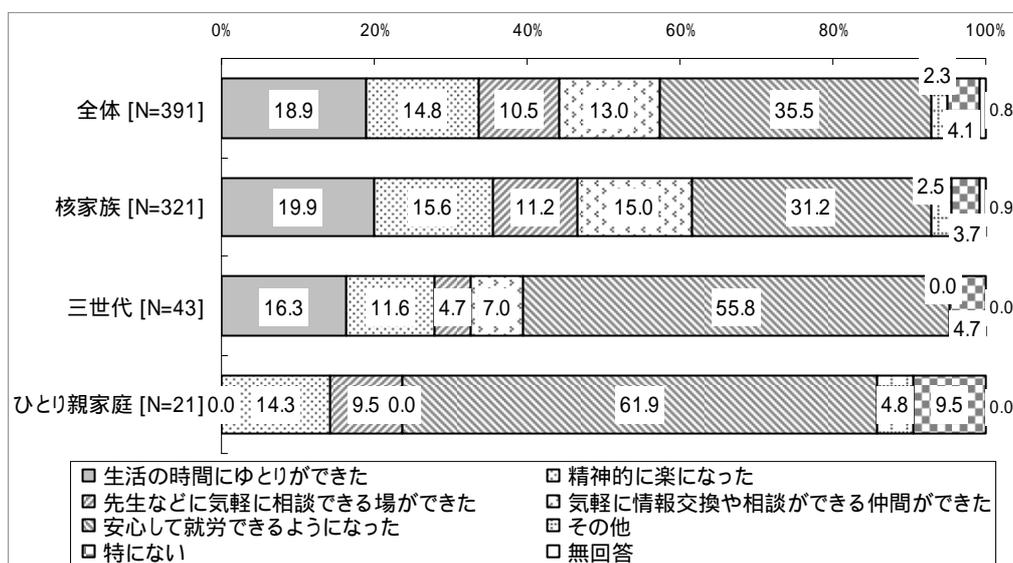
これを年齢別に見ると、年齢が上がるにつれて、「生活の時間にゆとりができた」という人の割合は高くなり、「安心して就労できるようになった」という人の割合は低くなっています。

また、家族構成別に見ると、「安心して就労できるようになった」という人の割合は、核家族よりも三世代、三世代よりもひとり親家庭で高くなっています。

図表 II-54 保護者からみて、利用してよかったこと[N=415]



図表 II-55 （家族構成別）保護者からみて、利用してよかったこと[N=415]

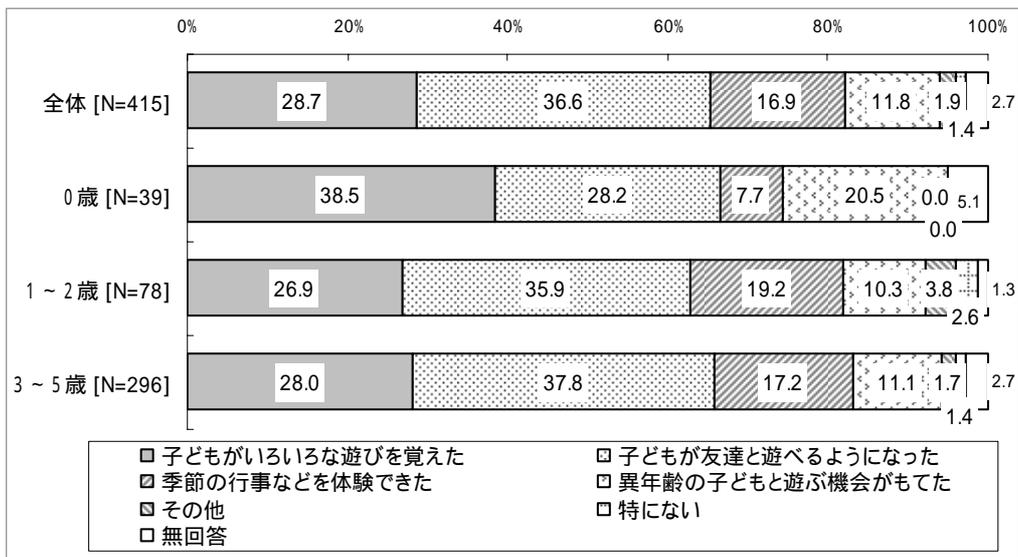


また、子どもからみてよかったこととしては、「子どもが友達と遊べるようになった」(36.6%)、「子どもがいろいろな遊びを覚えた」(28.7%)、「季節の行事などを体験できた」(16.9%)の順に、高い割合となっています。

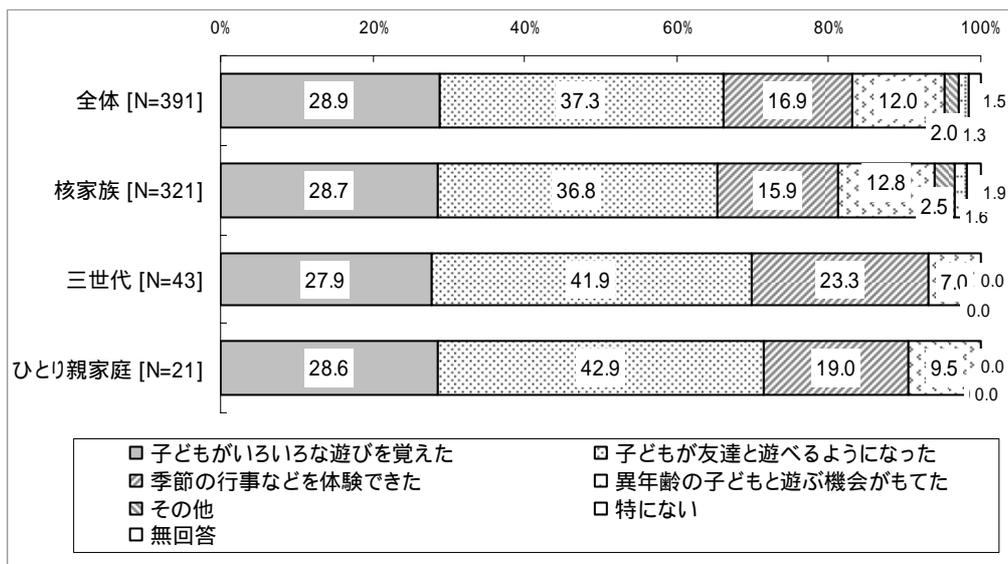
これを年齢別に見ると、「子どもがいろいろな遊びを覚えた」「異年齢の子どもと遊ぶ機会がもてた」という人の割合は0歳で高く、「子どもが友だちと遊べるようになった」「季節の行事などを体験できた」という人の割合は1歳以上で高くなっています。

また、家族構成別に見ると、「季節の行事などを体験できた」という人の割合は三世代で高くなっています。

図表 II-56 子どもからみて、利用してよかったこと[N=415]



図表 II-57 (家族構成別) 子どもからみて、利用してよかったこと[N=415]

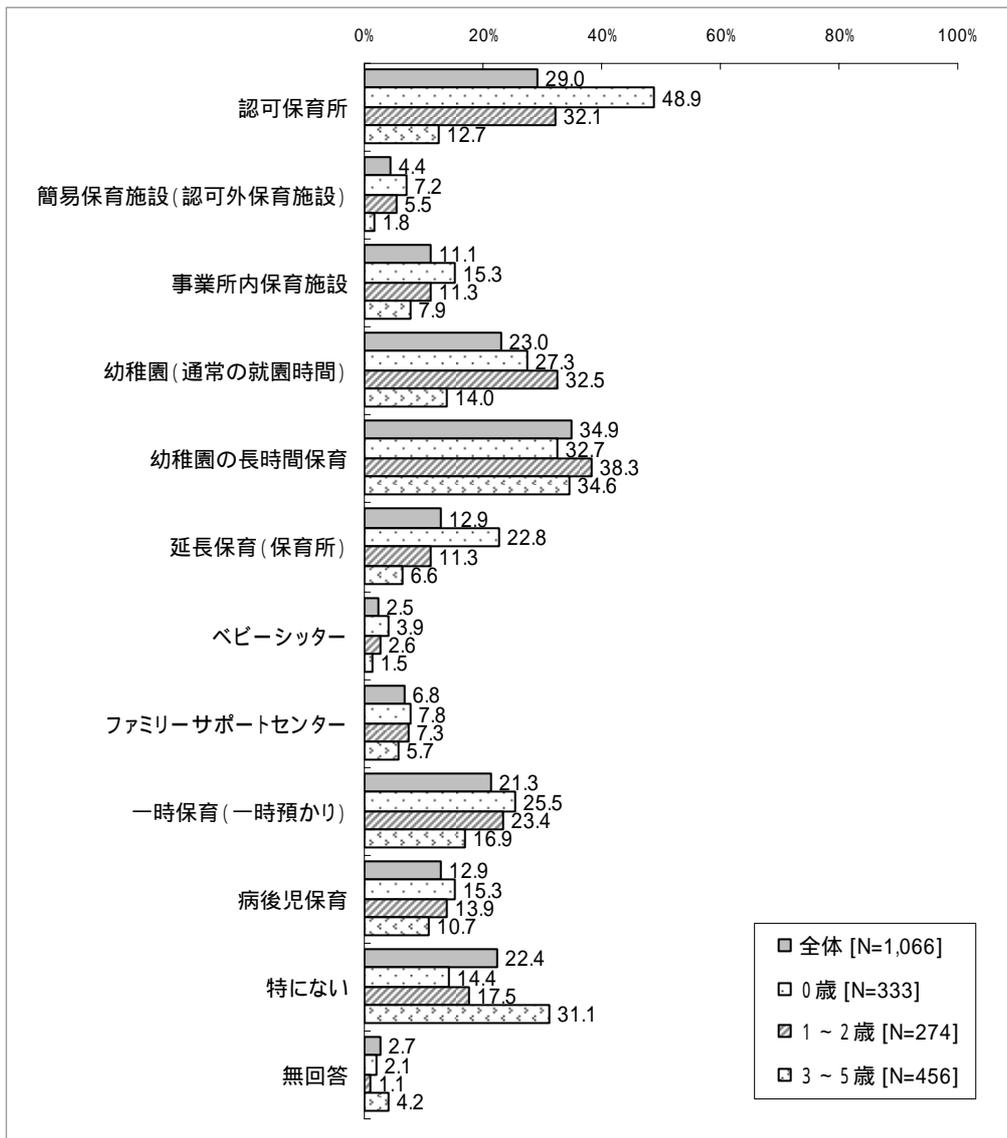


(2) 保育サービスの利用希望

保育サービスの今後の利用希望を聞いたところ、「幼稚園の長時間保育」(34.9%)、「認可保育所」(29.0%)、「幼稚園(通常の就園時間)」(23.0%)の順に高い割合となっています。

これを年齢別に見ると、「延長保育(保育所)」の割合は0歳で高く、「特にない」の割合は3~5歳で高くなっています。

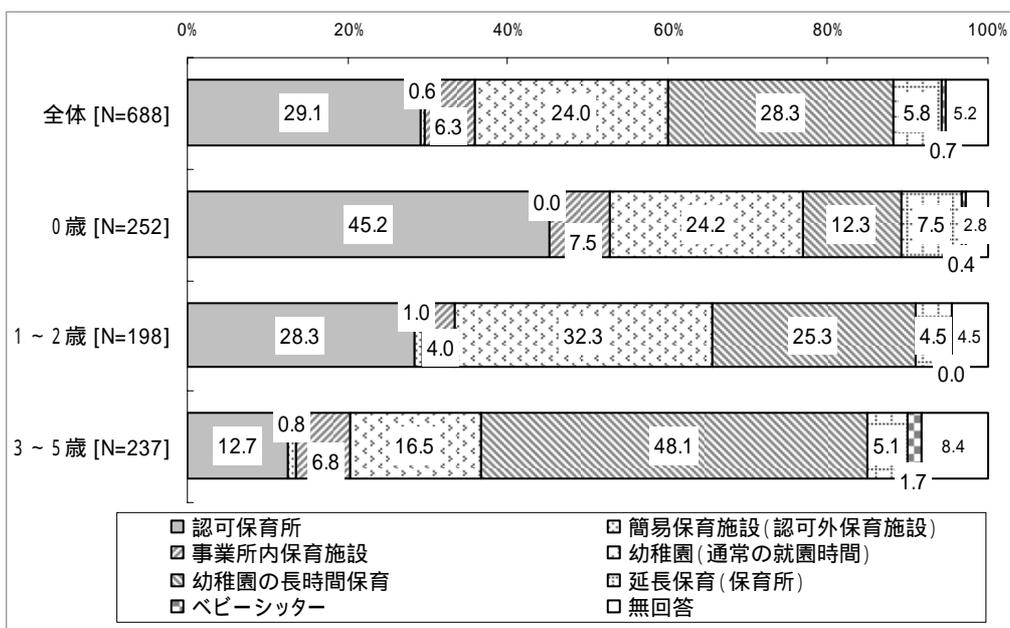
図表 II-58 保育サービスの利用希望[N=1,066 ; 複数回答]



第1希望の保育サービスについて

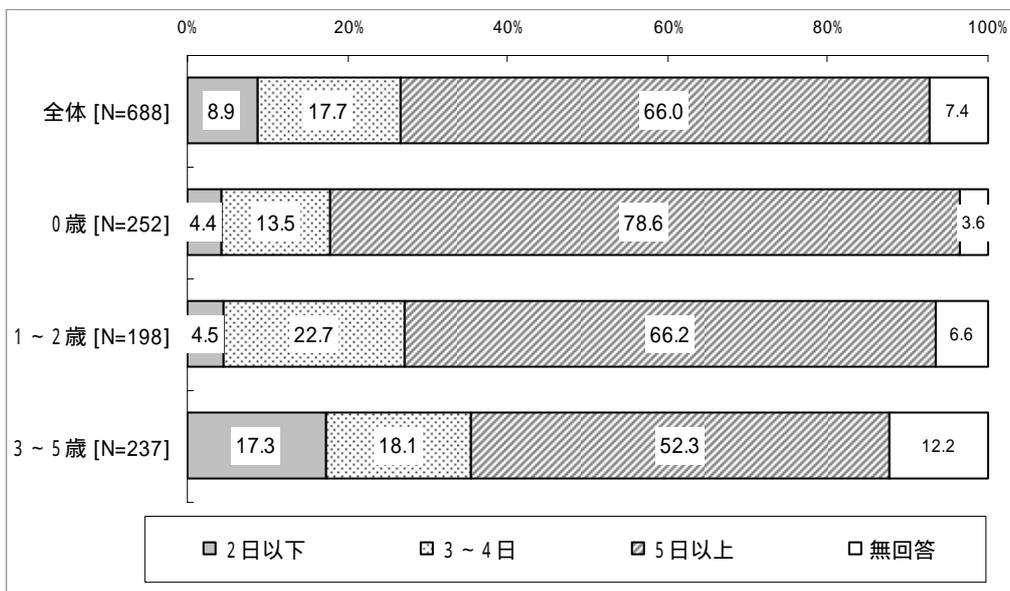
「認可保育所」「簡易保育施設（認可外保育施設）」「事業所内保育施設」「幼稚園（通常の就園時間）」「幼稚園の長時間保育」「ベビーシッター」の利用希望があると回答した人に、第1希望の保育サービスを聞いたところ、「認可保育所」（29.1%）、「幼稚園の長時間保育」（28.3%）、「幼稚園（通常の就園時間）」（24.0%）の順に高い割合となっています。

図表 II-59 第1希望の保育サービス[N=688]



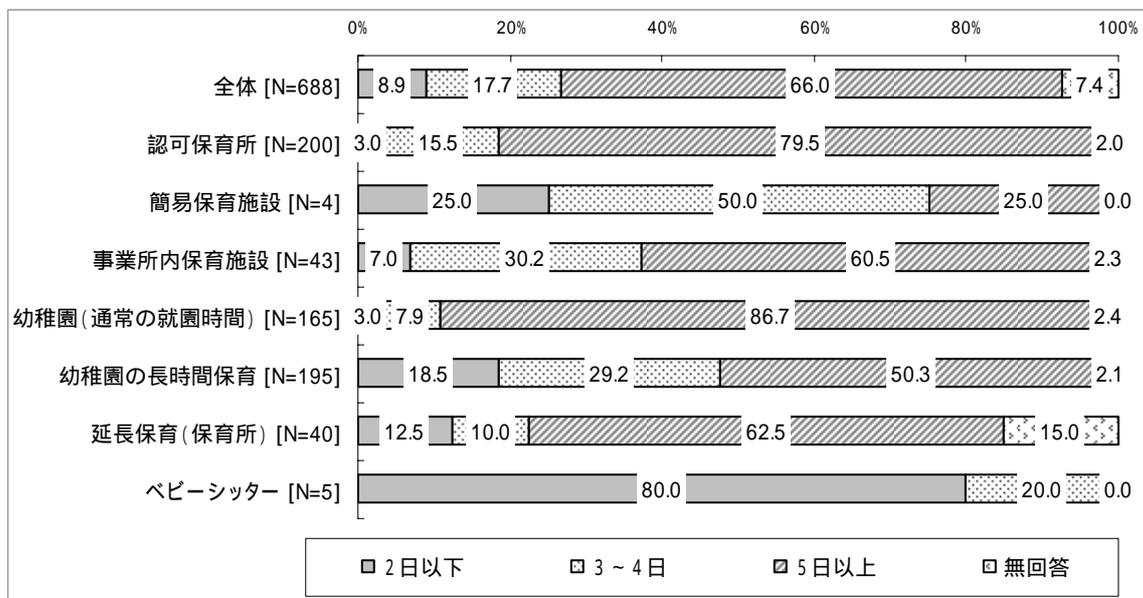
第1希望の保育サービスについて、1週あたりの利用希望日数を聞いたところ、「5日以上」という人の割合が最も高く66.0%、次いで「3~4日」という人の割合が高く17.7%となっています。

図表 II-60 第1希望の保育サービスの1週あたりの利用希望日数[N=688]



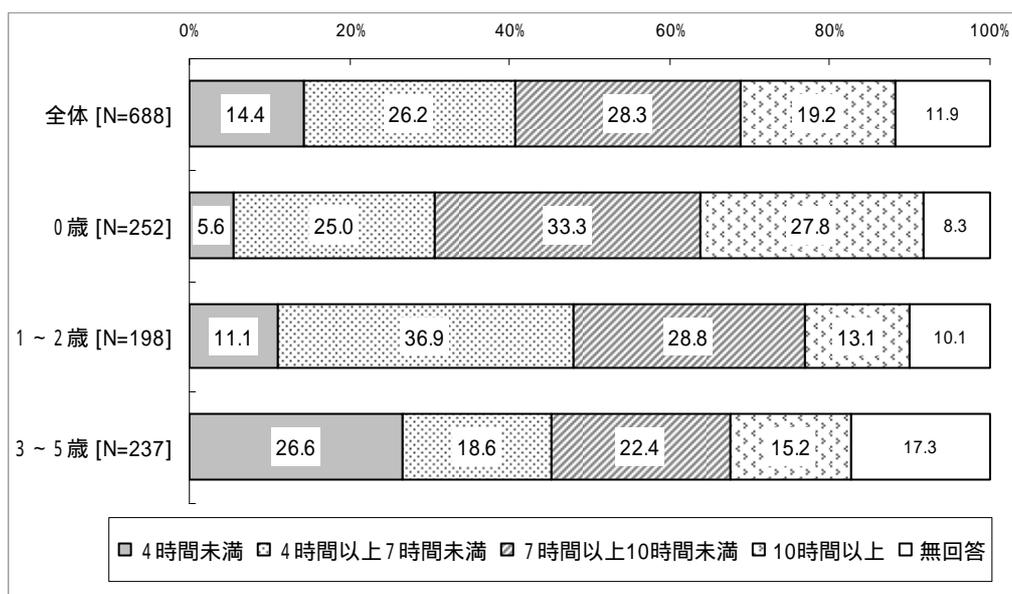
1週あたりの利用希望日数を、第1希望のサービス別に見ると、大半のサービスでは、「5日以上」という人の割合が最も高くなっているのに対し、「簡易保育施設」では、「3～4日」という人の割合が最も高く、50.0%となっています。また、「事業所内保育施設」や「幼稚園の長時間保育」においても、他のサービスと比べて、「3～4日」という人の割合が高く、約3割となっています。

図表 II-61 (第1希望サービス別) 1週あたりの利用希望日数[N=688]



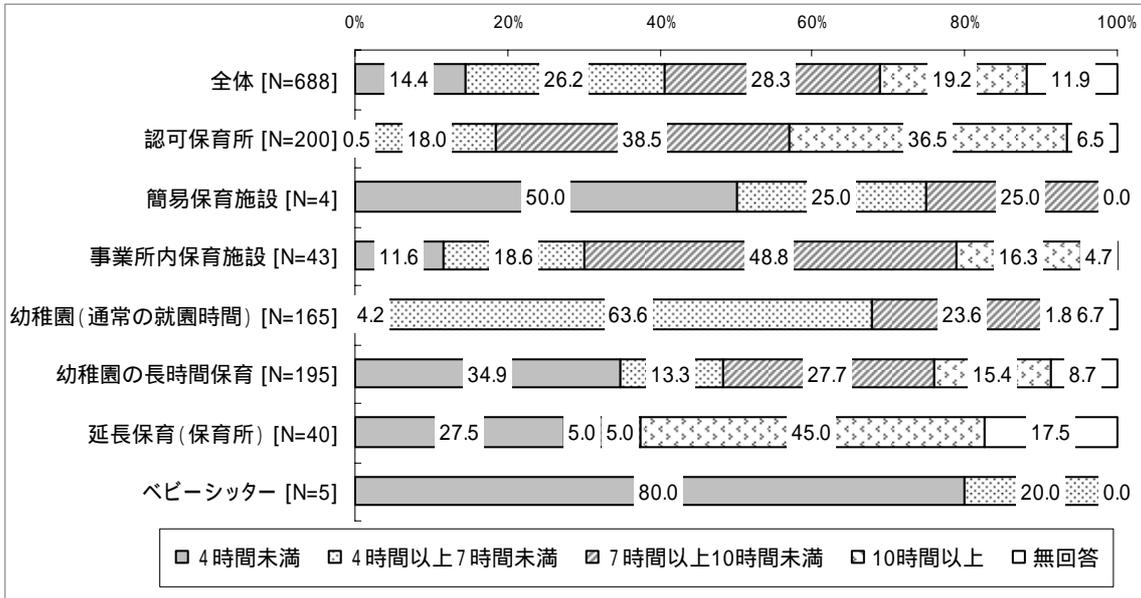
また、第1希望の保育サービスの1日あたりの利用希望時間は、「7時間以上10時間未満」(28.3%)、「4時間以上7時間未満」(26.2%)の順に高い割合となっています。

図表 II-62 第1希望の保育サービスの1日あたりの利用希望時間[N=686]



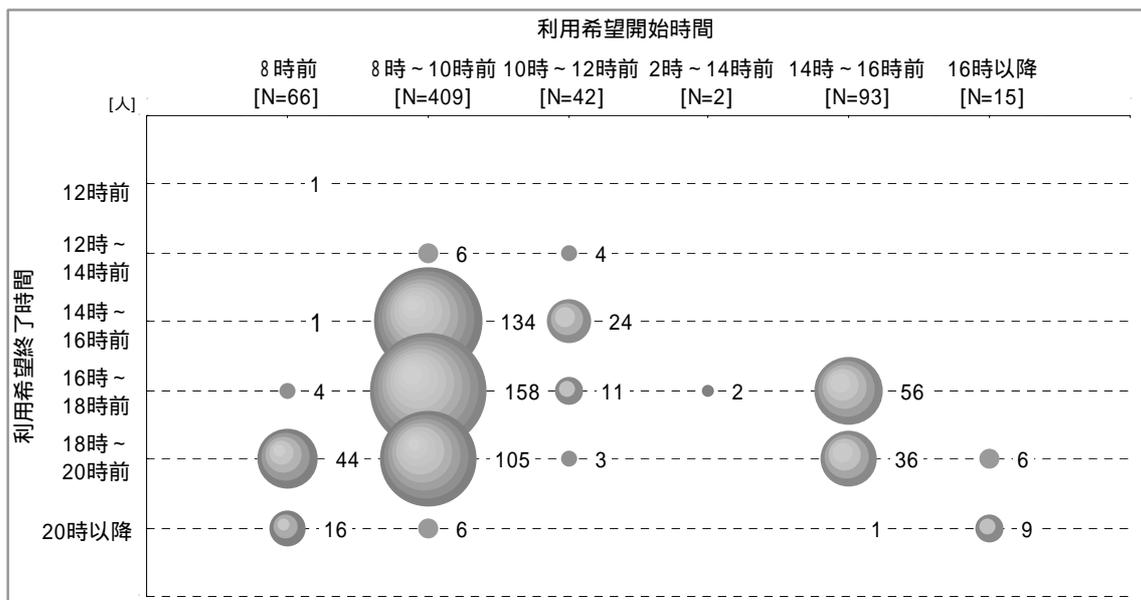
1日あたりの利用希望時間を、第1希望のサービス別に見ると、「認可保育所」「事業内保育施設」「延長保育(保育所)」では、利用希望時間が長くなっています。

図表 II-63 (第1希望サービス別) 1日あたりの利用希望時間[N=686]



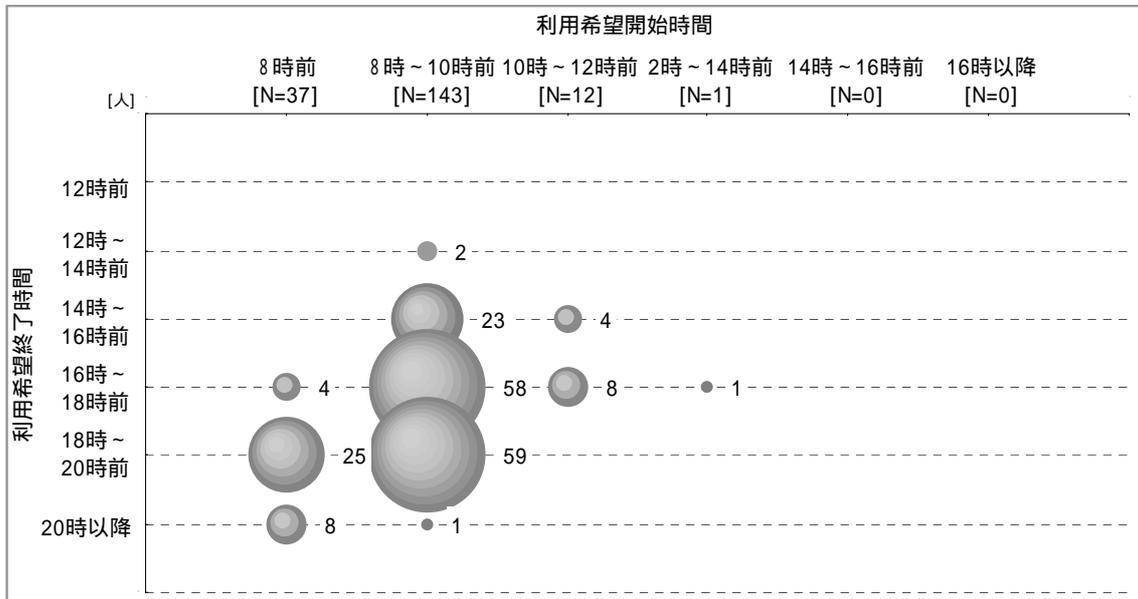
第1希望の保育サービスについて、希望する利用開始時間と終了時間を聞いたところ、開始時間は、「8時～10時前」という人が最も多く409人、うち、終了時間が、「16時～18時前」(158人)、「14時～16時前」(134人)、「18時～20時前」(105人)の順に多くなっています

図表 II-64 第1希望の保育サービスの利用希望開始時間と終了時間[N=627; 無回答を除く]



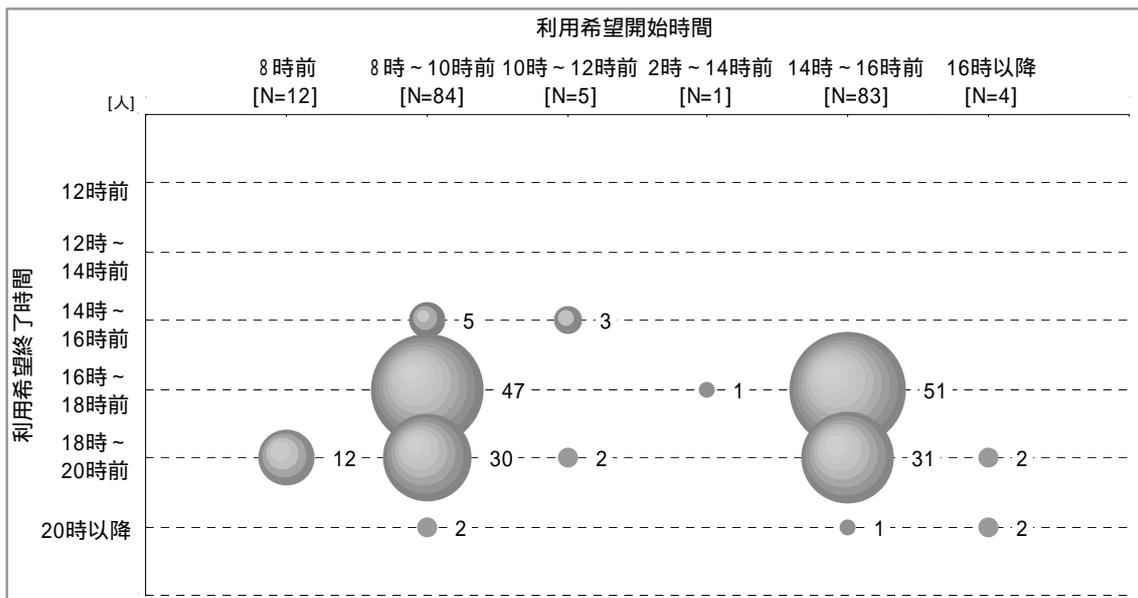
利用を希望する人が多い上位3つの第1希望サービスについて、開始時間と終了時間をみると、認可保育所では、開始時間が「8時～10時前」という人が最も多く143人、うち、終了時間が「18時～20時前」(59人)、「16～18時前」(58人)の順に多くなっています。

図表 II-65 認可保育所の利用希望開始時間と終了時間[N=193；無回答を除く]



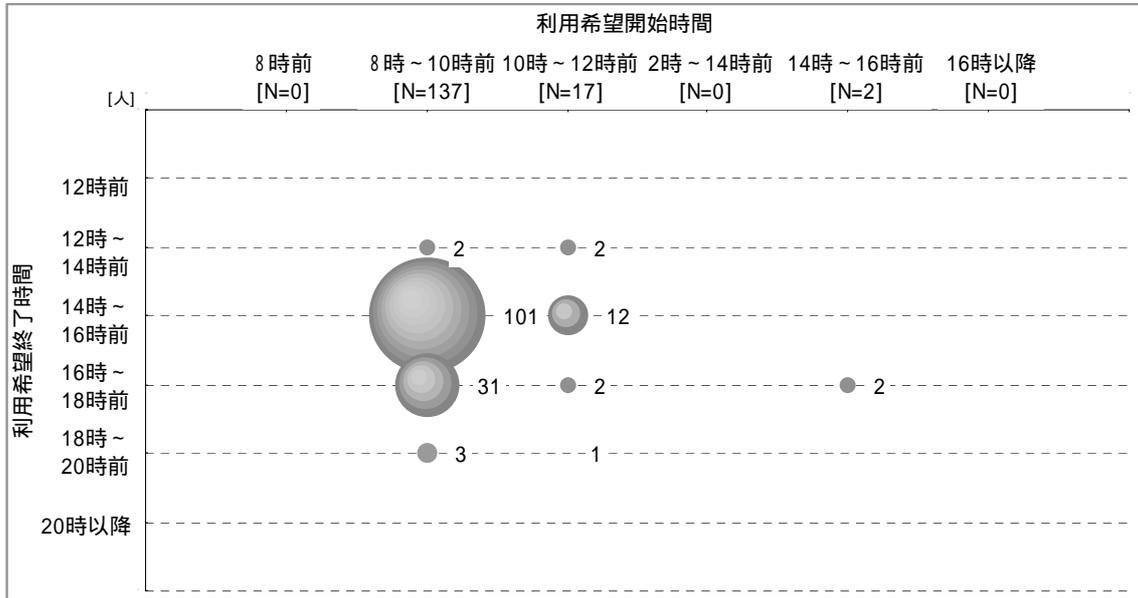
幼稚園の長時間保育では、開始時間が「14時～16時前」で終了時間が「16時～18時前」という人が51人、開始時間が「8時～10時前」で終了時間が「16時～18時前」という人が47人と、多くなっています。

図表 II-66 幼稚園の長時間保育の利用希望開始時間と終了時間[N=189；無回答を除く]



幼稚園（通常の就園時間）では、開始時間が「8時～10時前」で終了時間が「14時～16時前」という人が最も多く101人となっています。

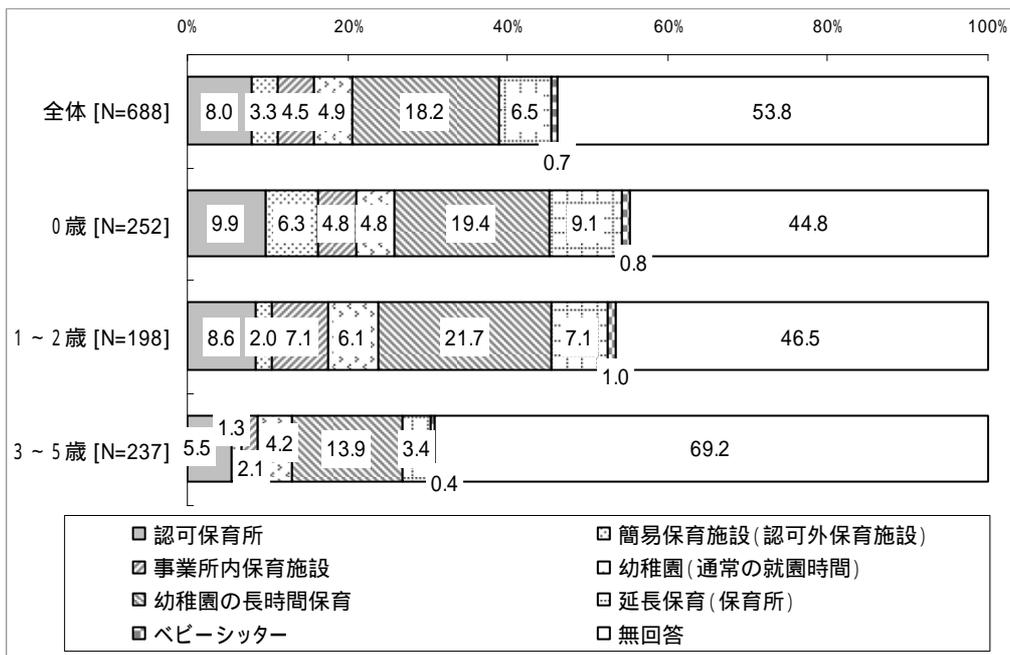
図表 II-67 幼稚園（通常の就園時間）の利用希望開始時間と終了時間[N=156；無回答を除く]



第2希望の保育サービスについて

「認可保育所」「簡易保育施設（認可外保育施設）」「事業所内保育施設」「幼稚園（通常の就園時間）」「幼稚園の長時間保育」「ベビーシッター」の利用希望があると回答した人に、第2希望の保育サービスを聞いたところ、「幼稚園の長時間保育」（18.2%）、「認可保育所」（8.0%）、「延長保育（保育所）」（6.5%）の順に高い割合となっています。

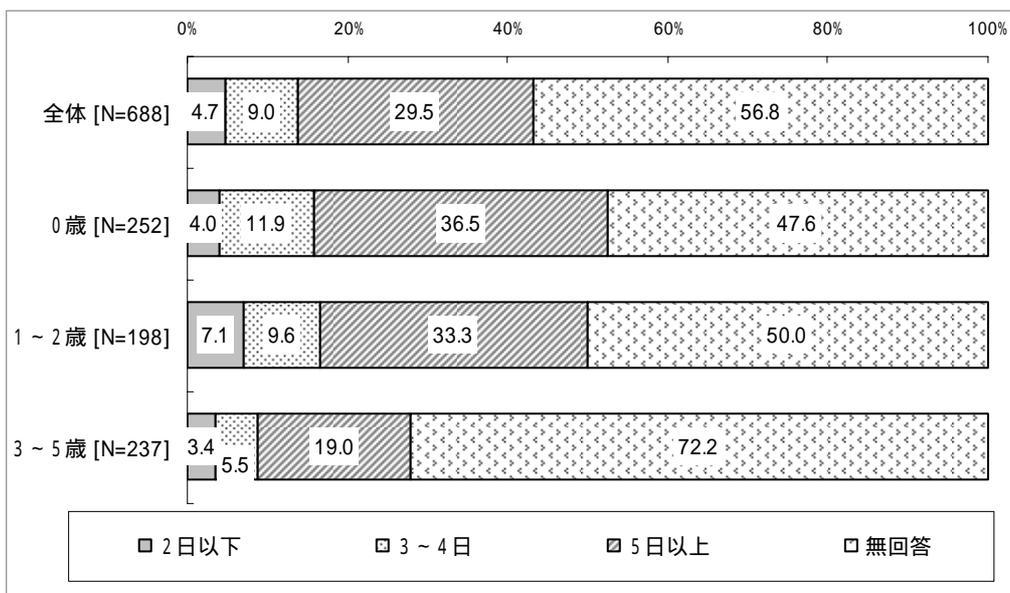
図表 II-68 第2希望の保育サービス[N=688]



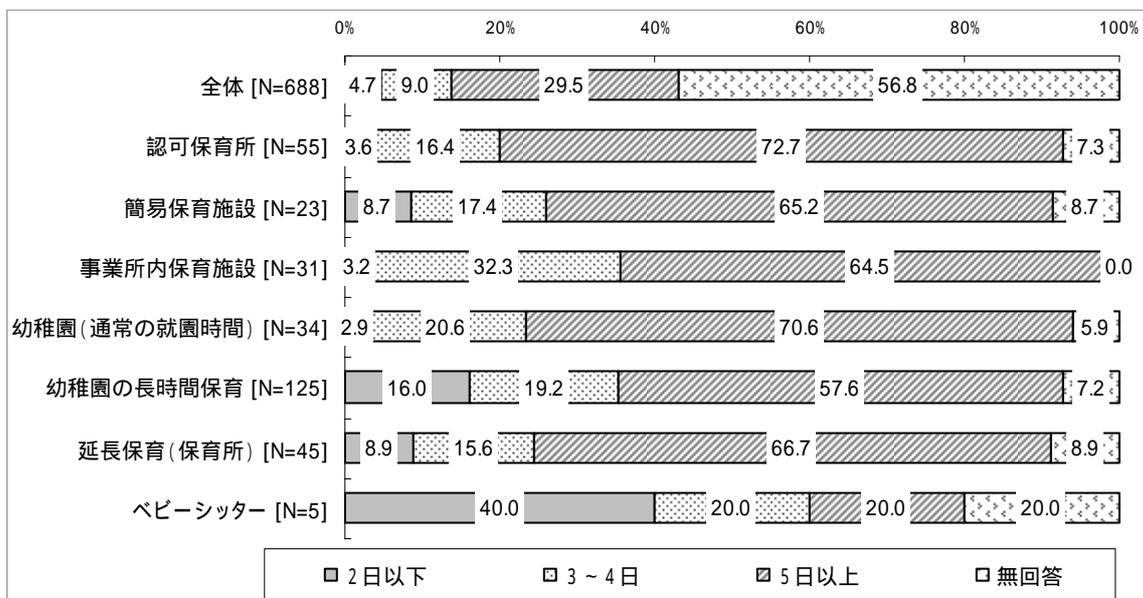
第2希望の保育サービスについて、1週あたりの利用希望日数を聞いたところ、「5日以上」(29.5%)、「3～4日」(9.0%)の順に高い割合となっています。

第2希望のサービス別にみると、大半のサービスで、「5日以上」という人の割合が最も高くなっています。「幼稚園の長時間保育」では、「2日以下」という人の割合が他のサービスに比べて高く、「事業所内保育施設」では、「3～4日」という人の割合が他のサービスに比べて高くなっています。

図表 II-69 第2希望の保育サービスの1週あたりの利用希望日数[N=688]



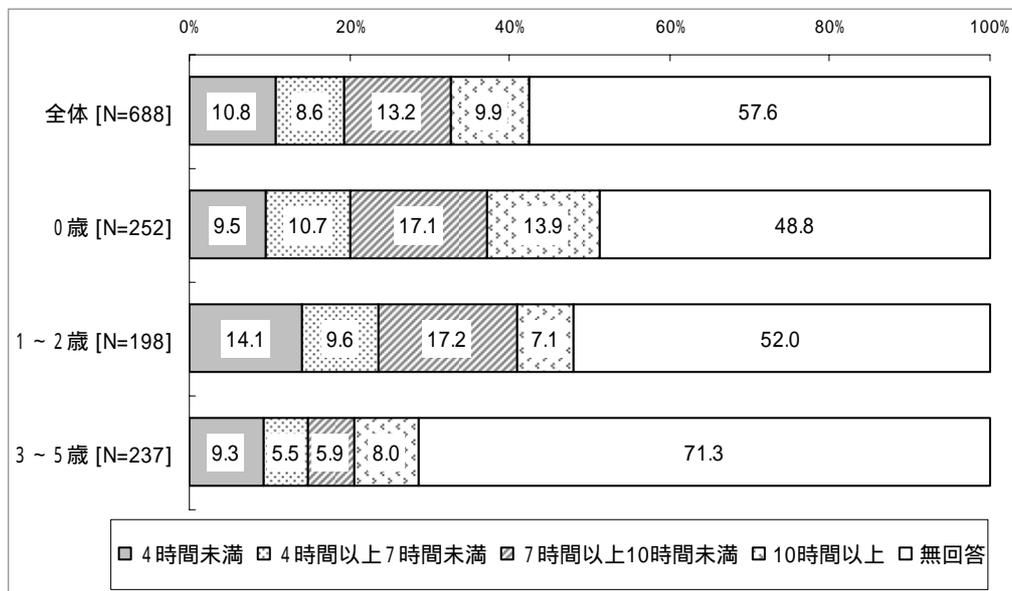
図表 II-70 (第2希望サービス別) 1週あたりの利用希望日数[N=688]



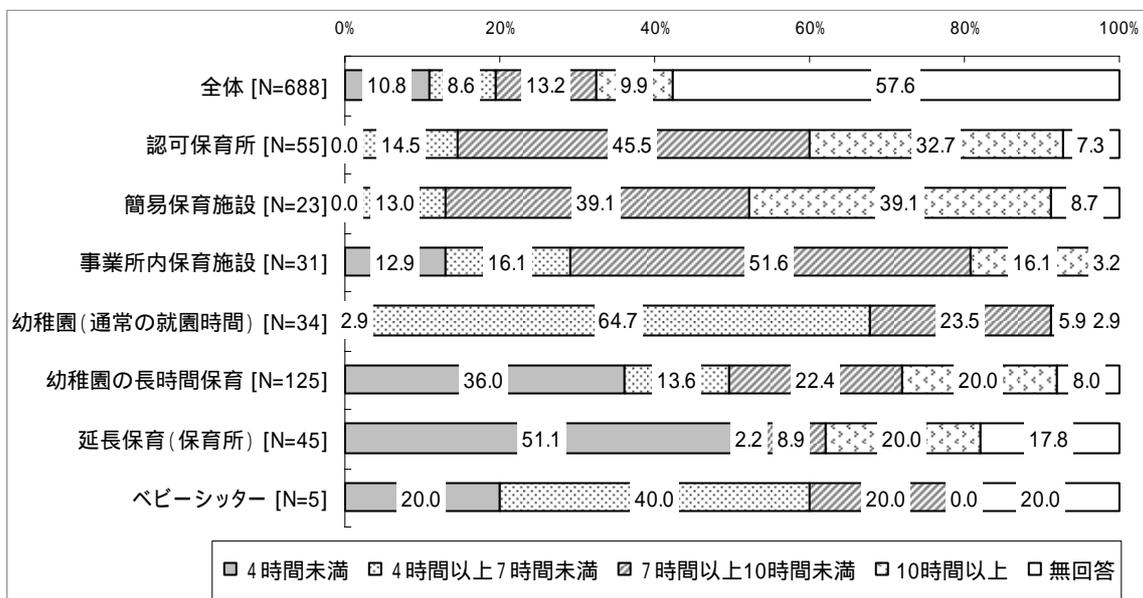
また、第2希望の保育サービスの1日あたりの利用希望時間は、「7時間以上10時間未満」(13.2%)、「4時間未満」(10.8%)の順に高い割合となっています。

第2希望のサービス別に見ると、「認可保育所」「簡易保育施設」「事業所内保育施設」では、利用希望時間が長くなっています。

図表 II-71 第2希望の保育サービスの1日あたりの利用希望時間[N=688]

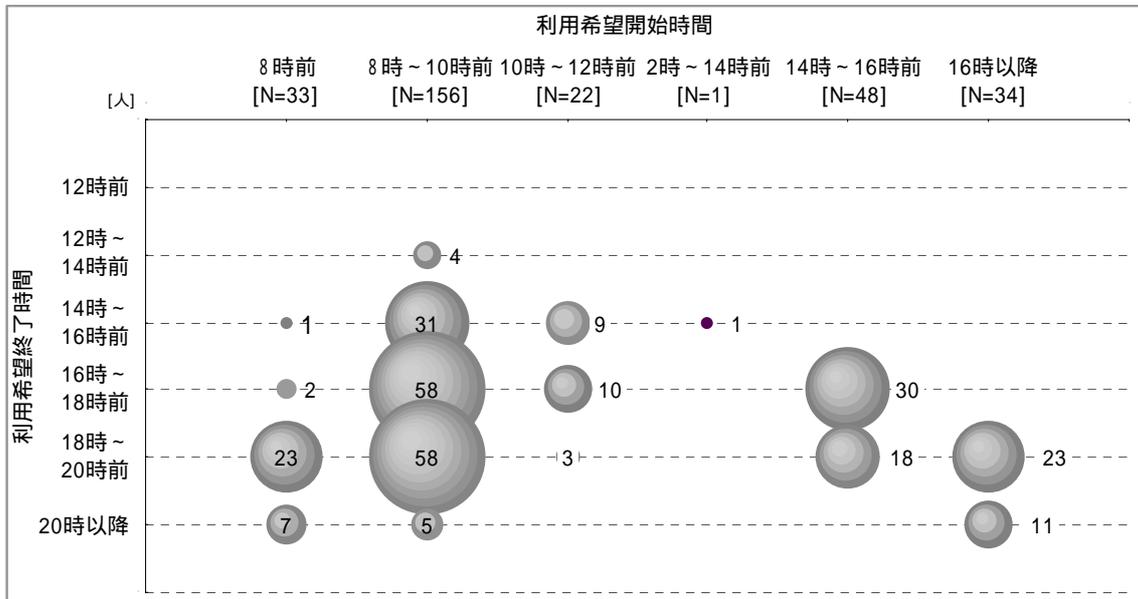


図表 II-72 (第2希望サービス別) 1日あたりの利用希望時間[N=688]



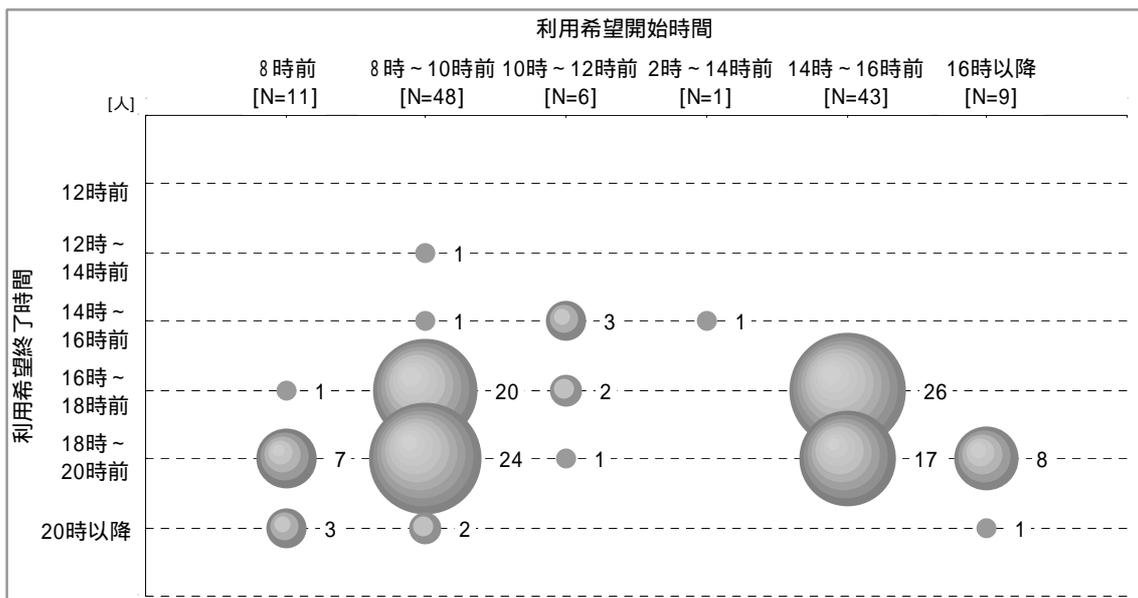
第2希望の保育サービスについて、希望する利用開始時間と終了時間を聞いたところ、開始時間は、「8時～10時前」という人が最も多く156人、うち、終了時間が、「16時～18時前」(58人)、「18時～20時前」(58人)、「14時～16時前」(31人)の順に多くなっています

図表 II-73 第2希望の保育サービスの利用希望開始時間と終了時間[N=296；無回答を除く]



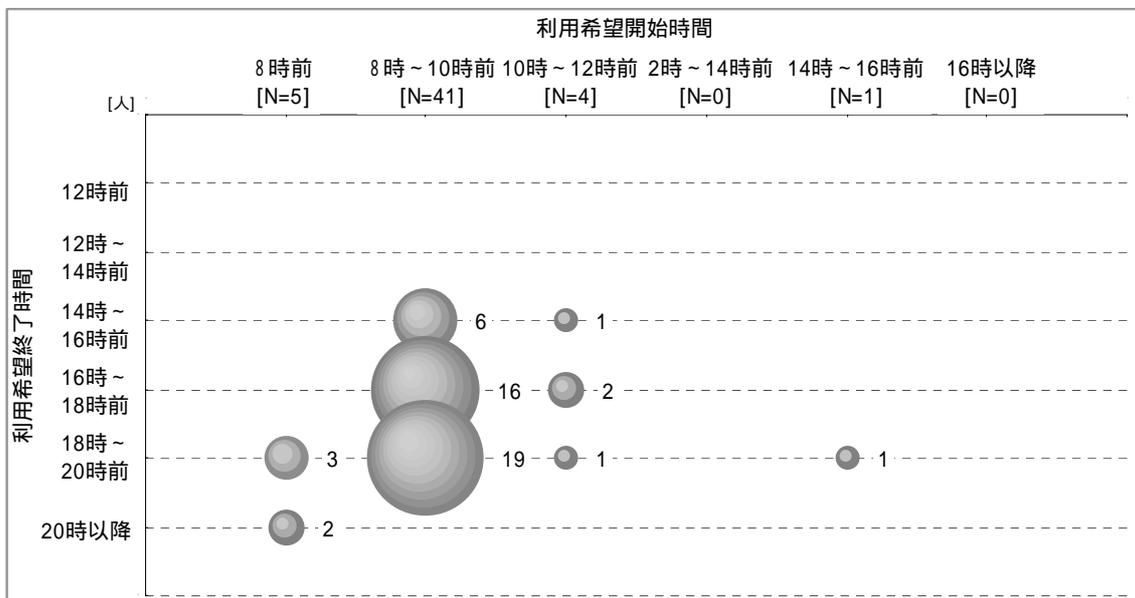
利用を希望する人が多い上位3つの第2希望サービスについて、開始時間と終了時間をみると、幼稚園の長時間保育では、開始時間が「14時～16時前」で終了時間が「16時～18時前」という人が26人、開始時間が「8時～10時前」で終了時間が「18時～20時前」という人が24人と、多くなっています。

図表 II-74 幼稚園の長時間保育の利用希望開始時間と終了時間[N=119；無回答を除く]



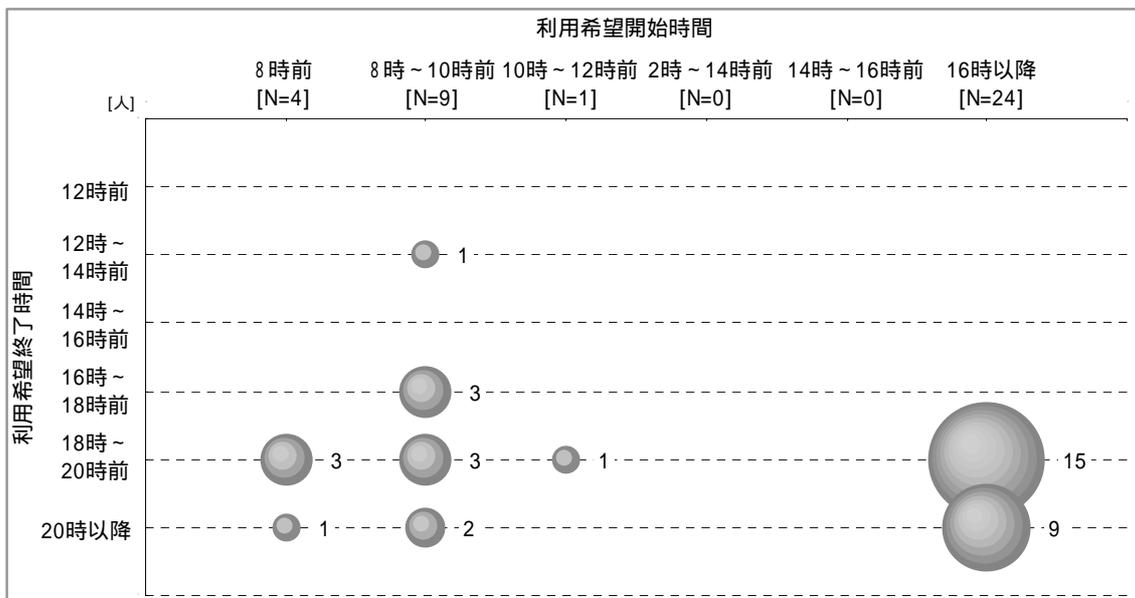
認可保育所では、開始時間が「8時～10時前」という人が最も多く41人、うち終了時間が「18時～20時前」(19人)、「16時～18時前」(16人)の順に多くなっています。

図表 II-75 認可保育所の利用希望開始時間と終了時間[N=51；無回答を除く]



延長保育では、開始時間が「16時以降」という人が最も多く24人、うち終了時間が「18時～20時前」(15人)、「20時以降」(9人)の順に多くなっています。

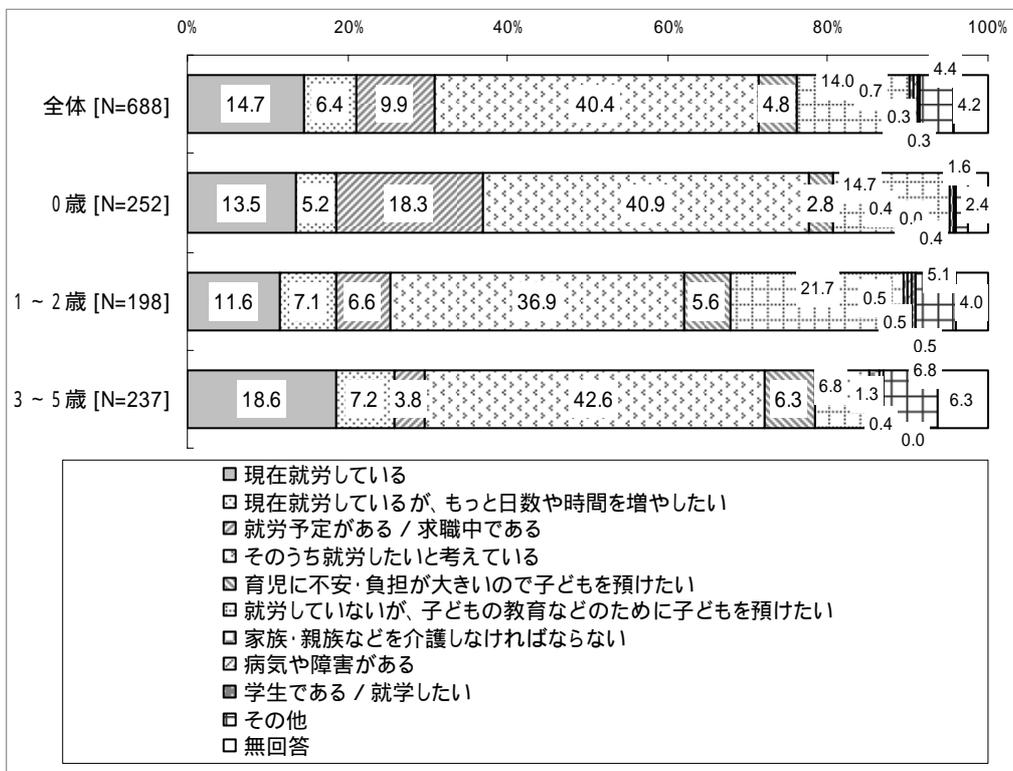
図表 II-76 延長保育の利用希望開始時間と終了時間[N=38；無回答を除く]



「認可保育所」「簡易保育施設（認可外保育施設）」「事業所内保育施設」「幼稚園（通常の就園時間）」「幼稚園の長時間保育」「ベビーシッター」の利用希望があると回答した人に、保育サービスを利用したい理由を聞いたところ、「そのうち就労したいと考えている」という人の割合が最も高く40.4%、次いで、「現在就労している」（14.7%）、「就労していないが、子どもの教育などのために子どもを預けたい」（14.0%）の順に高い割合となっています。

これを年齢別に見ると、「就労予定がある / 求職中である」という人の割合は0歳で高く、「そのうち就労したいと考えている」という人の割合は1～2歳で低くなっています。また、「就労していないが、子どもの教育などのために子どもを預けたい」という人の割合は1～2歳で高くなっています。

図表 II-77 保育サービスを利用したい理由[N=688]

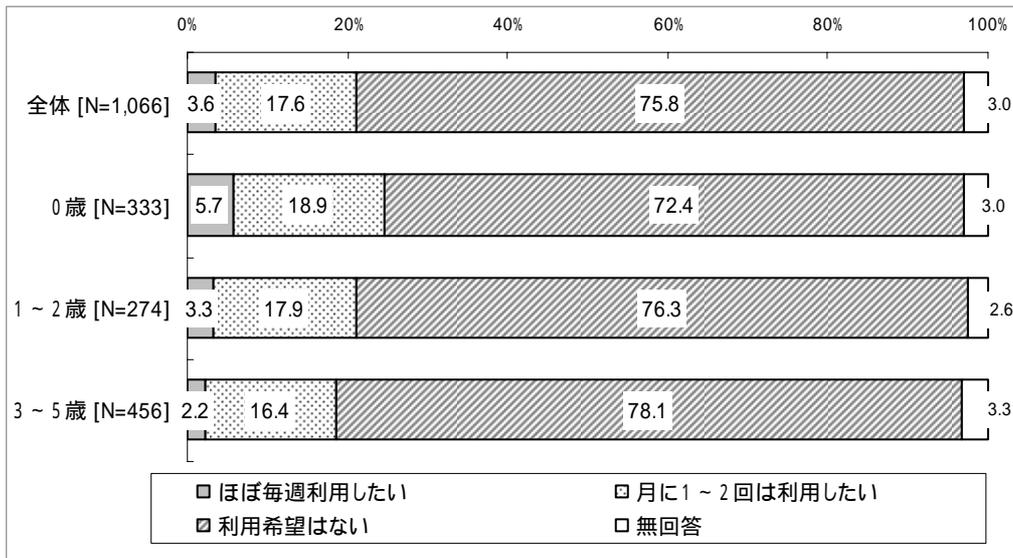


(3) 日曜日・祝日の保育サービスの利用希望

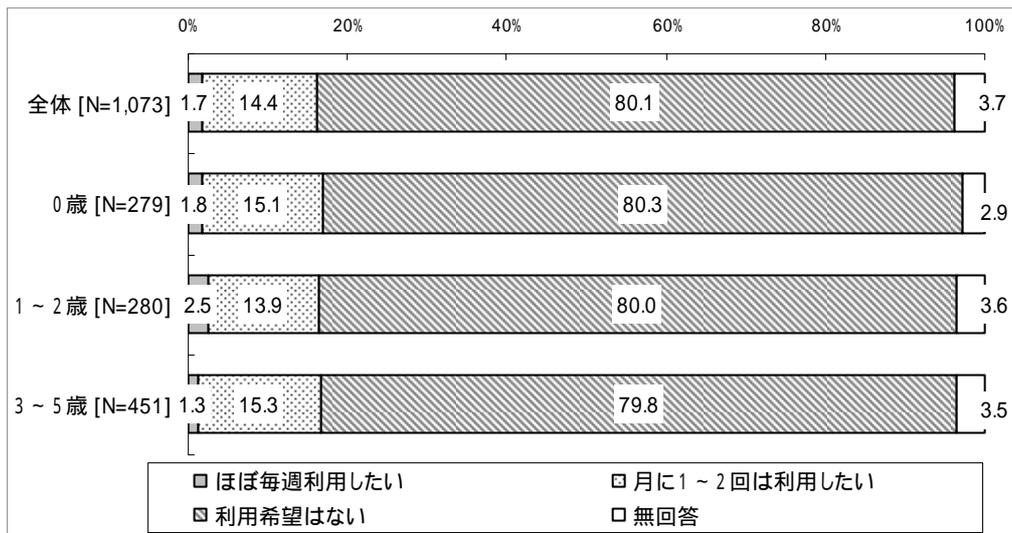
日曜日・祝日の保育サービスなどの利用希望を聞いたところ、「ほぼ毎週利用したい」という人の割合は 3.6%、「月に1～2回は利用したい」という人の割合は 17.6%となっています。

前回調査と比較すると、全体的に「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回は利用したい」という人の割合が上昇しています。

図表 II-78 日曜日・祝日の保育サービスなどの利用希望[N=1,066]

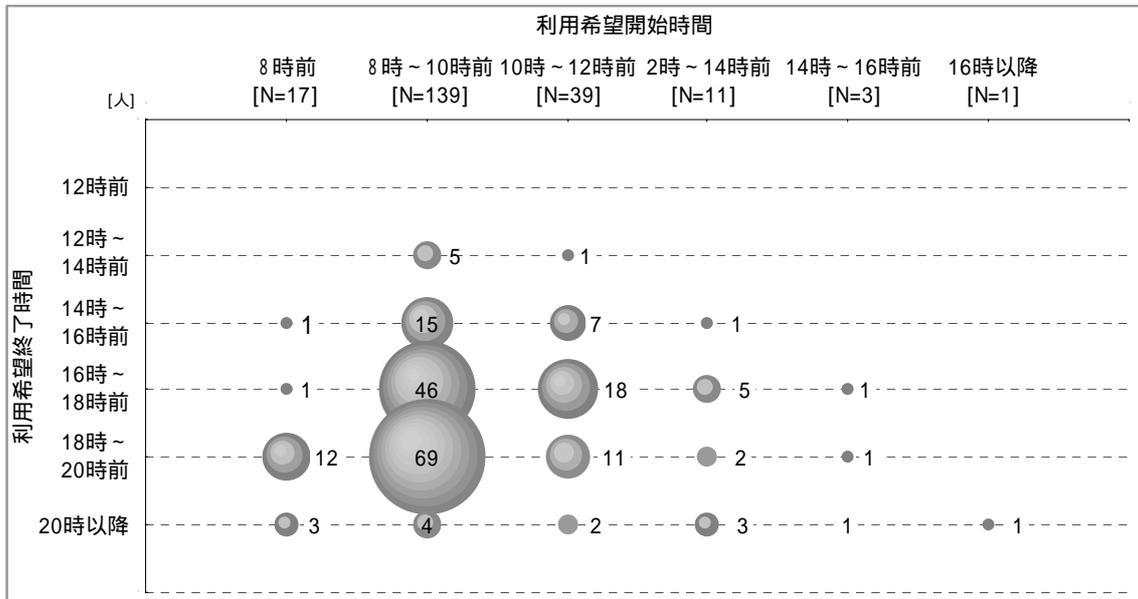


図表 II-79 (前回調査) 日曜日・祝日の保育サービスなどの利用希望[N=1,066]



日曜日・祝日の保育サービスなどの利用希望があると回答した人に、希望する開始時間と終了時間を聞いたところ、開始時間としては、「8時～10時前」という人が最も多く139人、うち、終了時間が「18時～20時前」(69人)、「16時～18時前」(46人)の順に多くなっています。

図表 II-80 日曜日・祝日の保育サービスなどの利用希望開始時間と終了時間[N=210；無回答を除く]

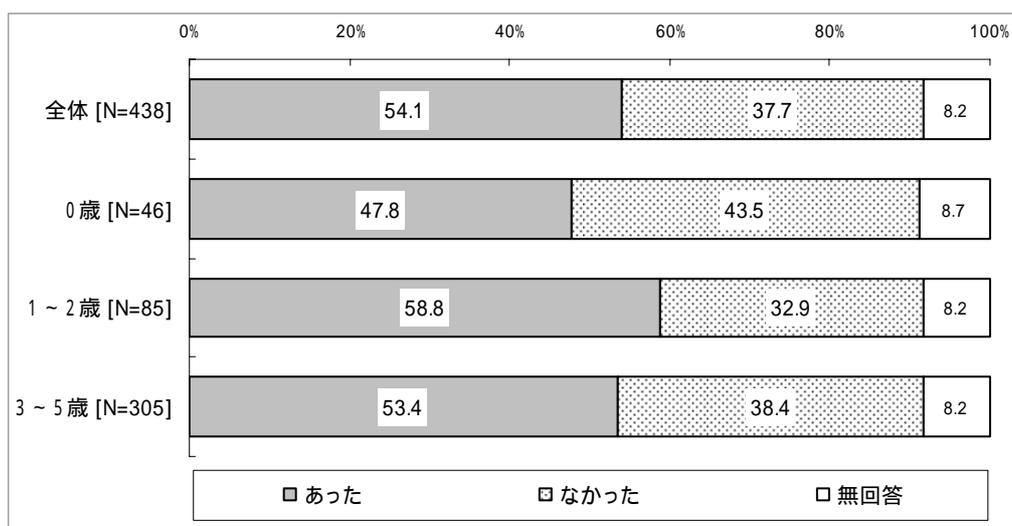


4 . 病児・病後児の対応

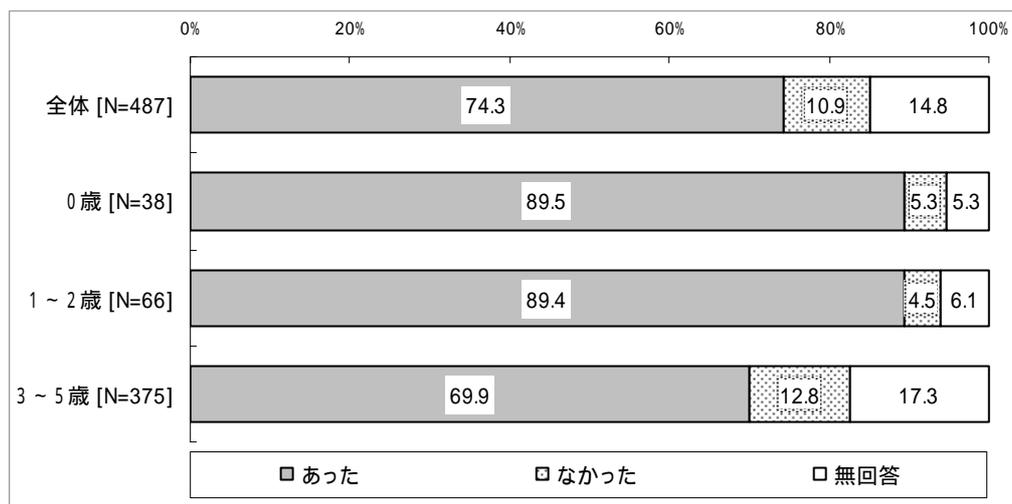
保育サービスを利用している人に、この1年間に子どもの病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかったことがあるか聞いたところ、「あった」という人は54.1%、「なかった」という人は37.7%となっています。

前回調査と比較すると、「あった」という人の割合が低下しています。

図表 II-81 この1年間に、子どもの病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかったことがあるか[N=438]



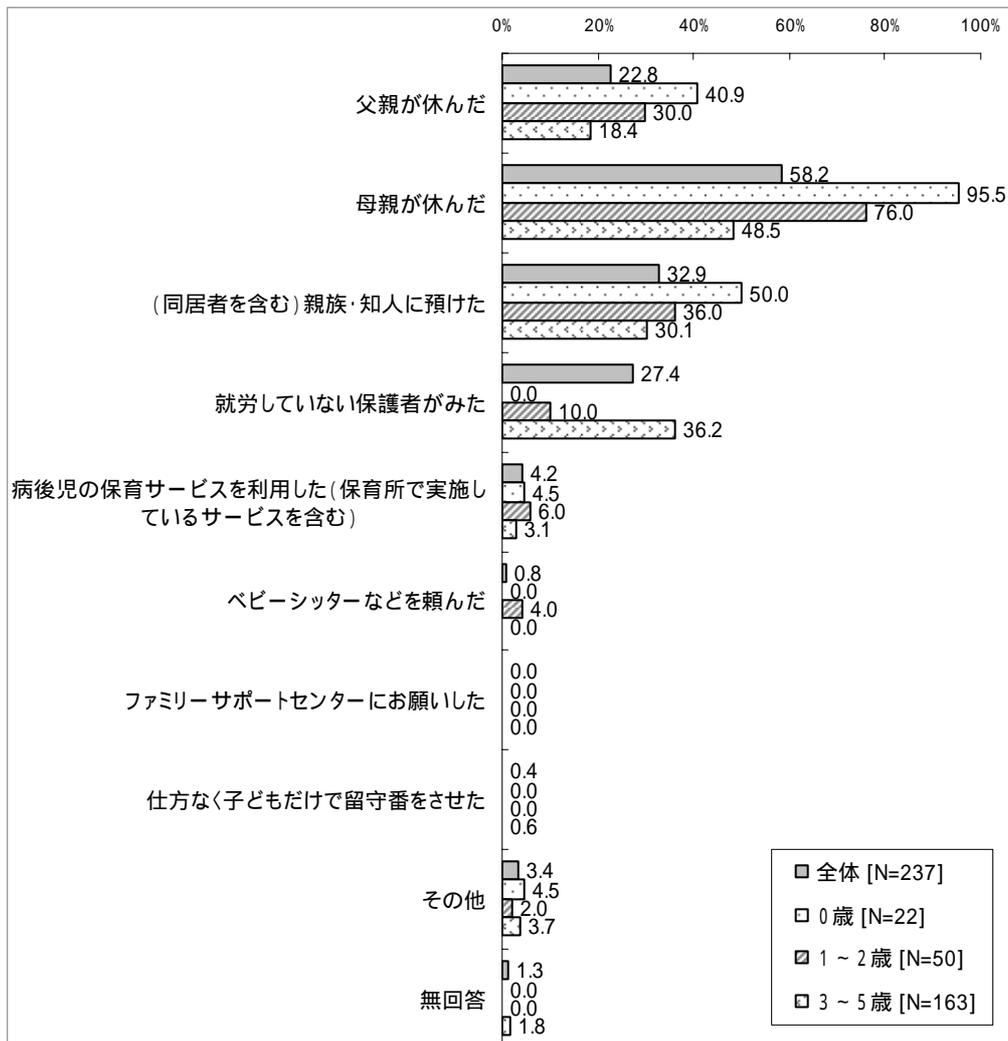
図表 II-82 (前回調査) この1年間に、子どもの病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかったことがあるか[N=438]



この1年間に子どもの病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかったことが「あった」と回答した人に、その場合の対処方法を聞いたところ、「母親が休んだ」という人の割合が最も高く58.2%、次いで、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」(32.9%)、「就労していない保護者がみた」(27.4%)の順に高い割合となっています。

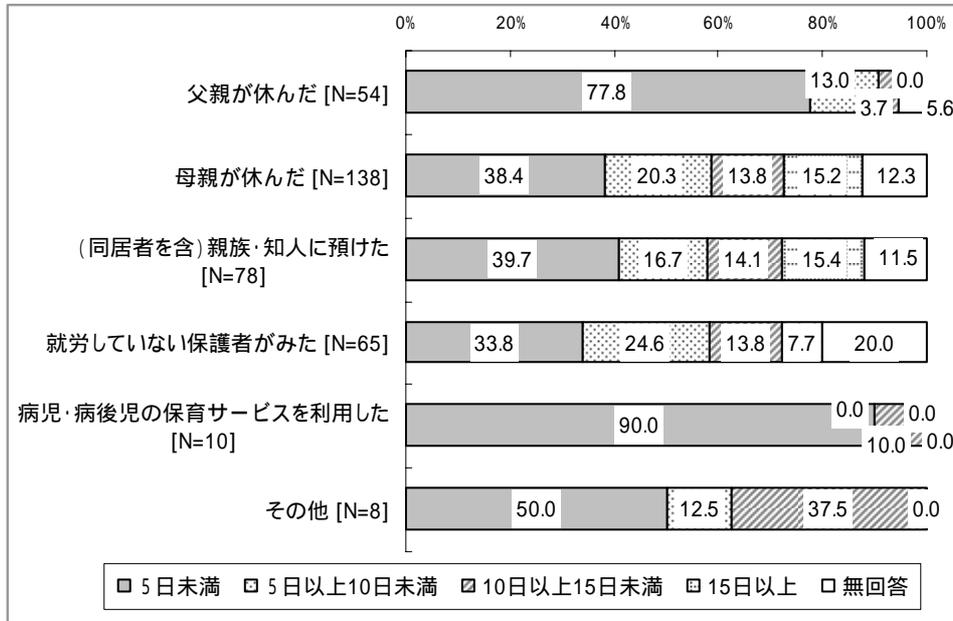
これを年齢別に見ると、年齢が上がるにつれて、「母親が休んだ」「父親が休んだ」「(同居者を含む)親族・知人に預けた」という人の割合が低くなるのに対し、「就労していない保護者がみた」という人の割合は高くなっています。

図表 II-83 この1年間の対処方法[N=237；複数回答]



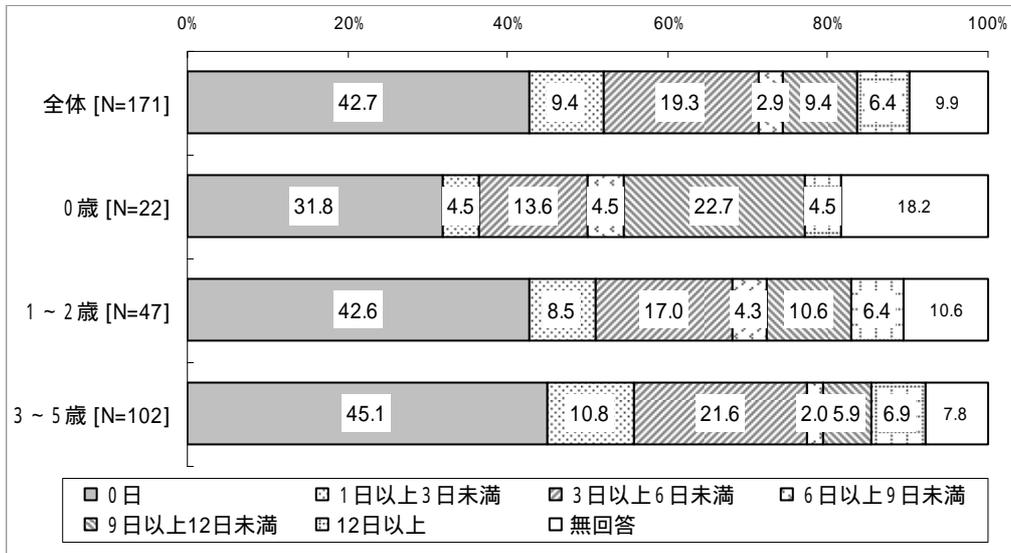
対処方法ごとに日数を見ると、「父親が休んだ」日数は、「5日未満」の割合が77.8%と最も高くなっています。また、「母親が休んだ」「(同居者を含む)親族・知人に預けた」「就労していない保護者がみた」日数は、割合の多い順に、「5日未満」(3~4割)、「5日以上10日未満」(1.5~2.5割)となっています。

図表 II-84 子どもの病気やケガで保育サービスを利用できなかった場合の対処方法ごとの日数



対処方法として、「父親が休んだ」「母親が休んだ」「(同居者を含む)親族・知人に預けた」と回答した人に、できれば病後児保育サービスなどを利用したいと思った日数を聞いたところ、「0日」という人の割合が最も高く42.7%、次いで、「3日以上6日未満」の割合が高く19.3%となっています。

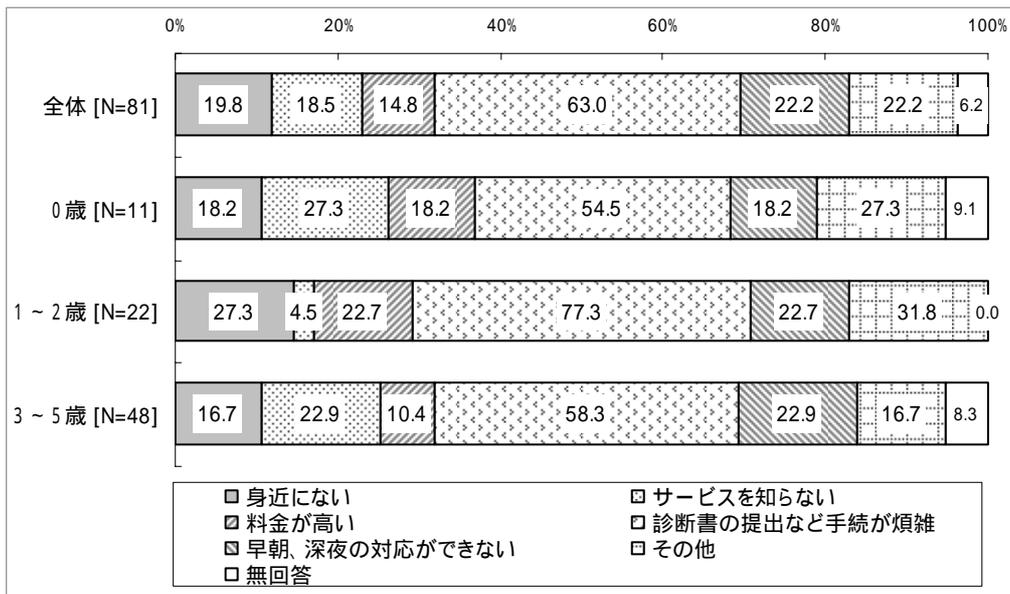
図表 II-85 できれば病後児保育サービスなどを利用したいと思った日数[N=171]



できれば病後児保育サービスなどを利用したいと思った日数を1日以上と回答した人に、病後児保育サービスを利用しなかった理由を聞いたところ、「診断書の提出など手続きが煩雑」という人の割合が最も高く63.0%、次いで、「早朝、深夜の対応ができない」という人の割合が高く22.2%となっています。「その他」の回答としては、「病気の子どもを預けるのは不安」や「空きがなかった」という回答が多く見られました。

これを年齢別に見ると、1～2歳で「身近にない」「診断書の提出など手続きが煩雑」という人の割合が高くなっています。

図表 II-86 病後児保育サービスを利用しなかった理由[N=80]

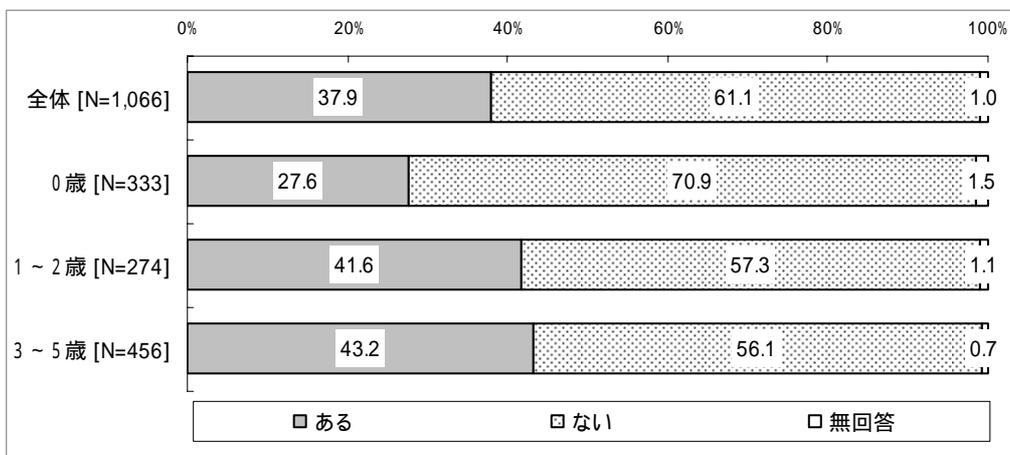


5. 一時預かり、宿泊を伴う一時預かり

(1) 一時預かりについて

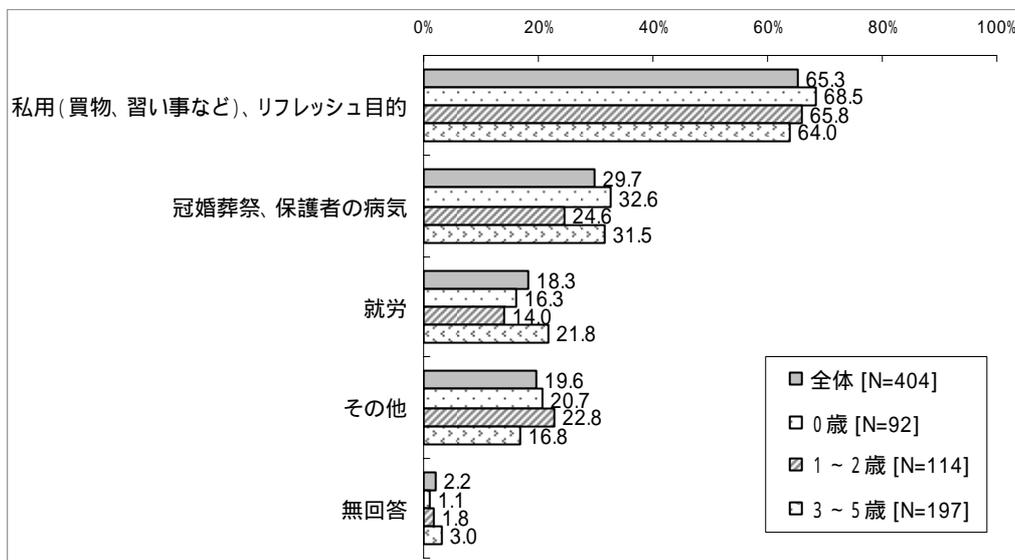
この1年間で、私用（買物、習い事、スポーツ、会合、美容院など）やリフレッシュ目的、冠婚葬祭や保護者の病気、あるいは就労のため、子どもを家族以外の誰かに一時的に預けたことがあるか聞いたところ、「ある」という人が37.9%、「ない」という人が61.1%となっています。

図表 II-87 この1年間で、私用やリフレッシュ目的、冠婚葬祭や保護者の病気、あるいは就労のため、子どもを家族以外の誰かに一時的に預けたことがあるか[N=1,066]



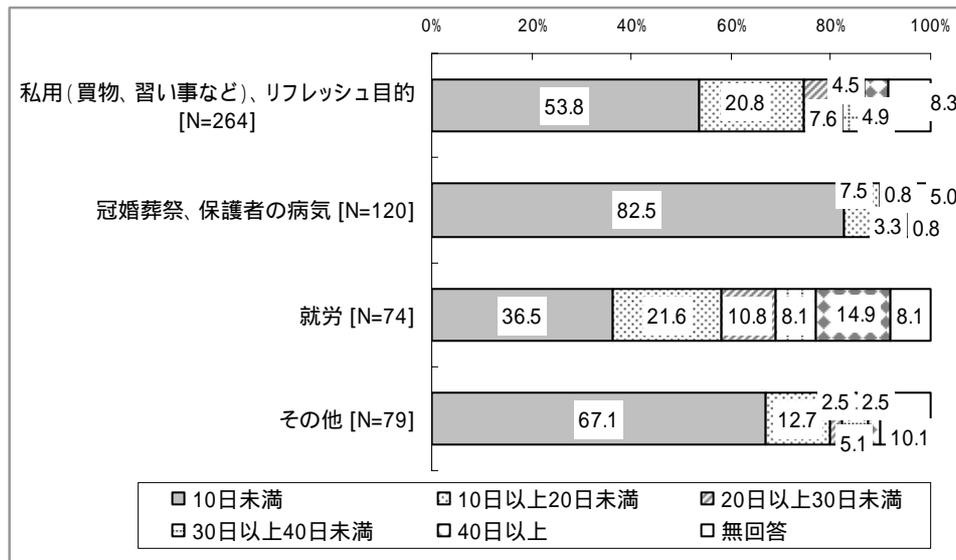
子どもを家族以外の誰かに一時的に預けたことが「ある」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「私用（買物、習い事など）リフレッシュ目的」という人の割合が最も高く65.3%、次いで「冠婚葬祭、保護者の病気」という人の割合が高く29.7%となっています。

図表 II-88 一時的に預けた理由[N=404；複数回答]



一時的に預けた理由ごとに日数を見ると、「私用（買物、習い事など）、リフレッシュ目的」では、「10日未満」の割合が最も高く53.8%、次いで、「10日以上20日未満」の割合が高く20.8%となっています。「冠婚葬祭、保護者の病気」では、「10日未満」が大半となっており82.5%となっています。「就労」では、割合の高い順に「10日未満」（36.5%）、「10日以上20日未満」（21.6%）、「40日以上」（14.9%）等となっています。

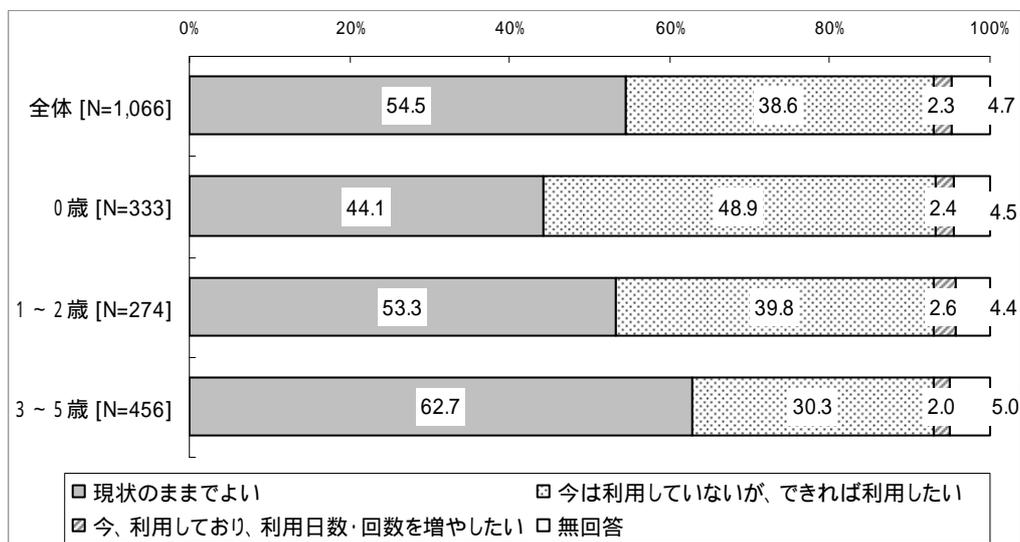
図表 II-89 一時的に預けた理由ごとの日数



一時預かりのサービスの利用希望を聞いたところ、「現状のままでよい」という人の割合が最も高く54.5%、次いで、「今は利用していないが、できれば利用したい」という人の割合が高く38.6%となっています。

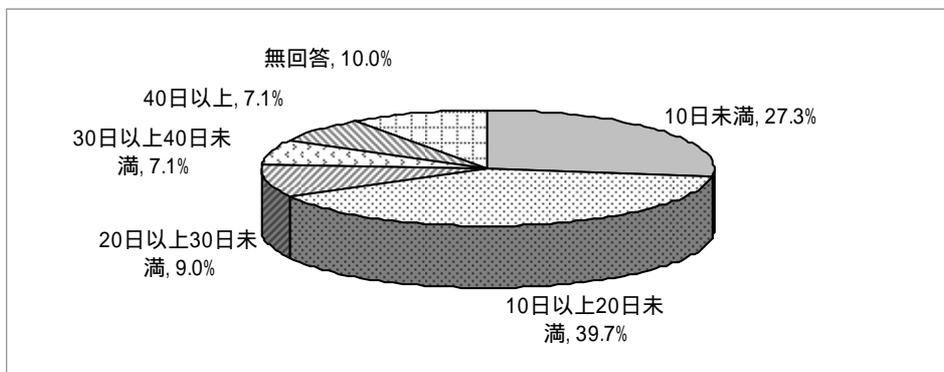
これを年齢別に見ると、年齢が上がるにつれて、「現状のままでよい」という人の割合が高くなっています。

図表 II-90 一時預かりのサービスの利用希望[N=1,066]



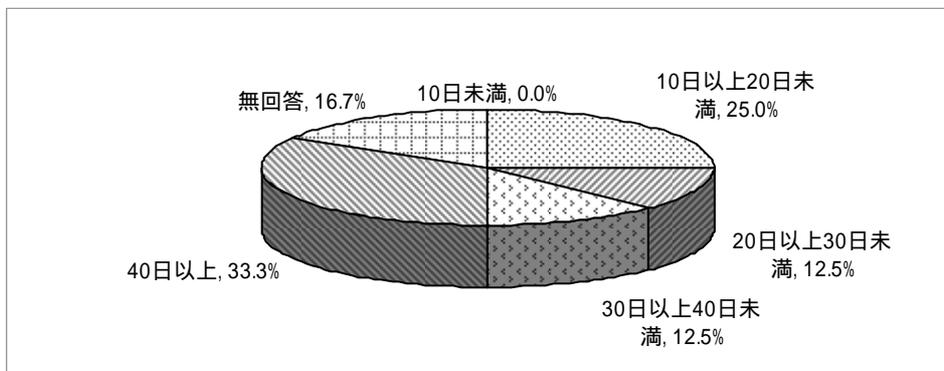
一時預かりのサービスを「今は利用していないが、できれば利用したい」と回答した人に、希望する1年あたりの利用日数を聞いたところ、割合の高い順に、「10日以上20日未満」(39.7%)、「10日未満」(27.3%)となっています。

図表 II-91 一時預かりサービスを、今後利用したい人の、1年あたりの利用希望日数[N=411]



一時預かりのサービスを「今、利用しており、利用日数・回数を増やしたい」と回答した人に、新たに利用を希望する1年あたりの日数を聞いたところ、割合の高い順に、「40日以上」(33.3%)、「10日以上20日未満」(25.0%)となっています。

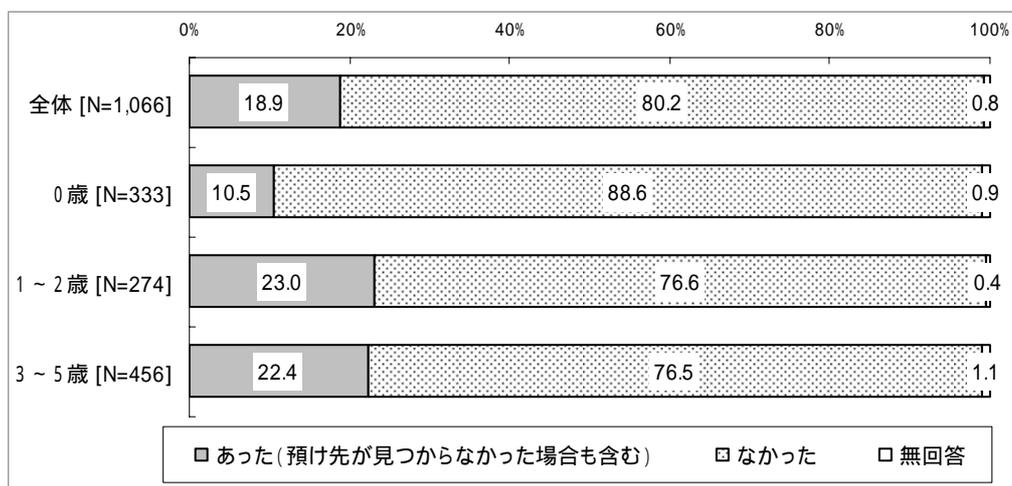
図表 II-92 一時預かりサービスの利用日数・回数を増やしたい人の、1年あたりの利用希望日数[N=24]



(2) 宿泊を伴う一時預かりについて

この1年間に、保護者の用事などにより、子どもを泊まりがけで預けなければならないことはあったか聞いたところ、「あった(預け先が見つからなかった場合も含む)」という人は18.9%、「なかった」という人は80.2%となっています。

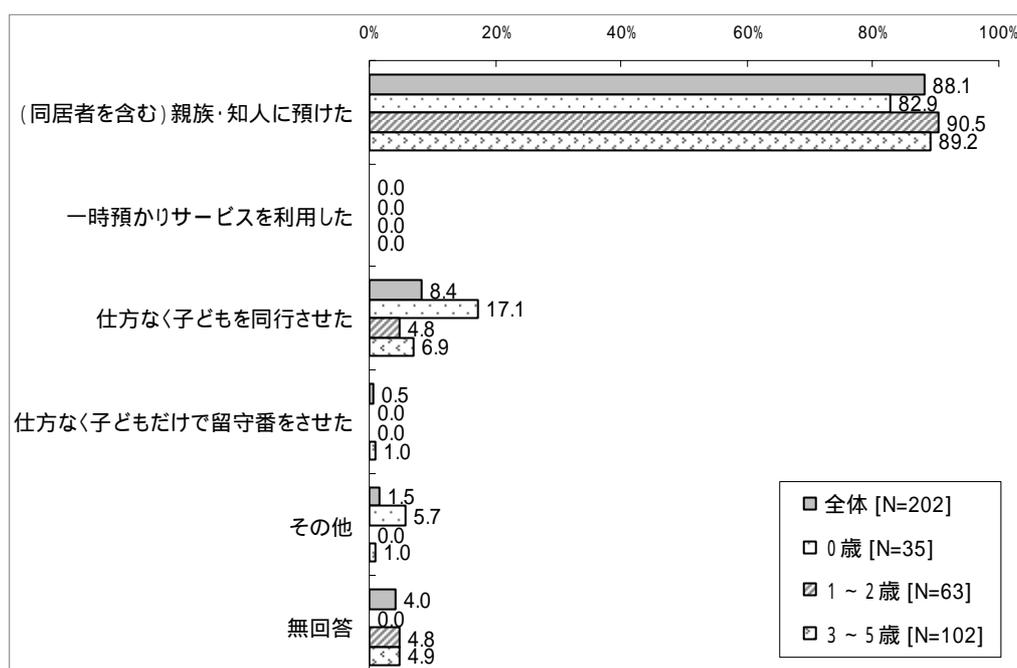
図表 II-93 この1年間に、子どもを泊まりがけで預けなければならないことはあったか[N=1,066]



この1年間に、保護者の用事などにより、子どもを泊まりがけで預けなければならないことが「あった」と回答した人に、その場合の対処方法を聞いたところ、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」という人の割合が88.1%と最も高くなっています。

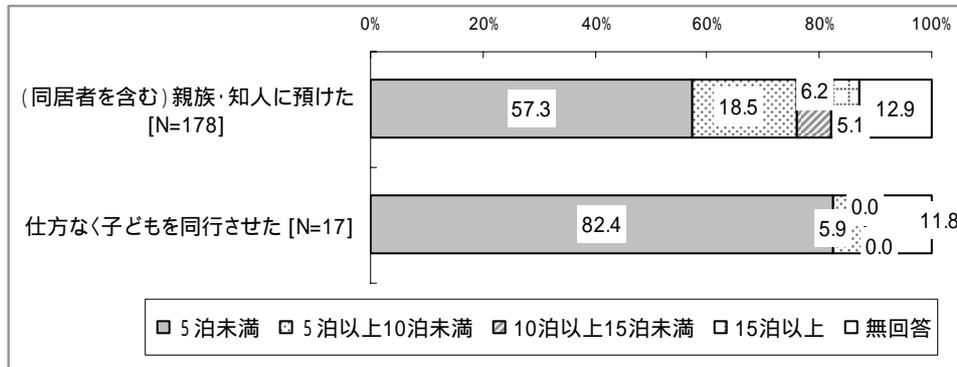
これを年齢別に見ると、「仕方なく子どもを同行させた」という人の割合は0歳で高くなっています。

図表 II-94 子どもを泊まりがけで預けられなかった場合の対処方法[N=202；複数回答]



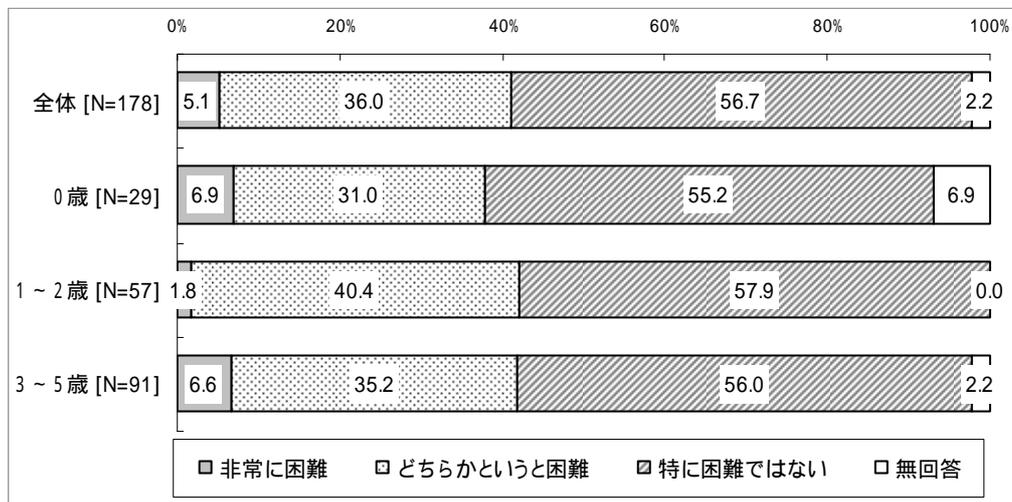
対処方法ごとに泊数を見ると、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」泊数は、割合の高い順に、「5泊未満」(57.3%)、「5泊以上10泊未満」(18.5%)となっています。「仕方なく子どもを同行させた」泊数は、「5泊未満」が大半となっており82.4%となっています。

図表 II-95 子どもを泊りがけで預けなければならなかった場合の対処方法ごとの泊数



対処方法として、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」と回答した人に、それが困難だったか聞いたところ、「特に困難ではない」という人の割合が最も高く56.7%、次いで、「どちらかという困難」という人の割合が高く36.0%となっています。

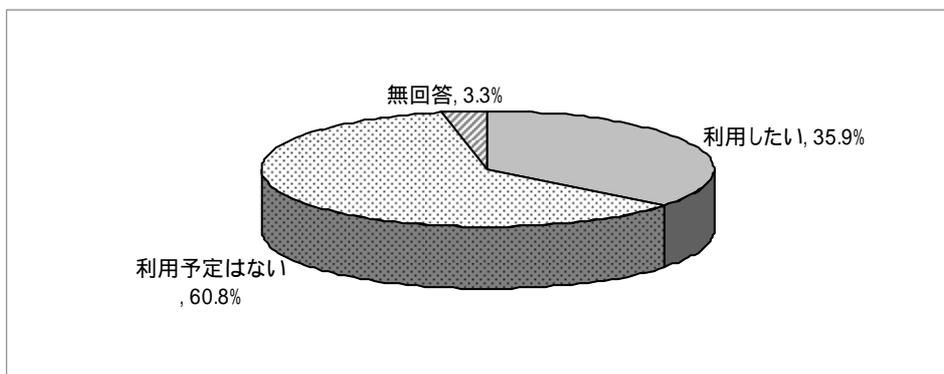
図表 II-96 親族・知人に預けることの困難度[N=178]



6 . 学童保育の利用希望

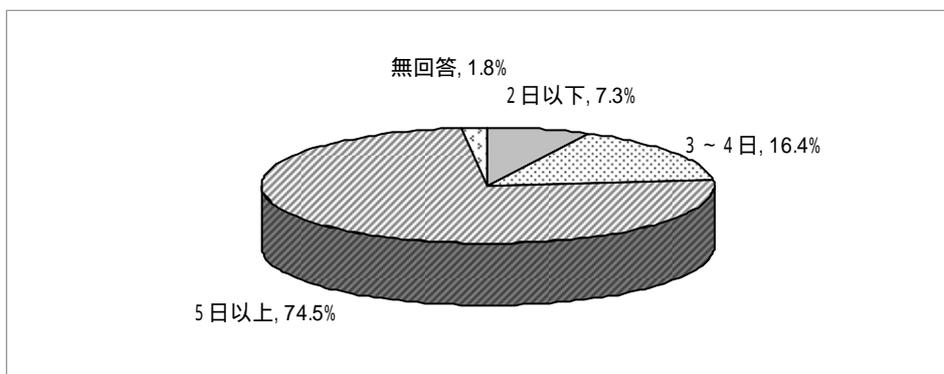
来年度就学予定の子どもを持つ保護者に、学童保育の利用希望を聞いたところ、「利用したい」という人は 35.9%、「利用予定はない」という人は 60.8%となっています。

図表 II-97 学童保育の利用意向[N=153]



学童保育を「利用したい」と回答した人に、希望する1週あたりの利用日数を聞いたところ、「5日以上」という人の割合が最も高く 74.5%となっています。

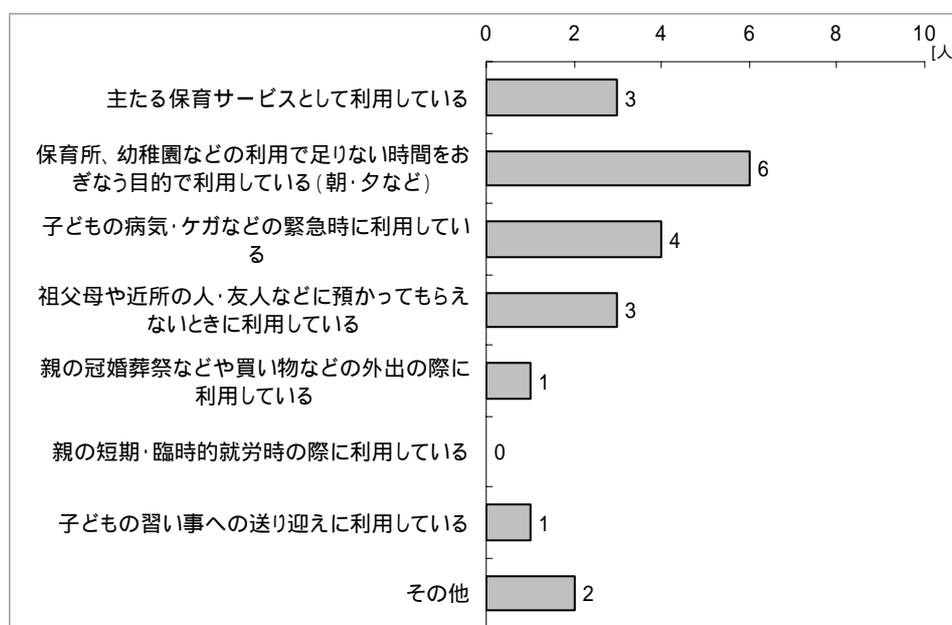
図表 II-98 学童保育の1週あたりの利用希望日数[N=55]



7. ベビーシッターの利用状況

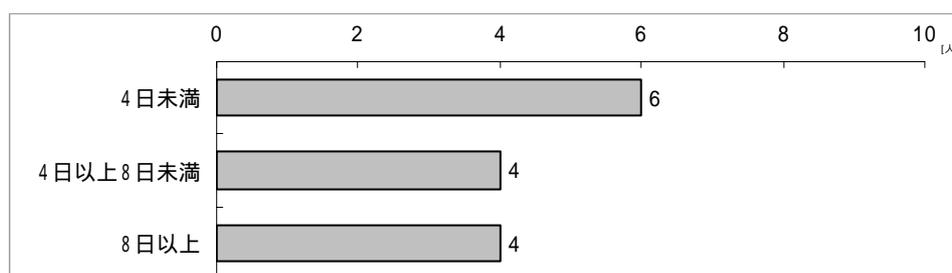
ベビーシッターを利用している人に、その目的を聞いたところ、「保育所、幼稚園などの利用で足りない時間をおぎなう目的で利用している（朝・夕など）」（6人）、「子どもの病気・ケガなどの緊急時に利用している」（4人）等となっています。

図表 II-99 ベビーシッターの利用目的[N=16；複数回答，無回答を除く]

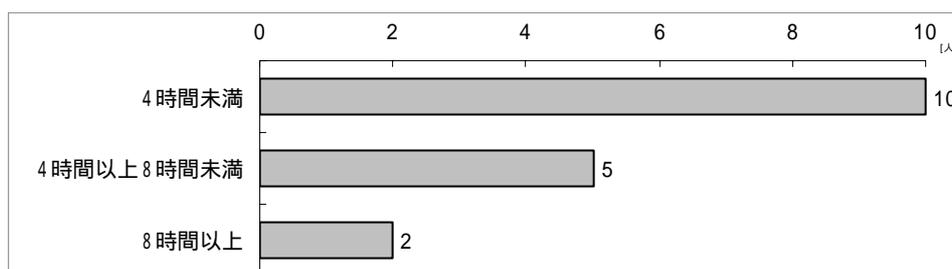


ベビーシッターを利用している人の、1月あたりの利用日数は、「4日未満」が6人となっています。また、1回あたりの利用時間は、「4時間未満」が10人となっています。

図表 II-100 ベビーシッターの1月あたりの利用日数[N=14；無回答を除く]



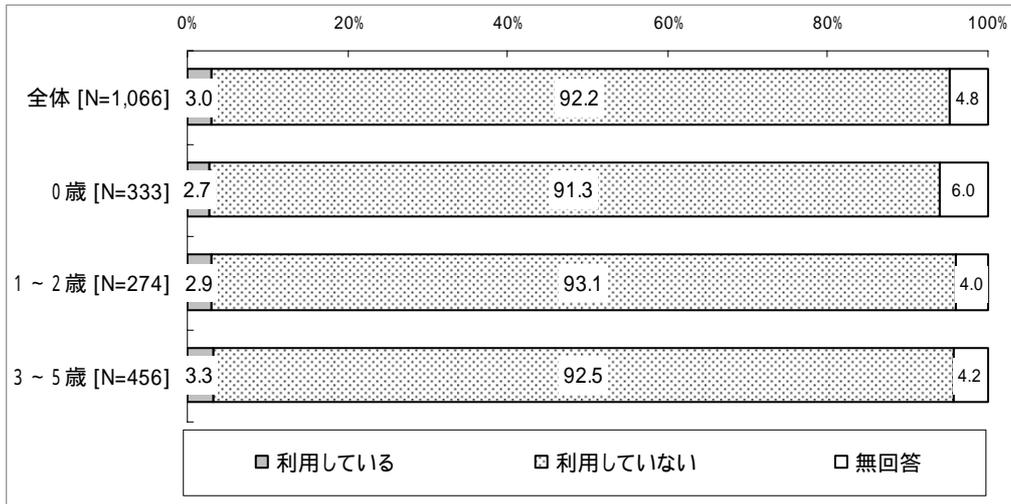
図表 II-101 ベビーシッターの1回あたりの利用時間[N=17；無回答を除く]



8 . ファミリーサポートセンターの利用状況

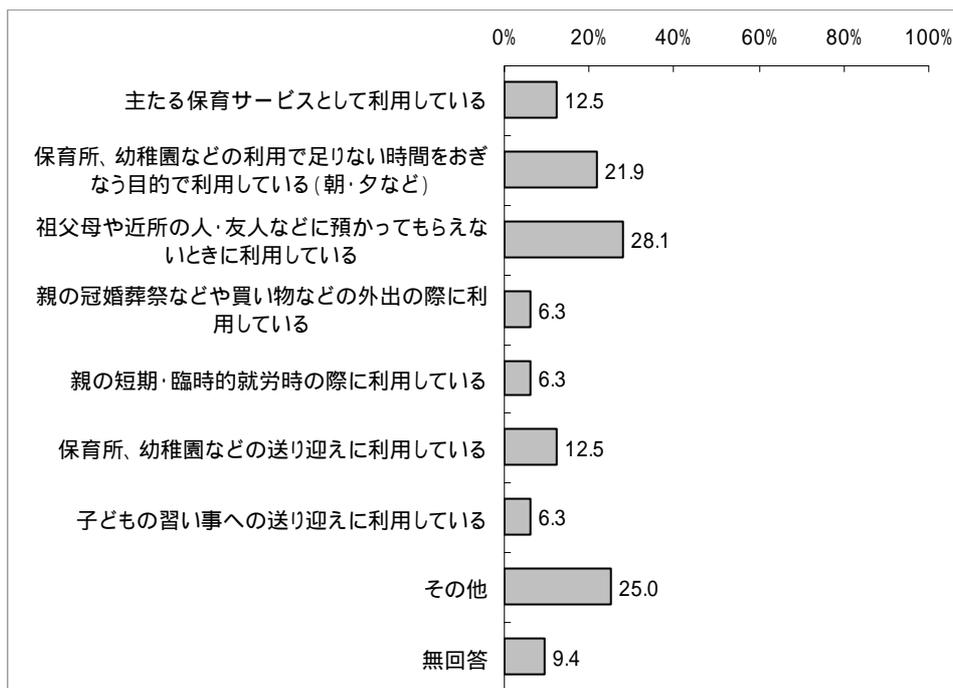
ファミリーサポートセンターの利用の有無については、「利用していない」という人が92.2%と大半を占めています。

図表 II-102 ファミリーサポートセンターの利用の有無[N=1,066]



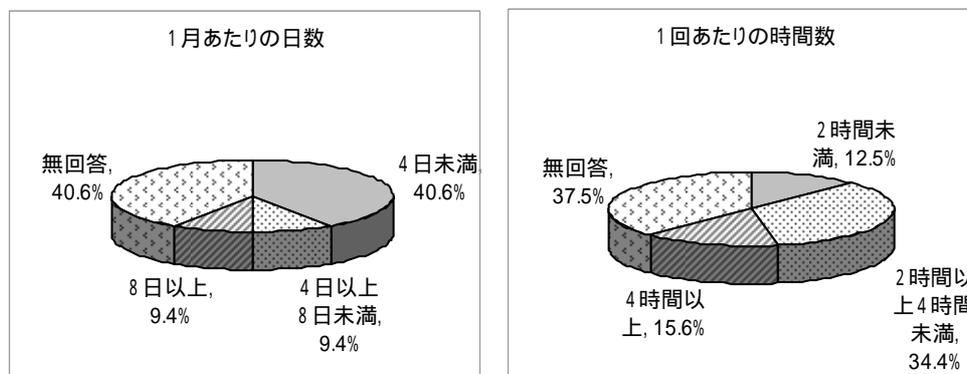
ファミリーサポートセンターを利用している人に、その目的を聞いたところ、割合の高い順に、「祖父母や近所の人・友人などに預かってもらえないときに利用している」(28.1%)、「保育所、幼稚園などの利用で足りない時間をおぎなう目的で利用している(朝・夕など)」(21.9%)となっています。

図表 II-103 ファミリーサポートセンターの利用目的[N=32 ; 複数回答]



ファミリーサポートセンターを利用している人に、利用頻度を聞いたところ、1月あたりの日数としては「4日未満」(40.6%)の割合が最も高く、1回あたりの利用時間としては、「2時間以上4時間未満」(34.4%)の割合が最も高くなっています。

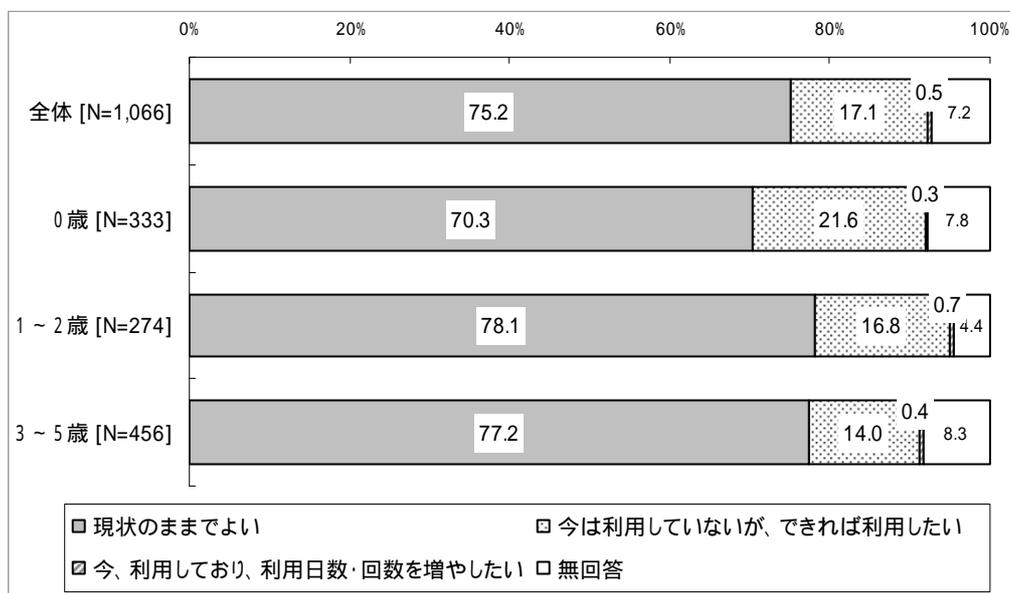
図表 II-104 ファミリーサポートセンターの1月あたりの利用日数、1回あたりの利用時間[N=32]



ファミリーサポートセンターの利用希望を聞いたところ、「現状のままでよい」という人の割合が最も高く75.2%、次いで「今は利用していないが、できれば利用したい」という人の割合が高く17.1%となっています。

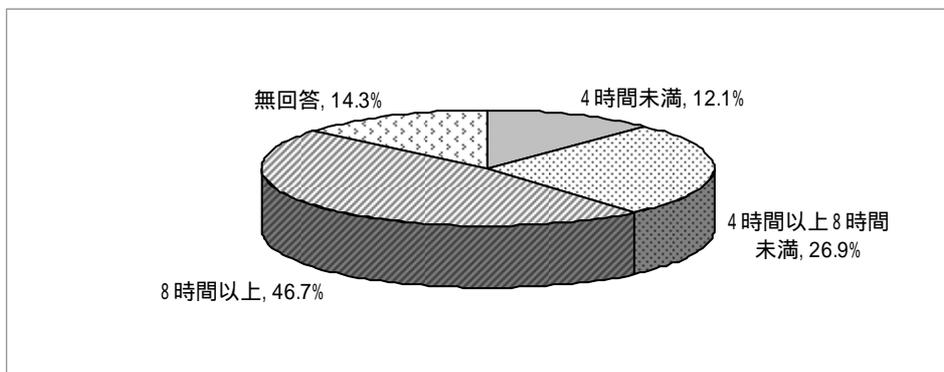
これを年齢別に見ると、「今は利用していないが、できれば利用したい」という人の割合は、0歳で高くなっています。

図表 II-105 ファミリーサポートセンターの利用希望[N=1,066]



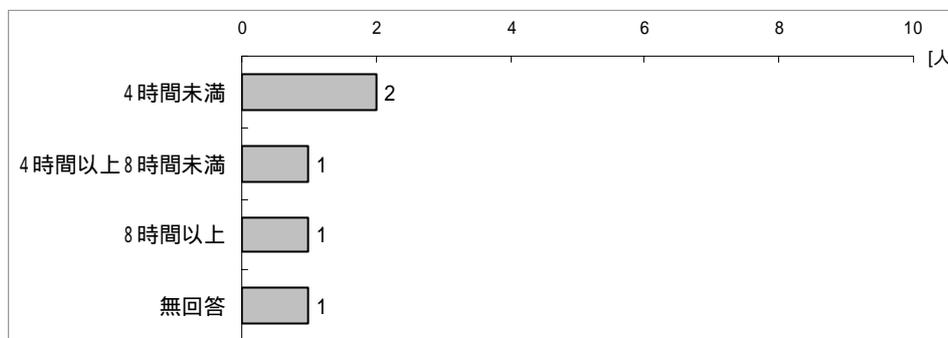
ファミリーサポートセンターを「今は利用していないが、できれば利用したい」と回答した人に、希望する1月あたりの利用時間を聞いたところ、割合の高い順に「8時間以上」(46.7%)、「4時間以上8時間未満」(26.9%)となっています。

図表 II-106 ファミリーサポートセンターを今後利用したい人の、1月あたりの利用希望時間[N=182]



ファミリーサポートセンターを「今、利用しており、利用時間を増やしたい」と回答した人に、新たに希望する1月あたりの利用時間を聞いたところ、「4時間未満」という人が2人となっています。

図表 II-107 ファミリーサポートセンターの利用時間を増やしたい人の、1月あたりの利用希望時間 [N=5]

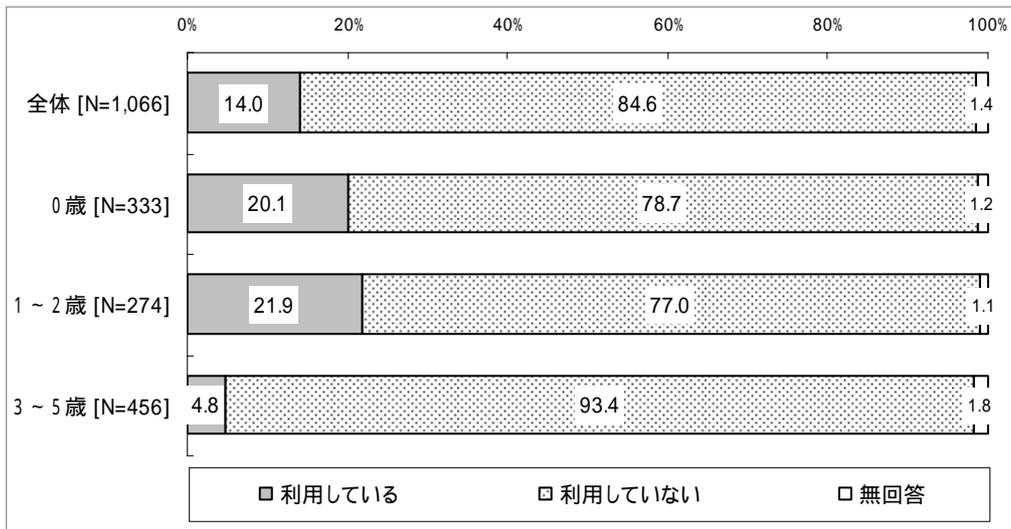


9. 子育て支援センター（おひさまルーム）の利用状況

子育て支援センター（おひさまルーム）の利用の有無については、「利用している」という人は14.0%、「利用していない」という人は84.6%となっています。

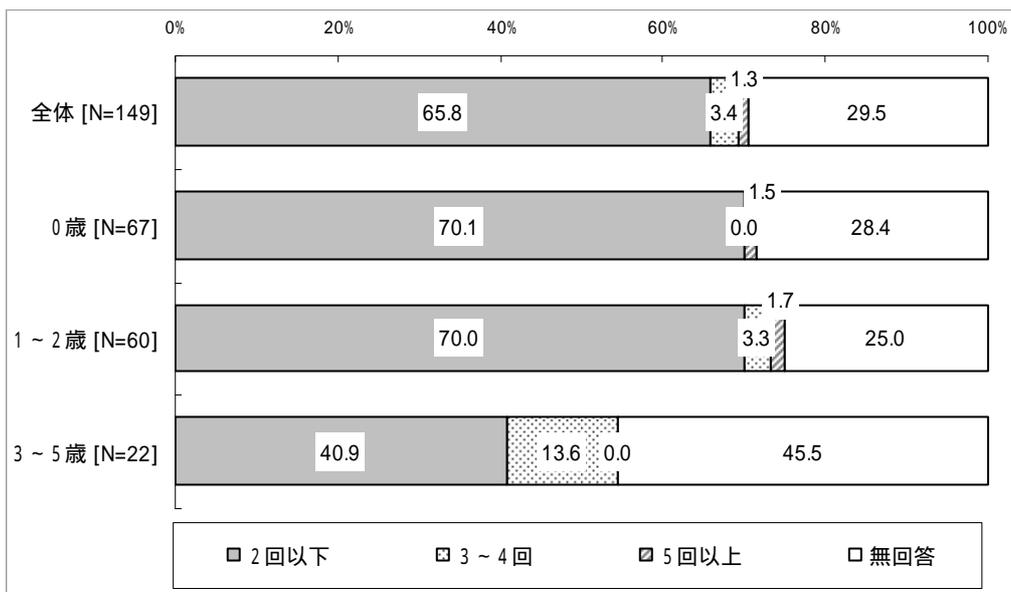
これを年齢別に見ると、「利用している」という人の割合は2歳以下で高くなっています。

図表 II-108 子育て支援センター（おひさまルーム）の利用の有無[N=1,066]



子育て支援センターを「利用している」と回答した人に、1週あたりの利用回数を聞いたところ、「2回以下」という人の割合が最も高く65.8%となっています。

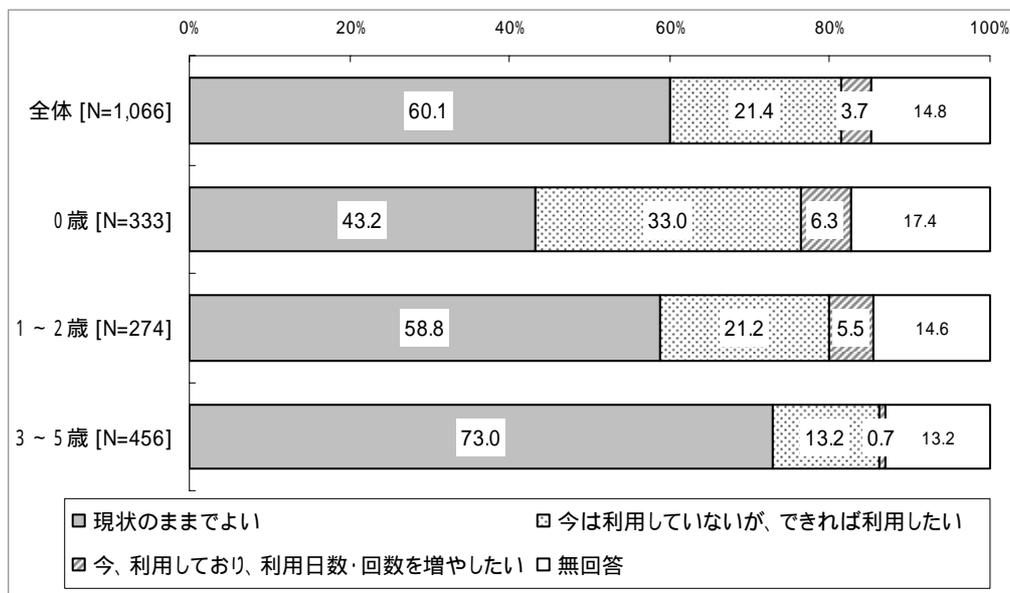
図表 II-109 子育て支援センターの1週あたりの利用回数[N=149]



子育て支援センターの利用希望を聞いたところ、「現状のままでよい」という人の割合が最も高く60.1%、次いで「今は利用していないが、できれば利用したい」という人の割合が高く21.4%となっています。

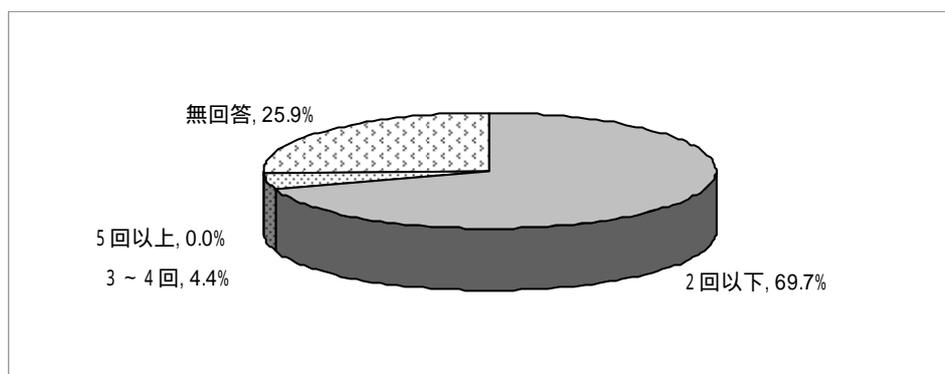
これを年齢別に見ると、年齢が上がるにつれて、「現状のままでよい」という人の割合が高くなっています。

図表 II-110 子育て支援センターの利用希望[N=1,066]



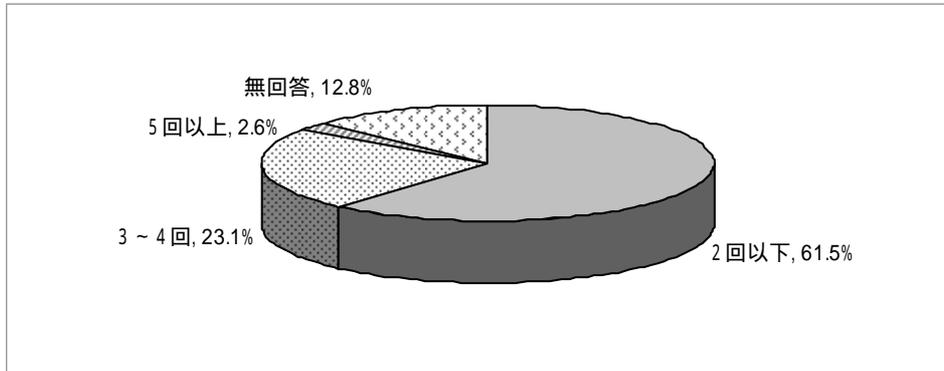
子育て支援センターを「今は利用していないが、できれば利用したい」と回答した人に、希望する1週あたりの利用回数を聞いたところ、「2回以下」の割合が69.7%と最も高くなっています。

図表 II-111 子育て支援センターを今後利用したい人の、1週あたりの利用希望回数[N=228]



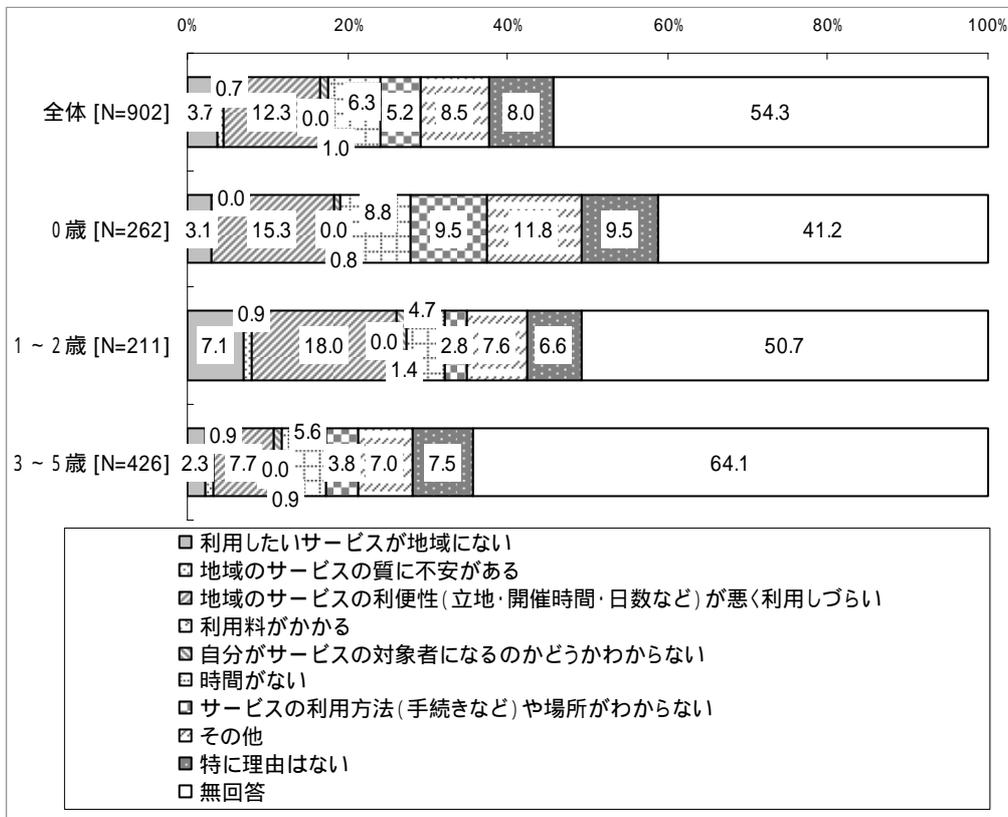
子育て支援センターを「今、利用しており、利用回数を増やしたい」と回答した人に、新たに希望する1週あたりの利用回数を聞いたところ、「2回以下」の割合が61.5%と最も高くなっています。

図表 II-112 子育て支援センターの利用回数を増やしたい人の、1週あたりの利用希望回数[N=39]



子育て支援センターを「利用していない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「地域のサービスの利便性（立地・開催時間・日数など）が悪く利用しづらい」という人の割合が最も高く12.3%となっています。

図表 II-113 子育て支援センターを利用していない人の理由[N=902]



10 . 子育て支援サービスの認知度・利用度・利用意向

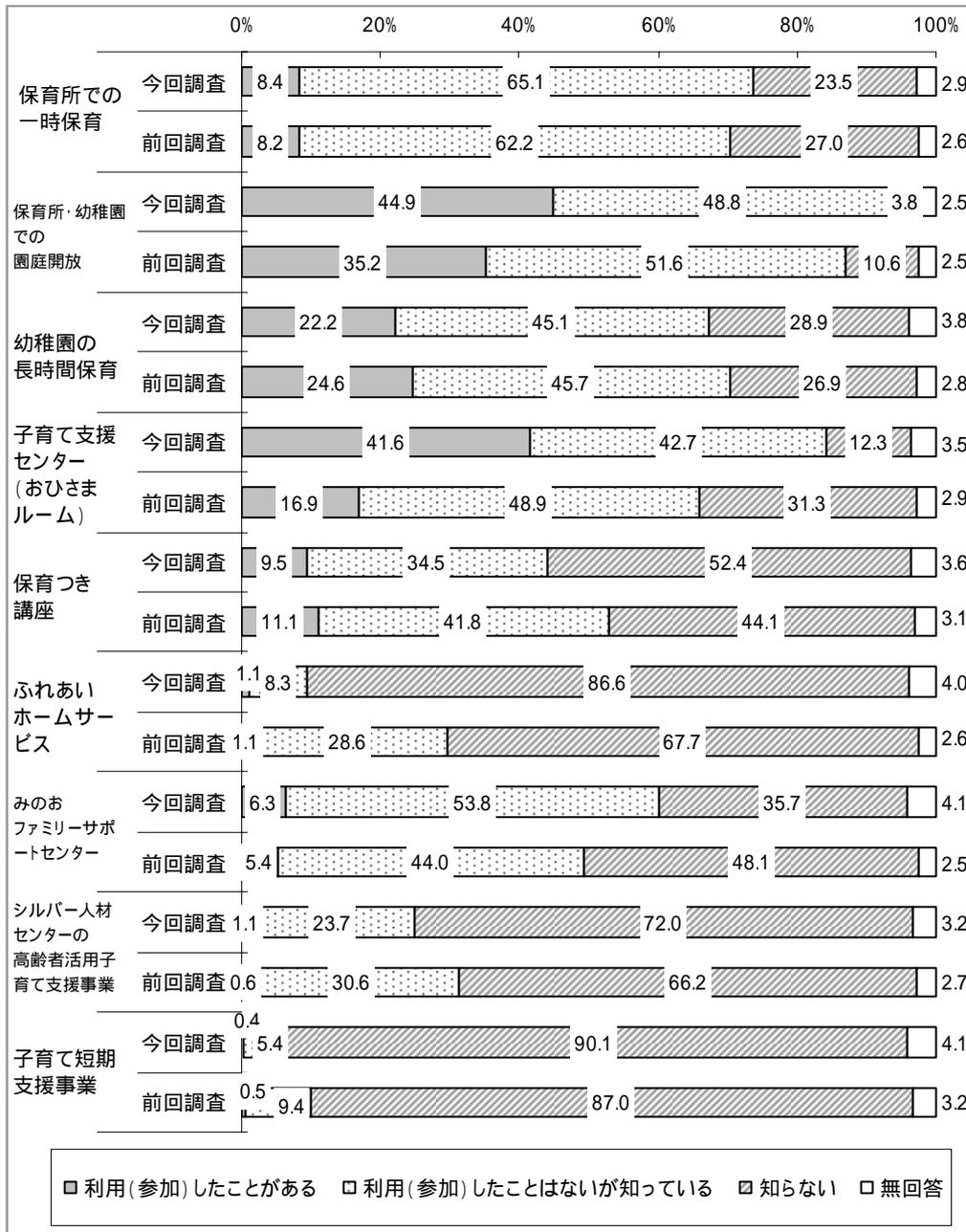
(1) 保育サービス等の認知度・利用度・利用意向

保育サービス等について、「利用（参加）したことがある」「利用（参加）したことはないが知っている」をあわせて認知度をみると、「保育所・幼稚園での園庭開放」「子育て支援センター（おひさまルーム）」は認知度が高く 8 割以上となっています。また、「ふれあいホームサービス」「子育て短期支援事業」は認知度が 1 割未満と低くなっています。

「利用（参加）したことがある」という人の割合から利用度を見ると、認知度の高い「保育所・幼稚園での園庭開放」「子育て支援センター（おひさまルーム）」は、利用度が 4～4.5 割と高くなっています。また、「保育所での一時保育」「幼稚園の長時間保育」「みのおファミリーサポートセンター」は、認知度が 6～7 割となっているのに対し、利用度は約 2 割以下にとどまっています。

前回調査と比較すると、「保育所・幼稚園での園庭開放」「子育て支援センター」は、認知度・利用度ともに上昇しています。「みのおファミリーサポートセンター」は、利用度に大きな変化はないものの、認知度は上昇しています。「保育つき講座」「ふれあいホームサービス」「シルバー人材センターの高齢者活用子育て支援事業」は、認知度が低下しています。

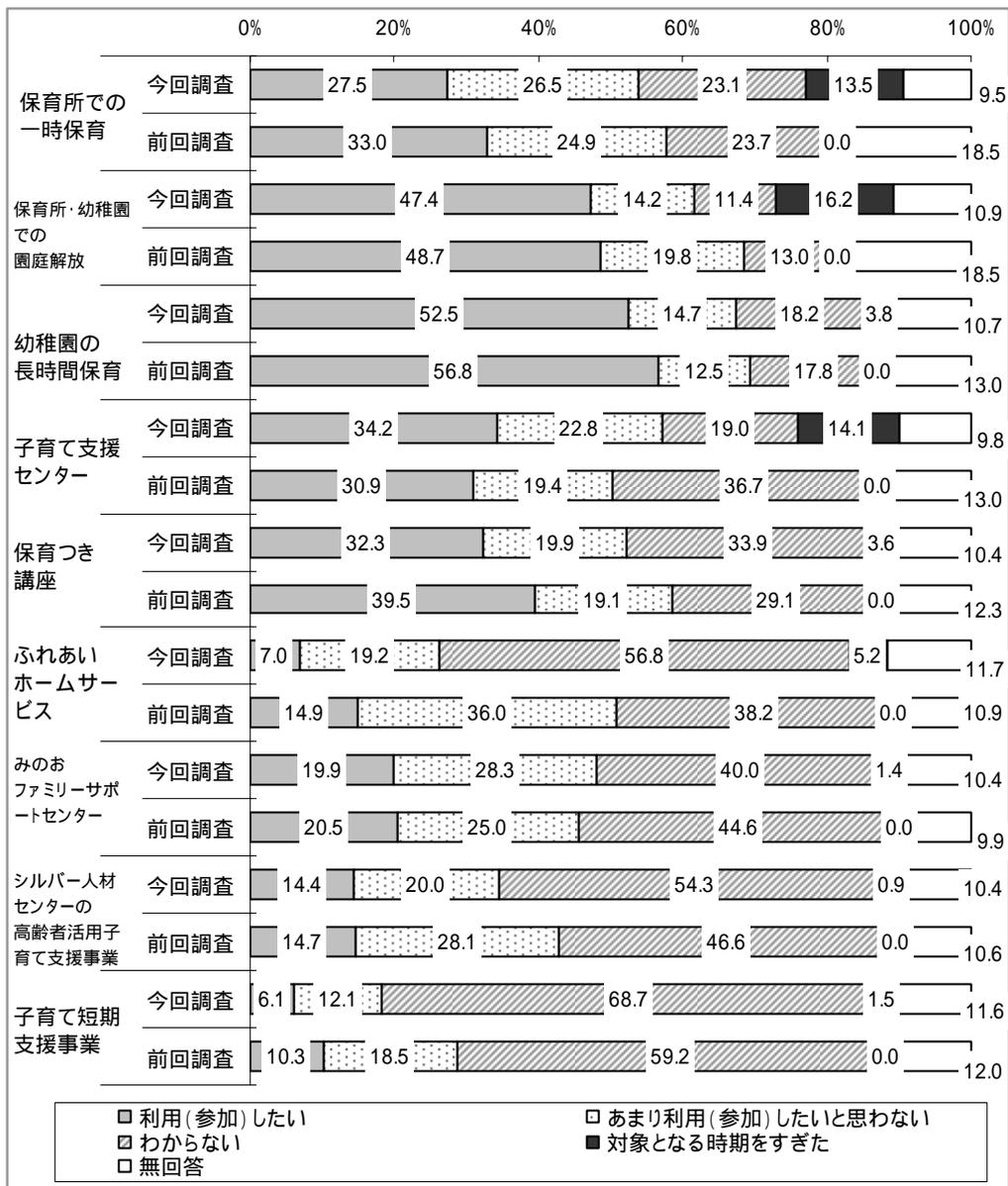
図表 II-114 保育サービス等の認知度・利用度[今回調査 N=1,066、前回調査 N=1,073]



保育サービス等の利用意向を見ると、「利用（参加）したい」という人の割合は、「幼稚園の長時間保育」（52.5%）、「保育所・幼稚園での園庭開放」（47.4%）で高く、5割前後となっています。また、「子育て支援センター（おひさまルーム）」（34.2%）、「保育つき講座」（32.3%）も3～3.5割となっています。

前回調査と比較すると、あまり大きな変化はないものの、「利用（参加）したい」という人の割合は、「子育て支援センター」で上昇しており、「幼稚園の長時間保育」「保育つき講座」「ふれあいホームサービス」では低下しています。

図表 II-115（前回調査）保育サービス等の利用意向[今回調査 N=1,066、前回調査 N=1,073]



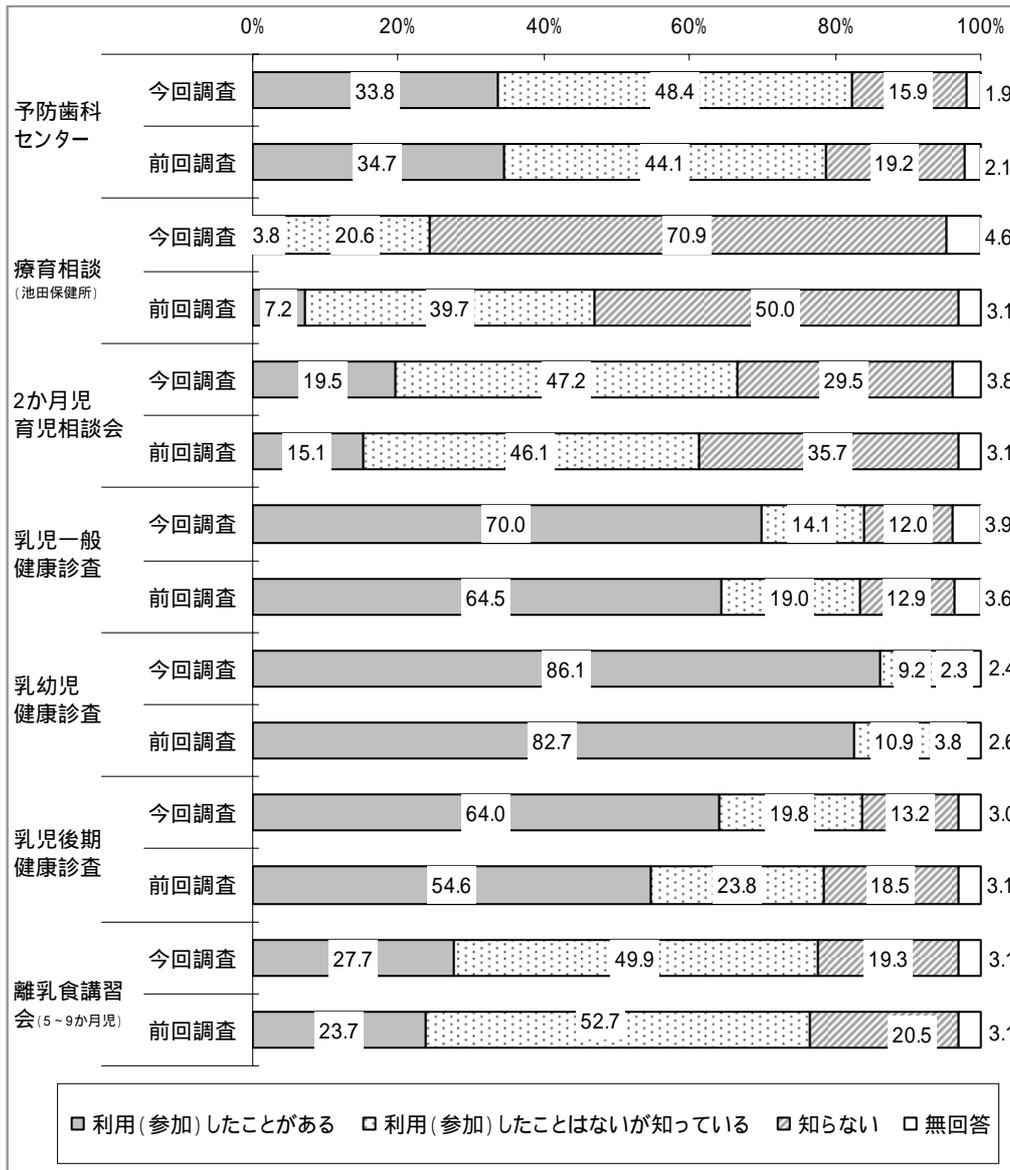
(2) 母子保健サービス等の認知度・利用度・利用意向

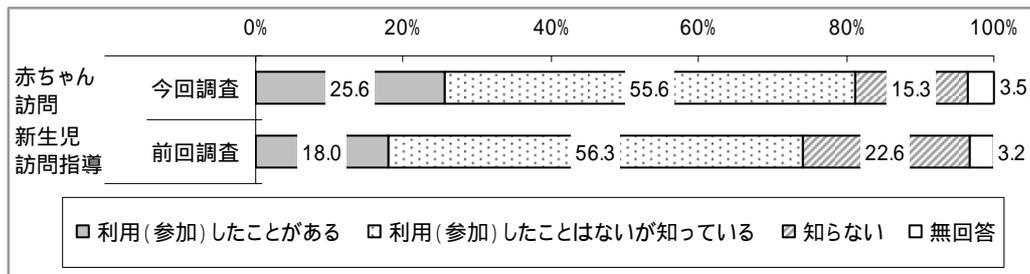
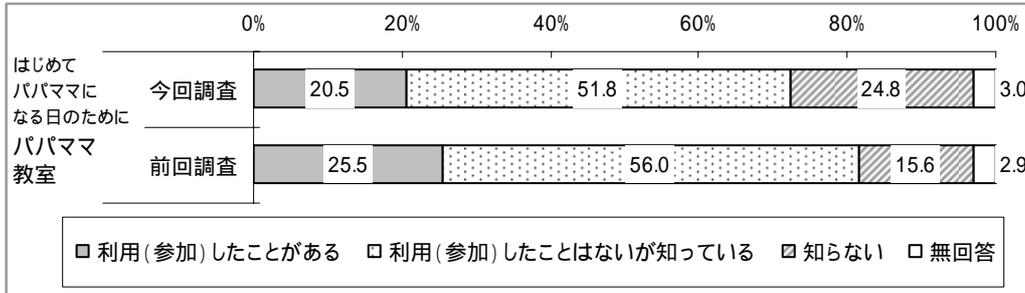
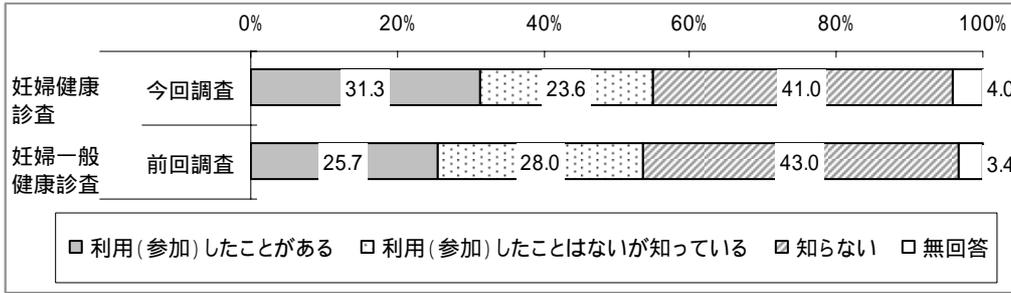
母子保健サービス等について、「利用（参加）したことがある」「利用（参加）したことはないが知っている」をあわせて認知度をみると、「予防歯科センター」「赤ちゃん訪問」「乳児一般健康診査」「乳幼児健康診査（4か月児、1歳6か月児、3歳6か月児）」「乳児後期健康診査」は認知度が高く8割以上となっています。「療育相談（池田保健所）」「まいど子どもカード事業（府事業）」は認知度が2～2.5割と低くなっています。

「利用（参加）したことがある」という人の割合から利用度を見ると、認知度の高い「乳児一般健康診査」「乳幼児健康診査（4か月児、1歳6か月児、3歳6か月児）」「乳児後期健康診査」は、利用度が6.5～8.5割と高くなっています。一方、それ以外のサービスでは、大半のものの認知度が5割を越えているのに対し、利用度は約3割以下にとどまっています。

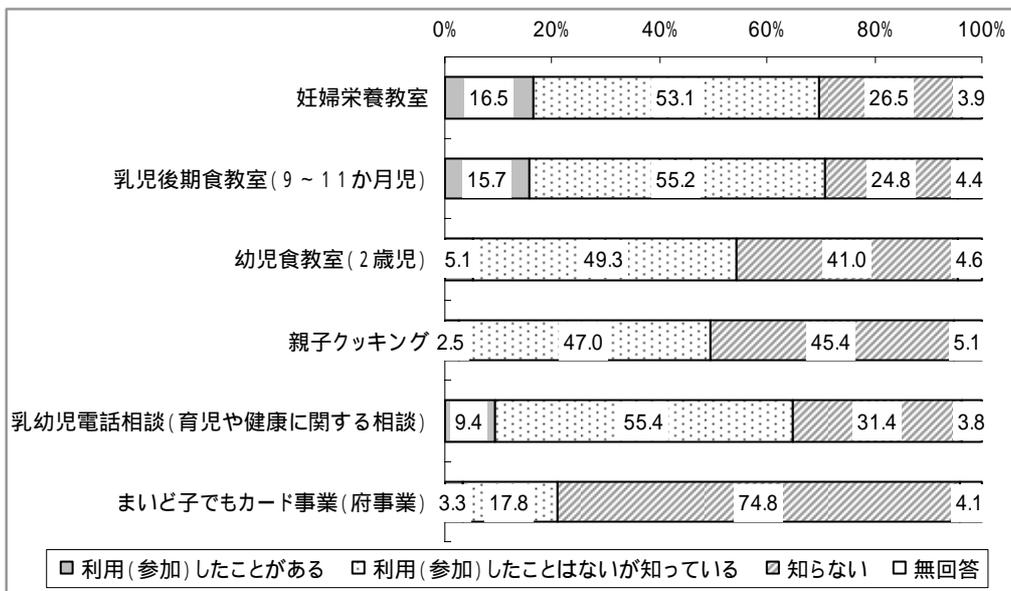
前回調査と比較すると、「乳児後期健康診査」は認知度・利用度ともに上昇しています。「乳児一般健康診査」「乳幼児健康診査」「離乳食講習会（5～9か月児）」では、認知度に大きな変化はないものの利用度は上昇しています。また、「療育相談（池田保健所）」では認知度・利用度ともに低下しています。

図表 II-116 母子保健サービス等の認知度・利用度[今回調査 N=1,066、前回調査 N=1,073]





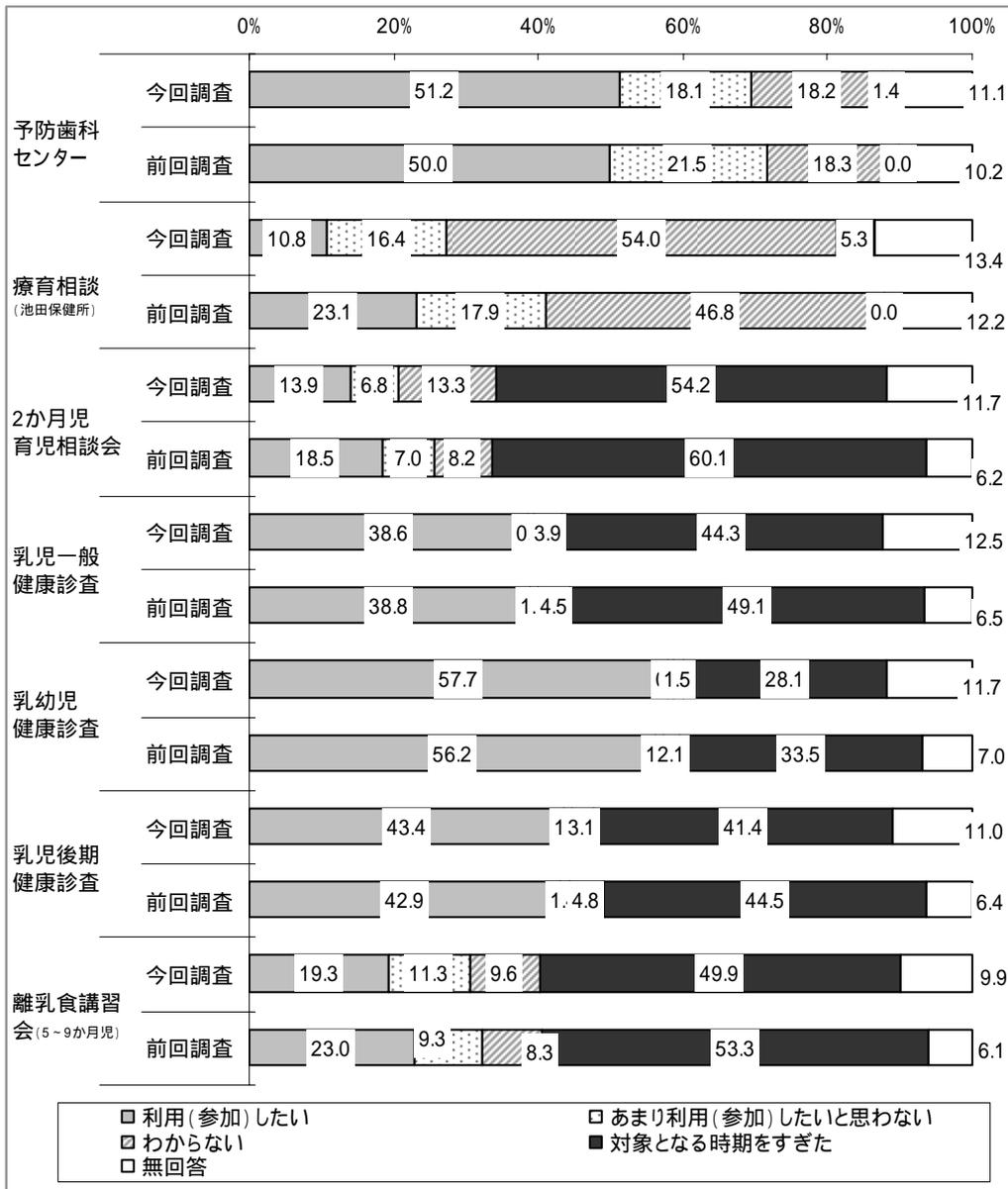
図表 II-117 母子保健サービス等の認知度・利用度[今回調査のみの項目 N=1,066]

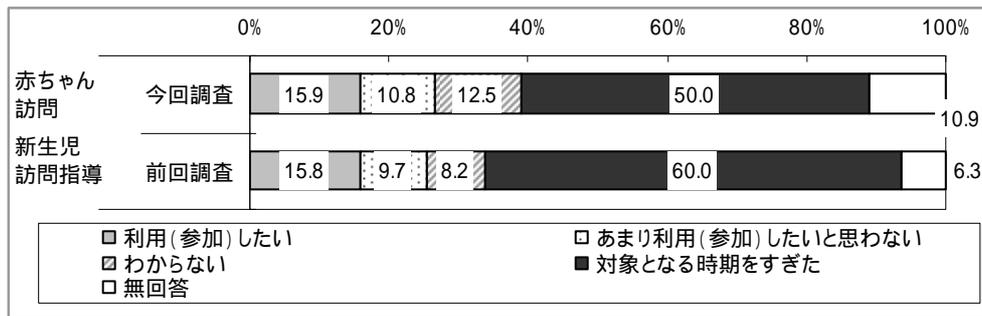
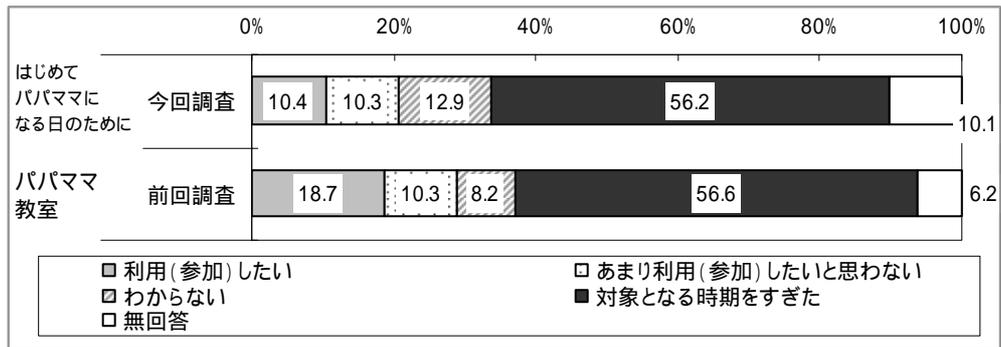
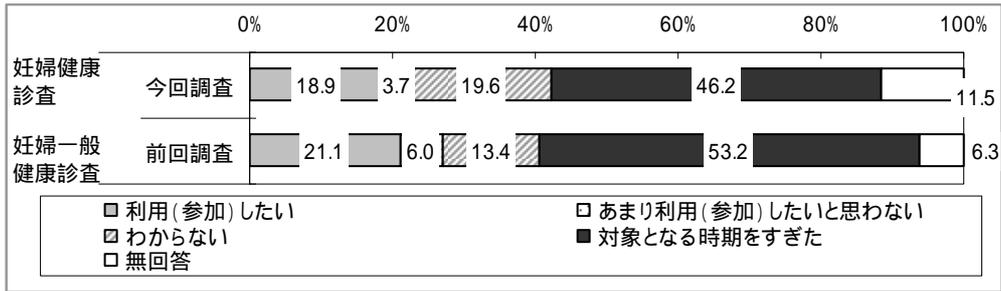


母子保健サービス等の利用意向を見ると、「利用(参加)したい」という人の割合は、「乳幼児健康診査(4か月児、1歳6か月児、3歳6か月児)」「(57.7%)」「予防歯科センター」(51.2%)「親子クッキング」(46.1%)「乳児後期健康診査」(43.4%)で高く、4~6割となっています。

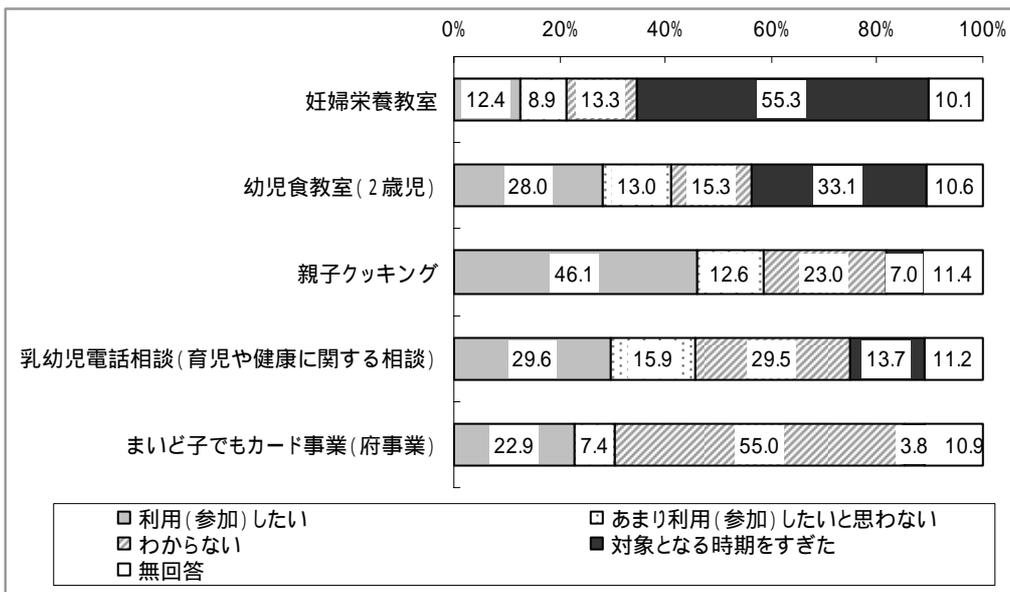
前回調査と比較すると、大きな変化はないものの、「利用(参加)したい」という人の割合は、「療育相談(池田保健所)」「2か月児育児相談会」で低下しています。

図表 II-118 母子保健サービス等の利用意向[今回調査 N=1,066、前回調査 N=1,073]





図表 II-119 母子保健サービス等の利用意向[今回調査のみの項目 N=1,066]

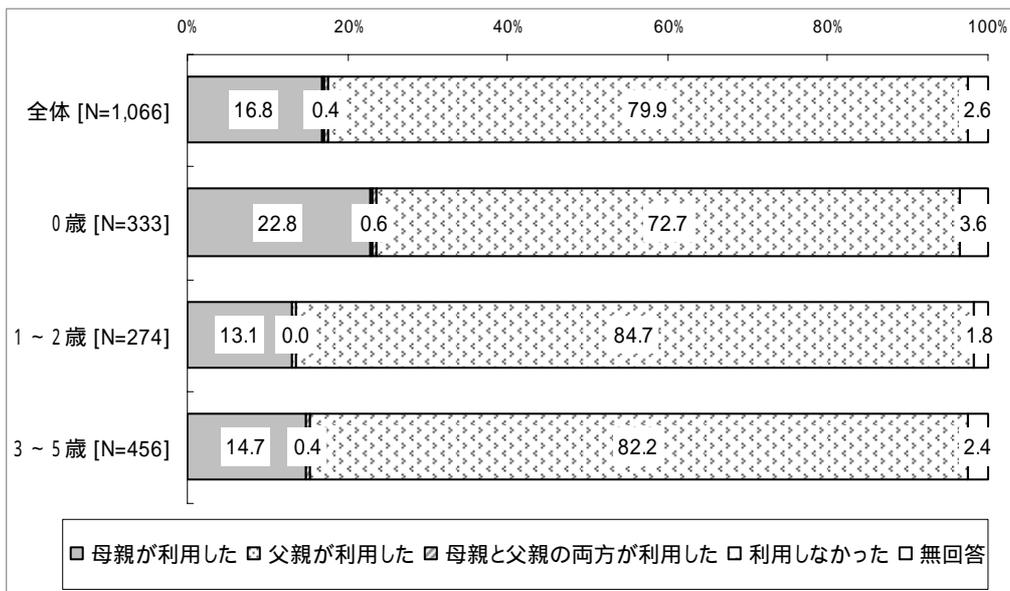


1 1 . 育児休業制度の利用状況

調査対象の子どもについて、育児休業制度を利用したか聞いたところ、「利用しなかった」という人の割合が最も高く 79.9%、次いで、「母親が利用した」という人の割合が高く 16.8%となっています。

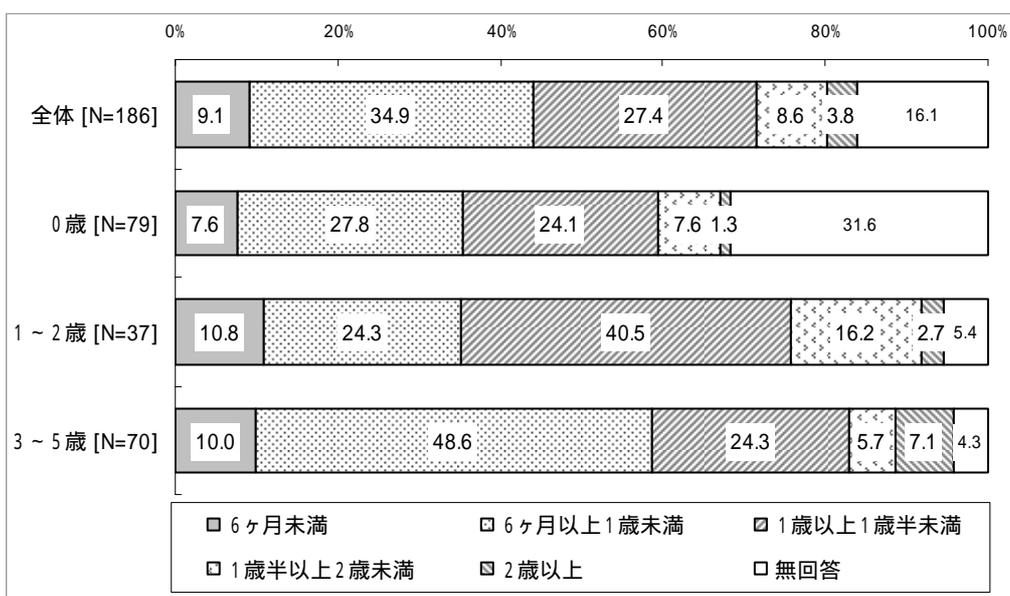
これを年齢別に見ると、0歳で「母親が利用した」という人の割合が高くなっています。

図表 II-120 調査対象の子どもについて、育児休業制度を利用したか[N=1,066]



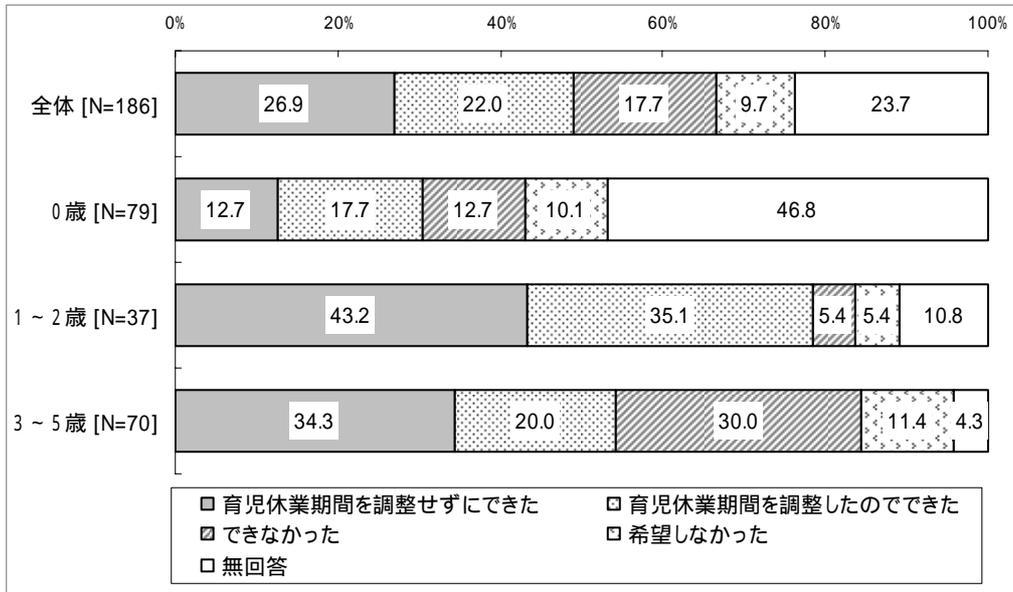
育児休業を「母親が利用した」「父親が利用した」「母親と父親の両方が利用した」と回答した人に、育児休業から復帰したときの子どもの月齢を聞いたところ、「6ヶ月以上1歳未満」(34.9%)、「1歳以上1歳半未満」(27.4%)の順に高い割合となっています。

図表 II-121 育児休業から復帰したときの子どもの月齢[N=186]



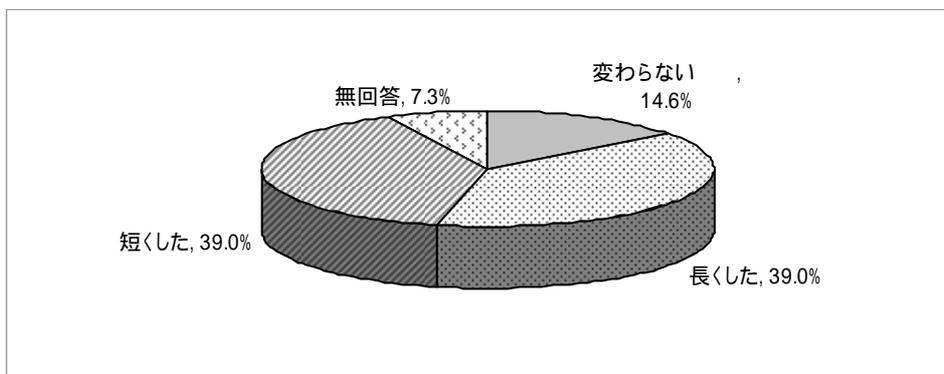
育児休業を「母親が利用した」「父親が利用した」「母親と父親の両方が利用した」と回答した人に、育児休業明けに希望する保育サービスをすぐ利用できたか聞いたところ、「育児休業期間を調整せずにできた」(26.9%)、「育児休業期間を調整したのでできた」(22.0%)、「できなかった」(17.7%)の順に高い割合となっています。

図表 II-122 育児休業明けに希望する保育サービスをすぐ利用できたか[N=186]



育児休業明けに希望する保育サービスをすぐ利用できたかについて、「育児休業を調整したのでできた」と回答した人に、育児休業明けに希望する保育サービスが確実に利用できたとしたら、育児休業は実際に取得した期間と変わったか聞いたところ、「長くした」「短くした」とともに39.0%となっています。

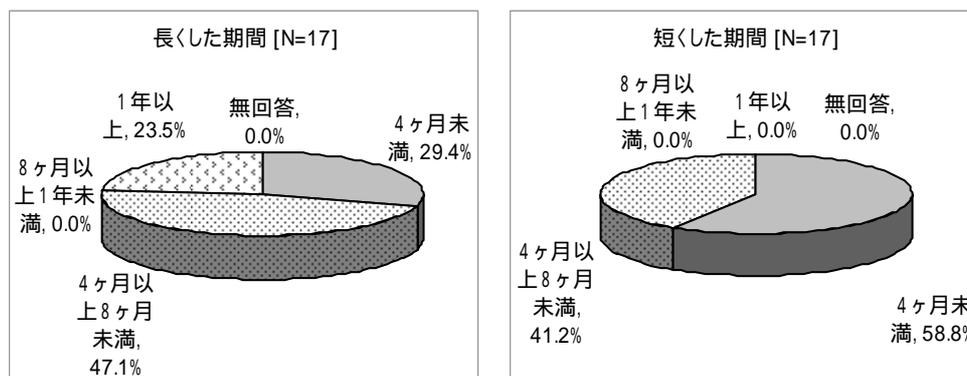
図表 II-123 育児休業明けに希望する保育サービスを確実に利用できた場合の育児休業期間[N=41]



育児休業明けに希望する保育サービスが確実に利用できたとしたら、育児休業は実際に取得した期間よりも「長くした」と回答した人に、長くした期間を聞いたところ、「4か月以上8ヶ月未満」という人の割合が最も高く47.1%となっています。

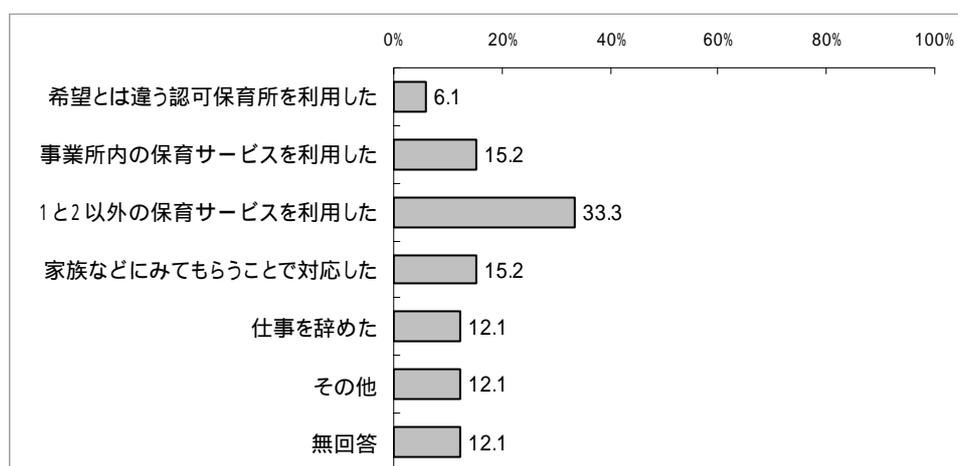
「短くした」と回答した人に、短くした期間を聞いたところ、「4ヶ月未満」という人の割合が最も高く58.8%となっています。

図表 II-124 希望する保育サービスが確実に利用できた場合の育児休業期間の実際の取得期間との差



育児休業明けに希望する保育サービスをすぐに利用「できなかった」と回答した人に、どのように対応したか聞いたところ、「1（希望とは違う認可保育所）と2（事業所内の保育サービス）以外の保育サービスを利用した」という人の割合が最も高く33.3%となっています。

図表 II-125 育児休業明けに希望する保育サービスをすぐ利用できなかった人の対応[N=33；複数回答]



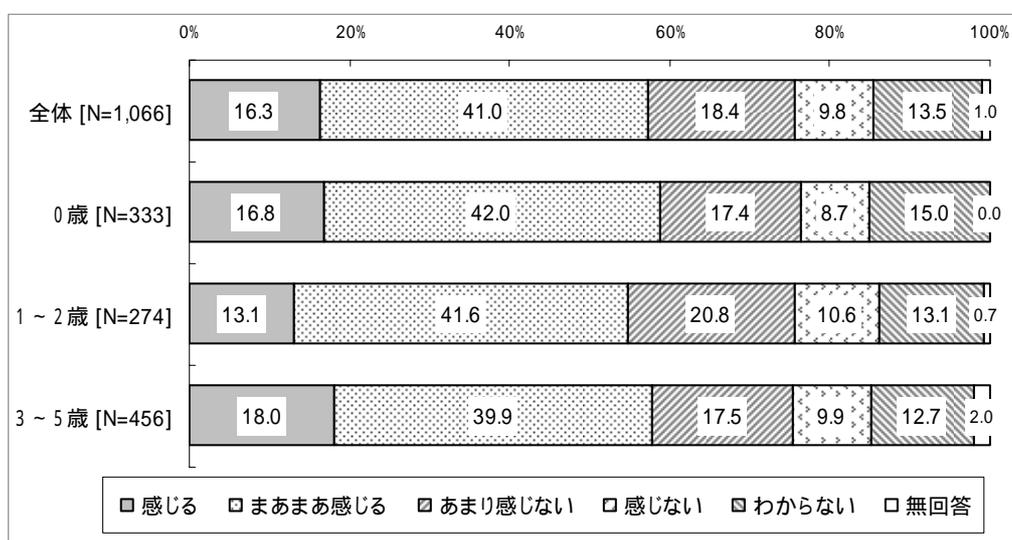
12. 現在の生活について

(1) 家庭での暮らしの様子

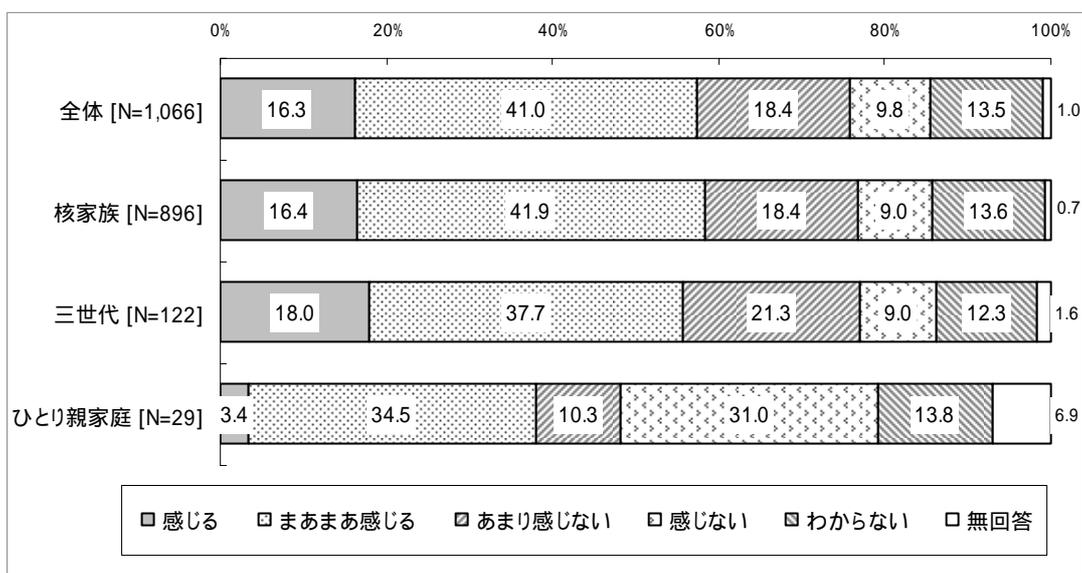
家庭において、『仕事と生活の調和』が図られていると感じるか聞いたところ、「まあまあ感じる」という人の割合が最も高く41.0%、次いで「あまり感じない」という人の割合が高く18.4%となっています。

これを家族構成別に見ると、ひとり親家庭で「感じる」という人の割合が低く、「感じない」という人の割合が高くなっています。

図表 II-126 家庭において、『仕事と生活の調和』が図られていると感じるか[N=1,066]



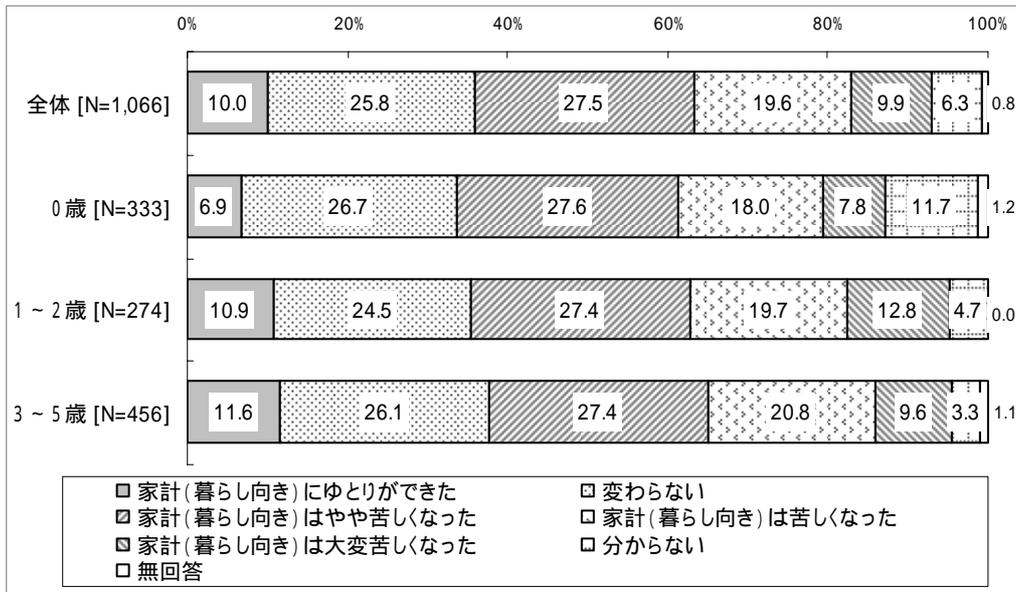
図表 II-127 (家族構成別) 家庭において、『仕事と生活の調和』が図られていると感じるか[N=1,066]



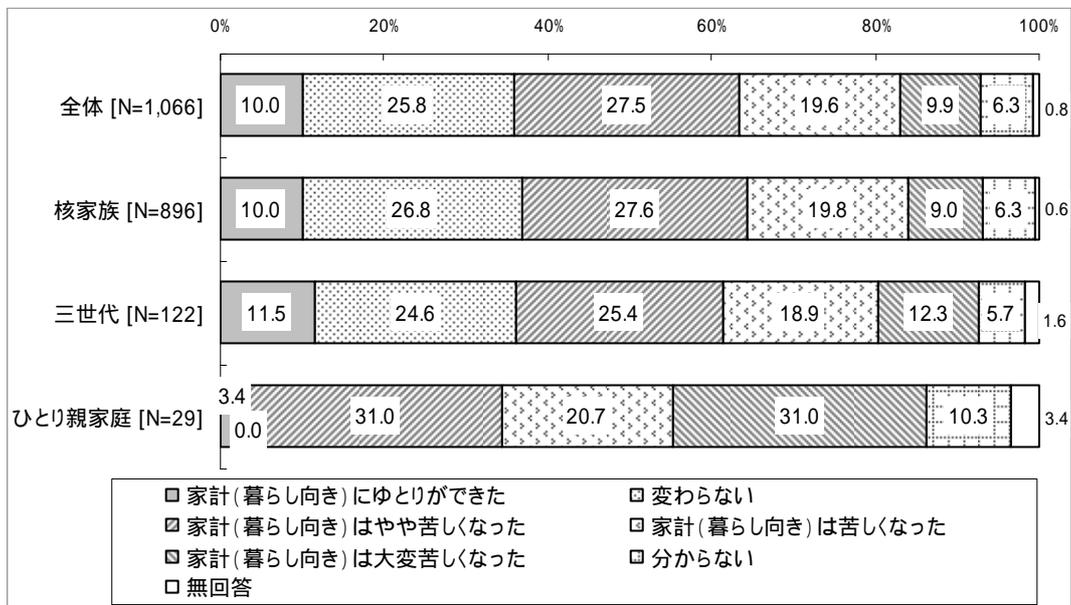
4～5年前と比べた家計の現状を聞いたところ、「家計(暮らし向き)はやや苦しくなった」(27.5%)、「変わらない」(25.8%)、「家計(暮らし向き)は苦しくなった」(19.6%)の順に高い割合となっています。

これを家族構成別に見ると、ひとり親家庭で「家計(暮らし向き)は大変苦しくなった」という人の割合が高くなっています。

図表 II-128 4～5年前と比べた家計の現状[N=1,066]



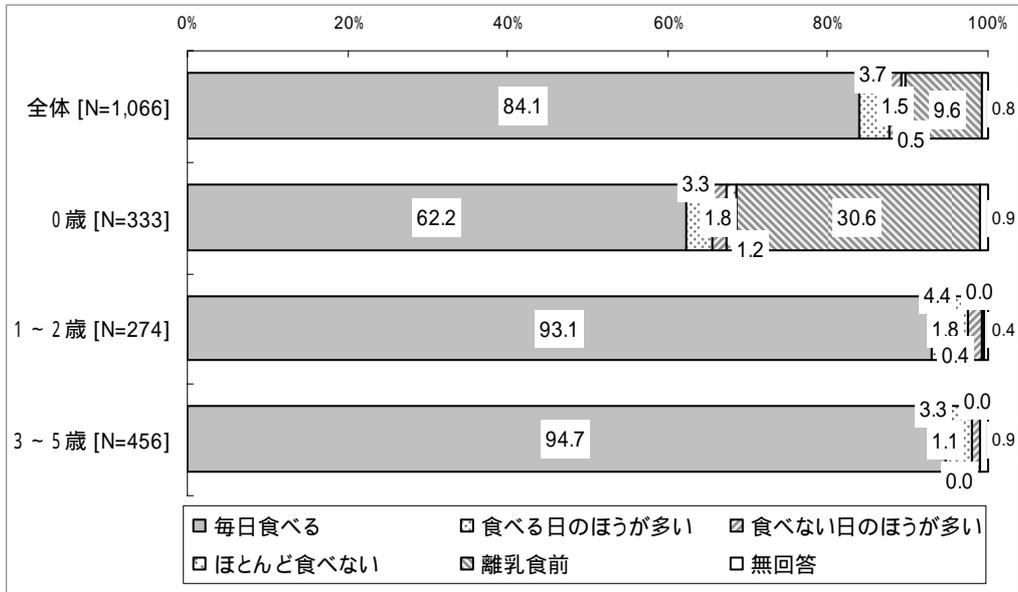
図表 II-129 (家族構成別) 4～5年前と比べた家計の現状[N=1,066]



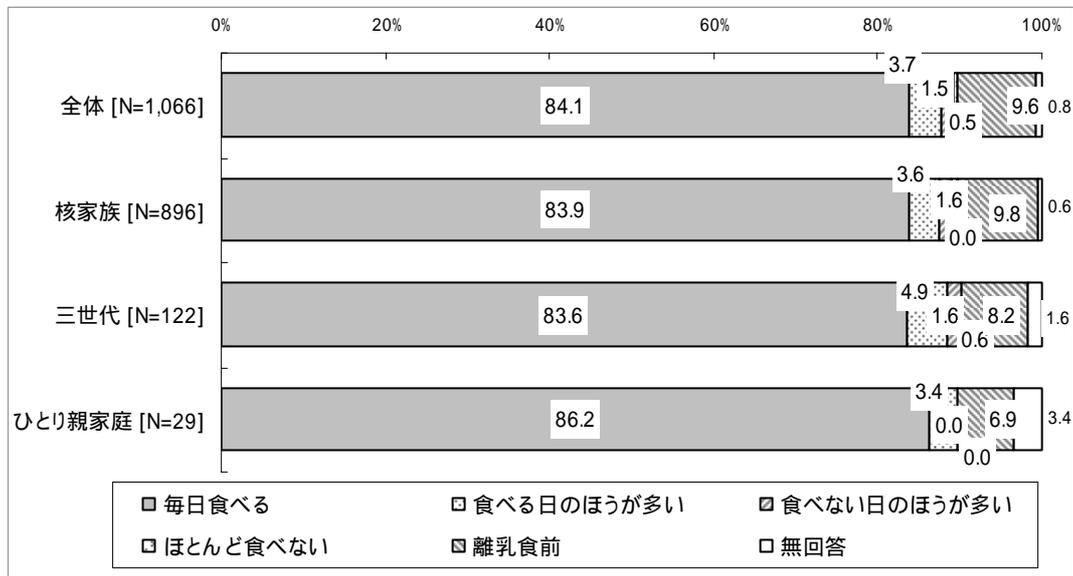
(2) 子どもの生活の様子

調査対象の子どもの朝食の頻度を聞いたところ、「毎日食べる」という人の割合が最も高く 84.1%、次いで「離乳食前」という人の割合が高く 9.6%となっています。

図表 II-130 朝食の頻度[N=1,066]

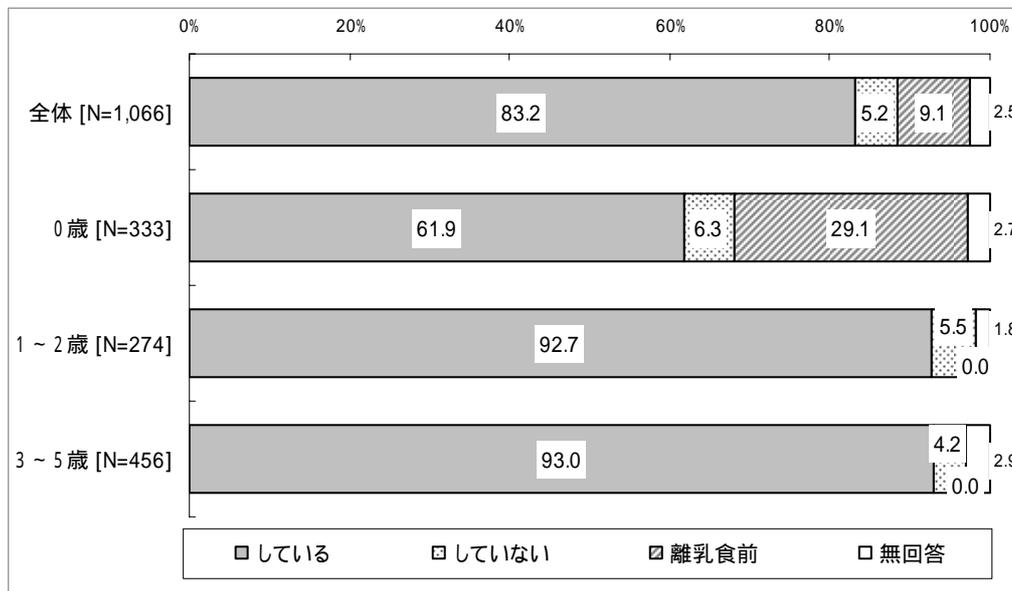


図表 II-131 (家族構成別) 朝食の頻度[N=1,066]

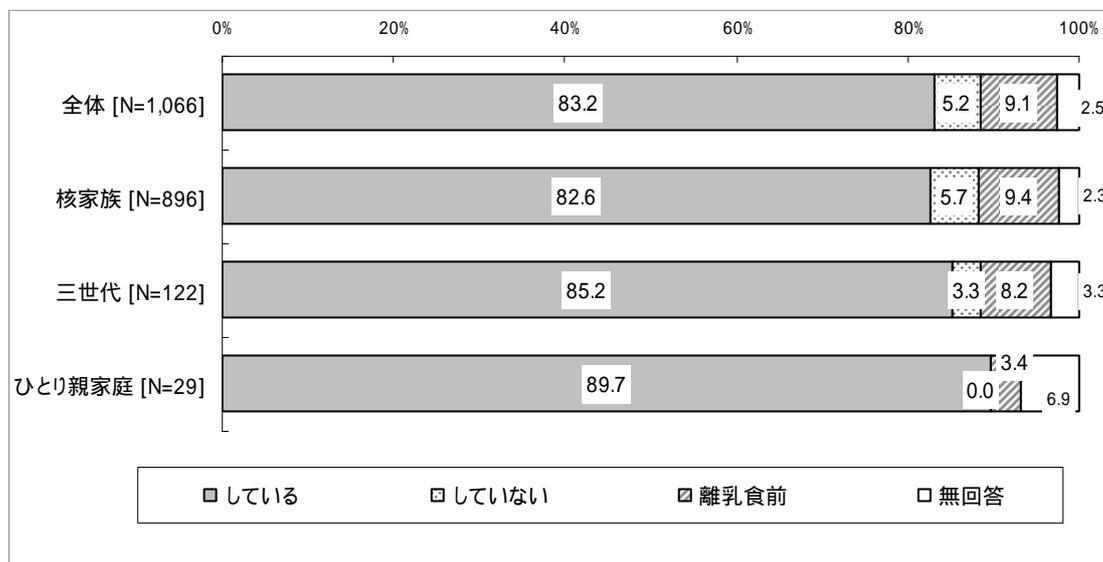


調査対象の子どもは1日1回は家族と一緒に食事をしているか聞いたところ、「している」という人の割合が最も高く83.2%、次いで「離乳食前」という人の割合が高く9.1%となっています。

図表 II-132 1日1回は家族と一緒に食事をしているか[N=1,066]



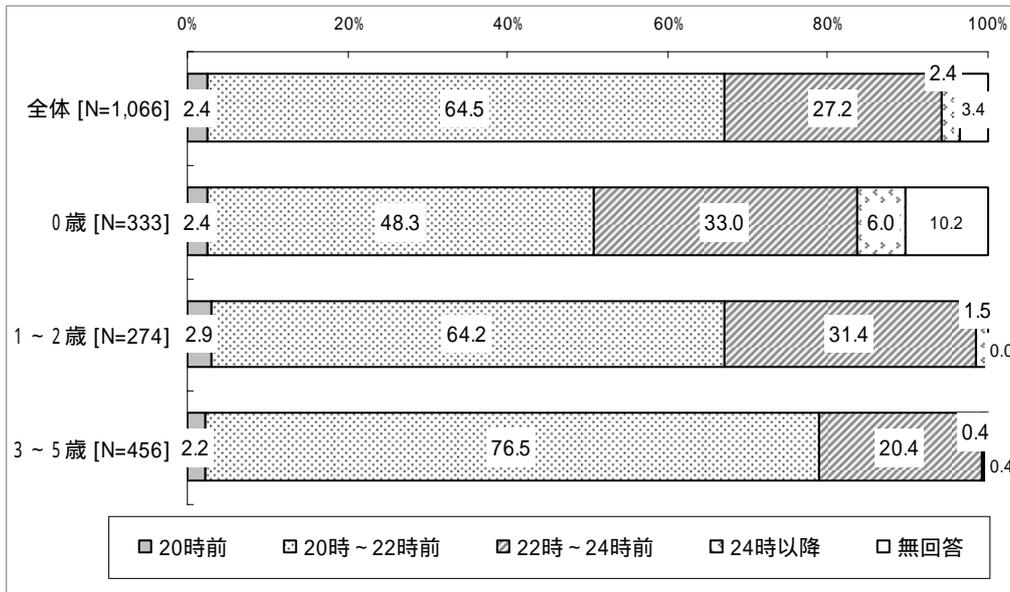
図表 II-133 (家族構成別) 1日1回は家族と一緒に食事をしているか[N=1,066]



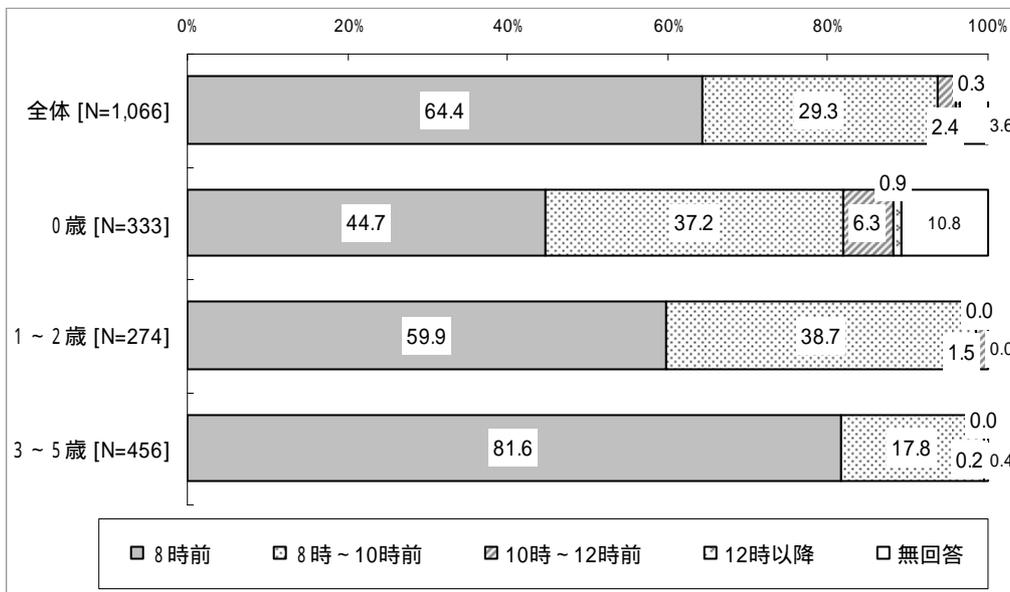
調査対象の子どもの平日の就寝時間は、「20時～22時前」(64.5%)、「22時～24時前」(27.2%)の順に高い割合となっています。また、起床時間は、「8時前」(64.4%)、「8時～10時前」(29.3%)の順に高い割合となっています。

これを年齢別に見ると、就寝時間、起床時間ともに、年齢が上がるにつれて、時間の早い人の割合が高くなっています。

図表 II-134 平日の就寝時間[N=1,066]

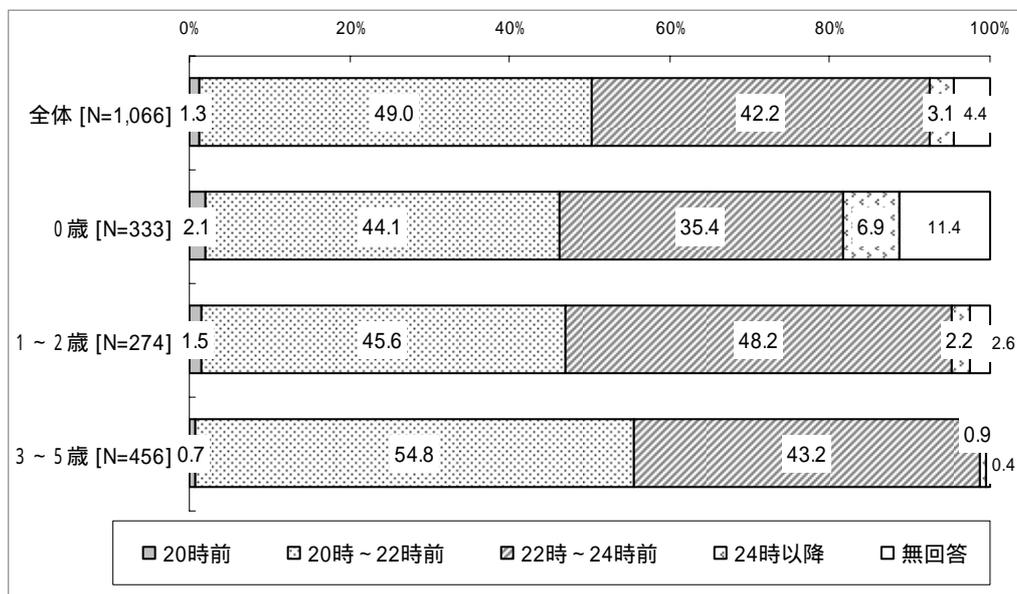


図表 II-135 平日の起床時間[N=1,066]



休前日の就寝時間は、割合の高い順に「20時～22時前」(49.0%)、「22時～24時前」(42.2%)と、平日に比べて「22時～24時前」の割合が高くなっています。

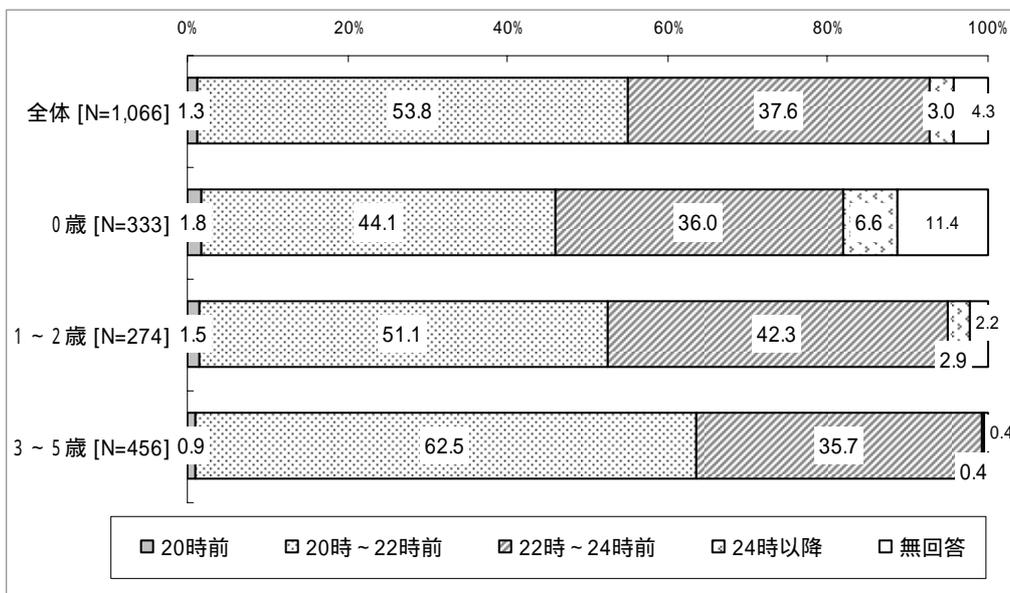
図表 II-136 休前日の就寝時間[N=1,066]



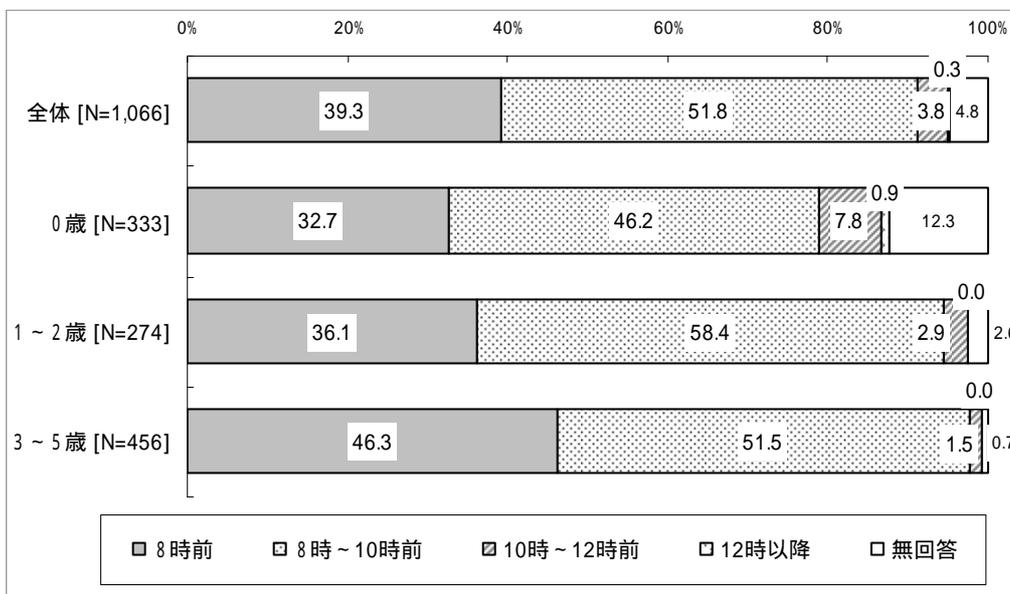
休日の就寝時間は、「20時～22時前」(53.8%)、「22時～24時前」(37.6%)の順に高い割合となっています。また、起床時間は、割合の高い順に「8時～10時前」(51.8%)、「8時前」(39.3%)と、平日に比べて「8時～10時前」の割合が高くなっています。

これを年齢別に見ると、就寝時間、起床時間ともに、年齢が上がるにつれて、時間の早い人の割合が高くなっています。

図表 II-137 休日の就寝時間[N=1,066]



図表 II-138 休日の起床時間[N=1,066]

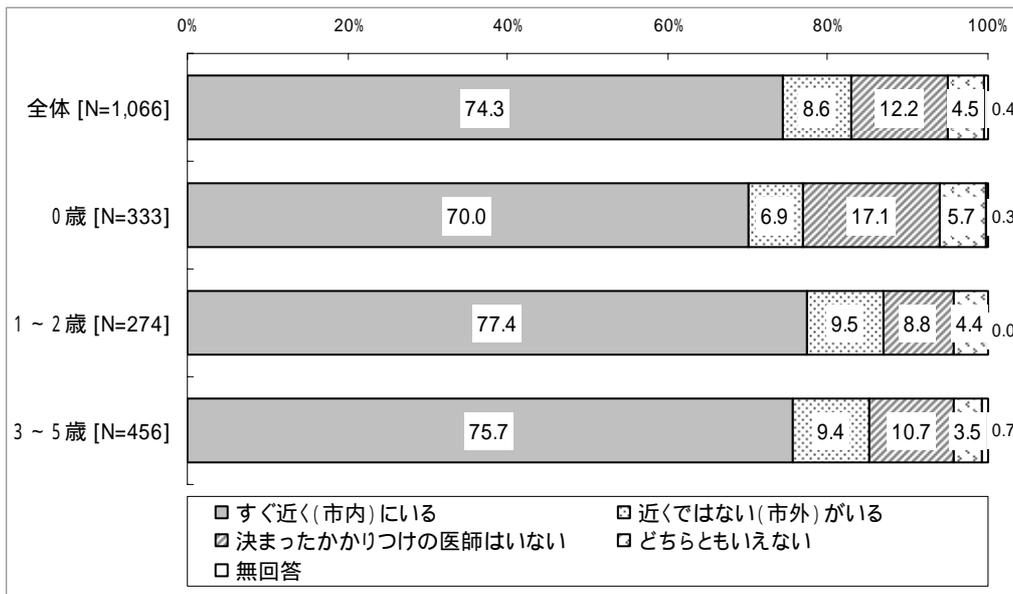


(3) 小児医療について

調査対象の子どもに、かかりつけ医がいるか聞いたところ、「すぐ近く(市内)にいる」という人の割合が最も高く74.3%となっています。一方で、「決まったかかりつけの医師はいない」という人の割合は12.2%となっています。

これを年齢別に見ると、「決まったかかりつけの医師はいない」という人の割合は0歳で高くなっています。

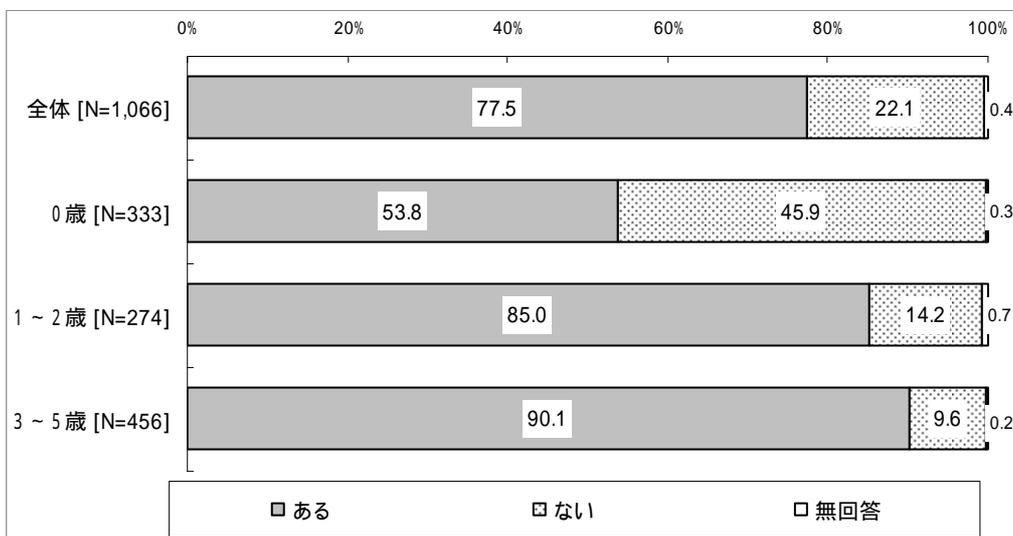
図表 II-139 かかりつけ医の有無[N=1,066]



夜間や休日に、子どもの急病などにより、医療機関の必要性を感じた経験があるか聞いたところ、「ある」という人が77.5%、「ない」という人が22.1%となっています。

これを年齢別に見ると、「ある」という人の割合は、年齢が上がるにつれて高くなっています。

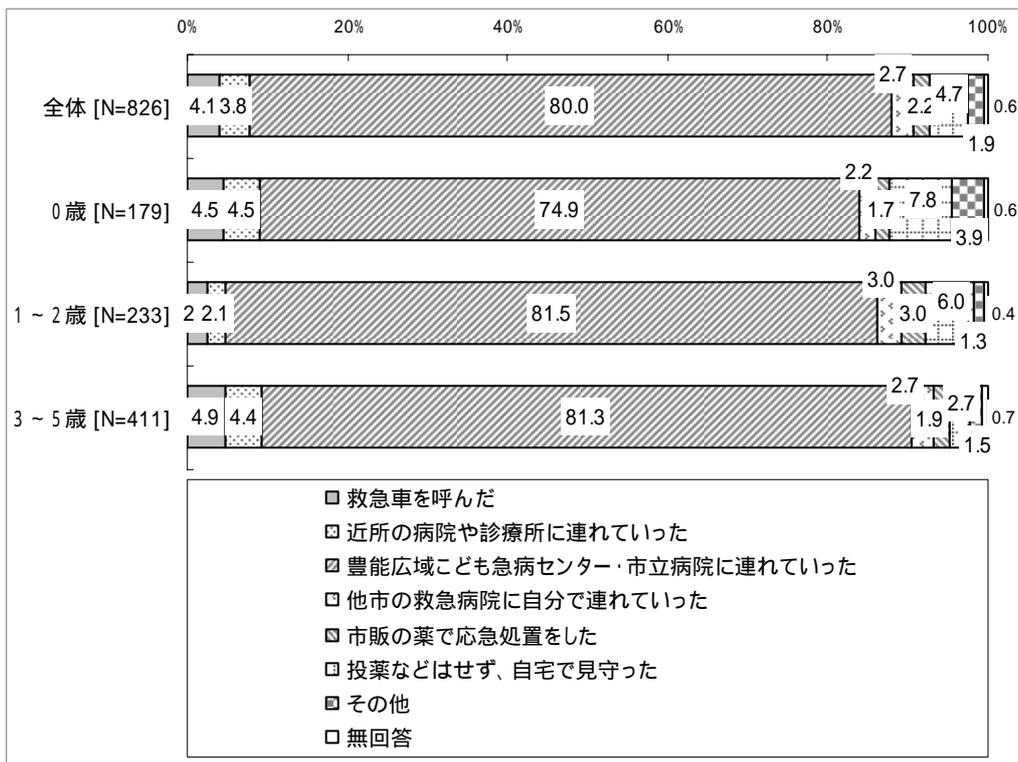
図表 II-140 夜間や休日に、医療機関の必要性を感じた経験があるか[N=1,066]



夜間や休日に、子どもの急病などにより、医療機関の必要性を感じた経験が「ある」と回答した人に、その時の対応方法を聞いたところ、「豊能広域こども急病センター・市立病院に連れていった」という人の割合が最も高く 80.0%となっています。

これを年齢別に見ると、「投薬などはせず、自宅で見守った」という人の割合は0歳で高くなっています。

図表 II-141 夜間や休日に子どもの急病などにより、医療時間の必要性を感じた時の対応[N=826]



13. 子育て全般についての考え

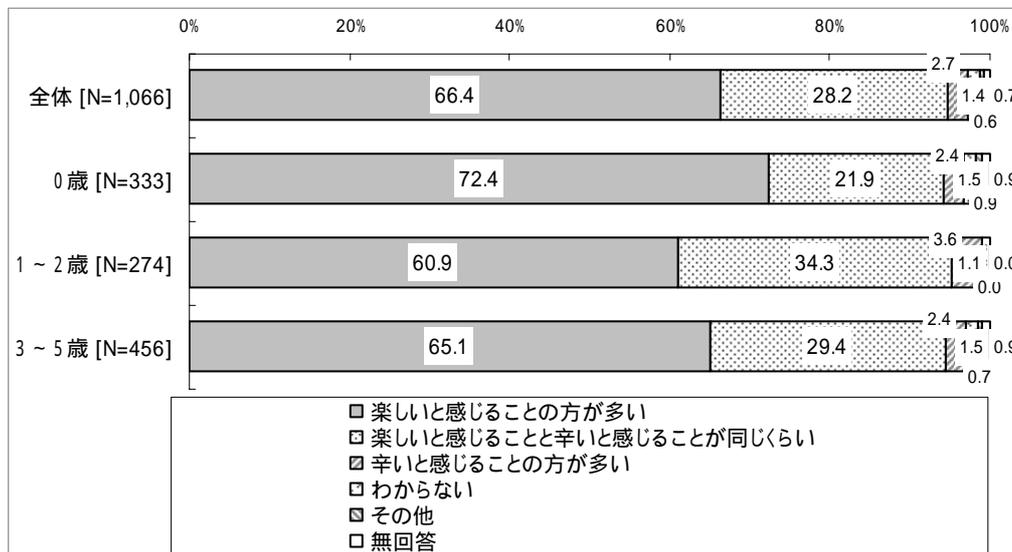
(1) 子育てを楽しんでいると感じることが多いか

子育てを楽しんでいると感じることが多いか聞いたところ、「楽しいと感じることの方が多い」という人の割合が最も高く 66.4%、次いで「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」という人の割合が高く 28.2%となっています。

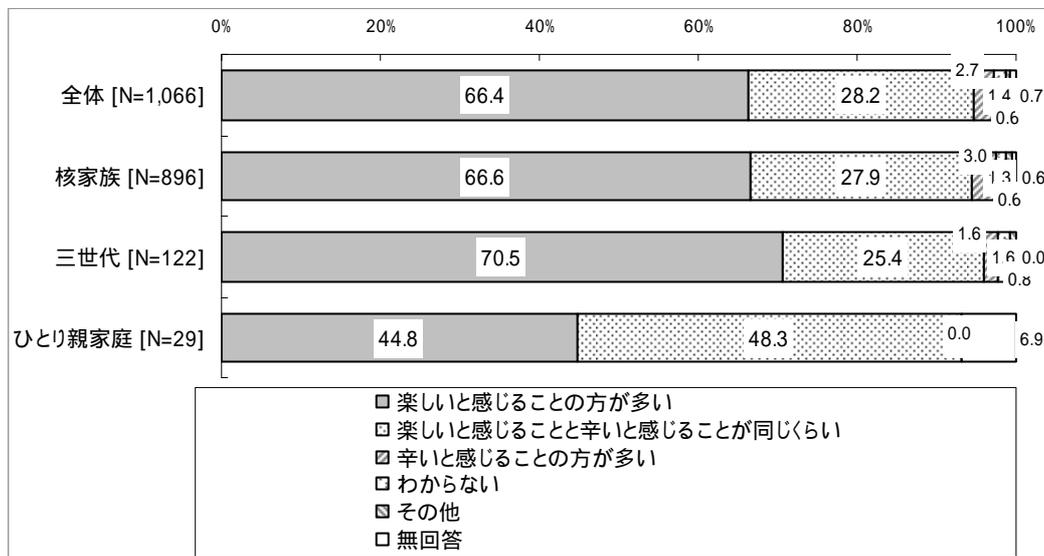
これを年齢別に見ると、「楽しいと感じることの方が多い」という人の割合は、0歳で高くなっています。

また、家族構成別に見ると、「楽しいと感じることの方が多い」という人の割合は、ひとり親家庭で低くなっています。

図表 II-142 子育てを楽しんでいると感じることが多いか[N=1,066]



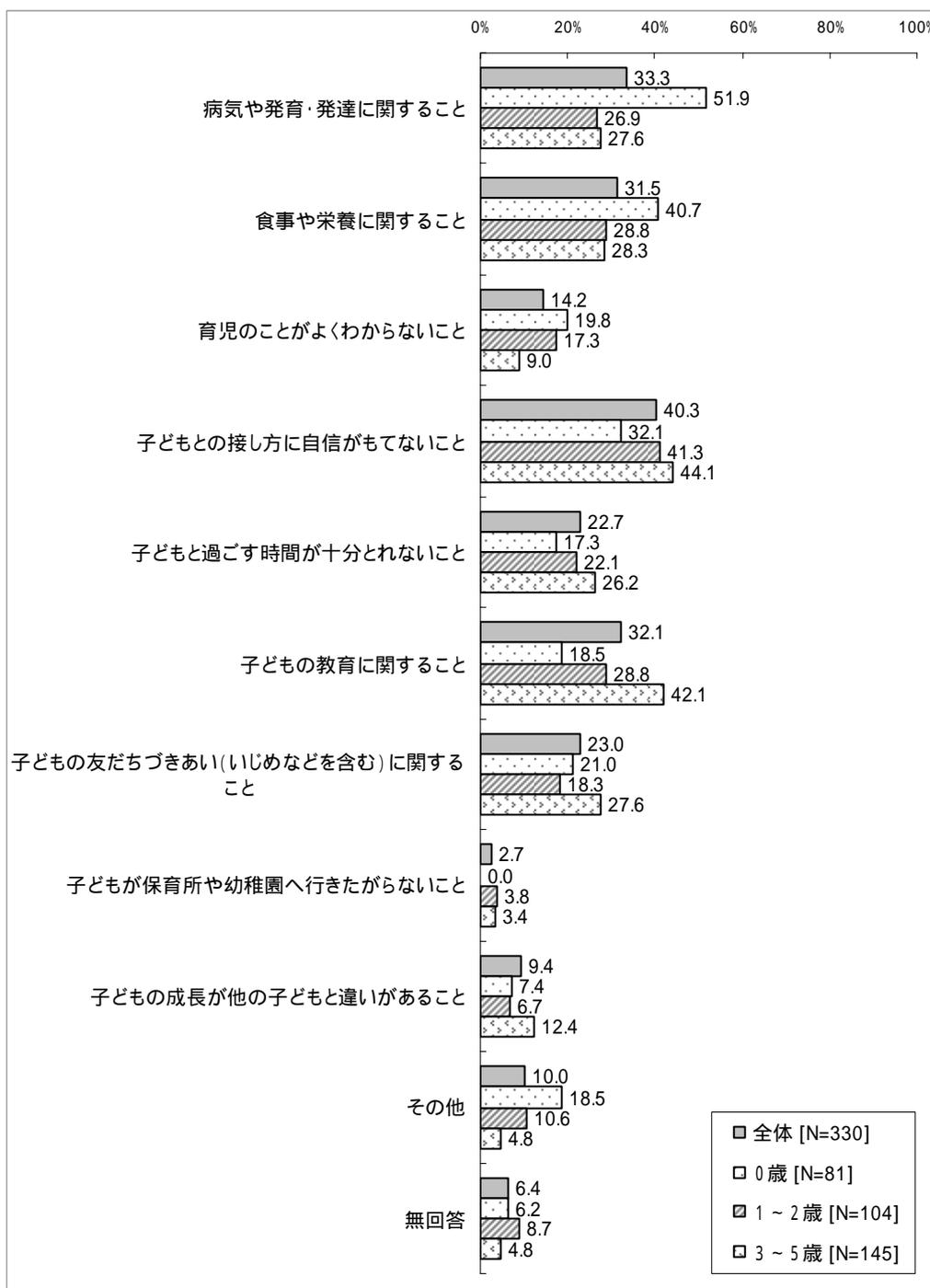
図表 II-143 (家族構成別) 子育てを楽しんでいると感じることが多いか[N=1,066]



子育てについて、「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」「辛いと感じることの方が多い」と回答した人に、子どもに関する日常の悩みごとを聞いたところ、「子どもとの接し方に自信がもてないこと」(40.3%)、「病気や発育・発達に関すること」(33.3%)、「子どもの教育に関すること」(32.1%)の順に高い割合となっています。

これを年齢別に見ると、「病気や発育・発達に関すること」「食事や栄養に関すること」という人の割合は0歳で高くなっています。

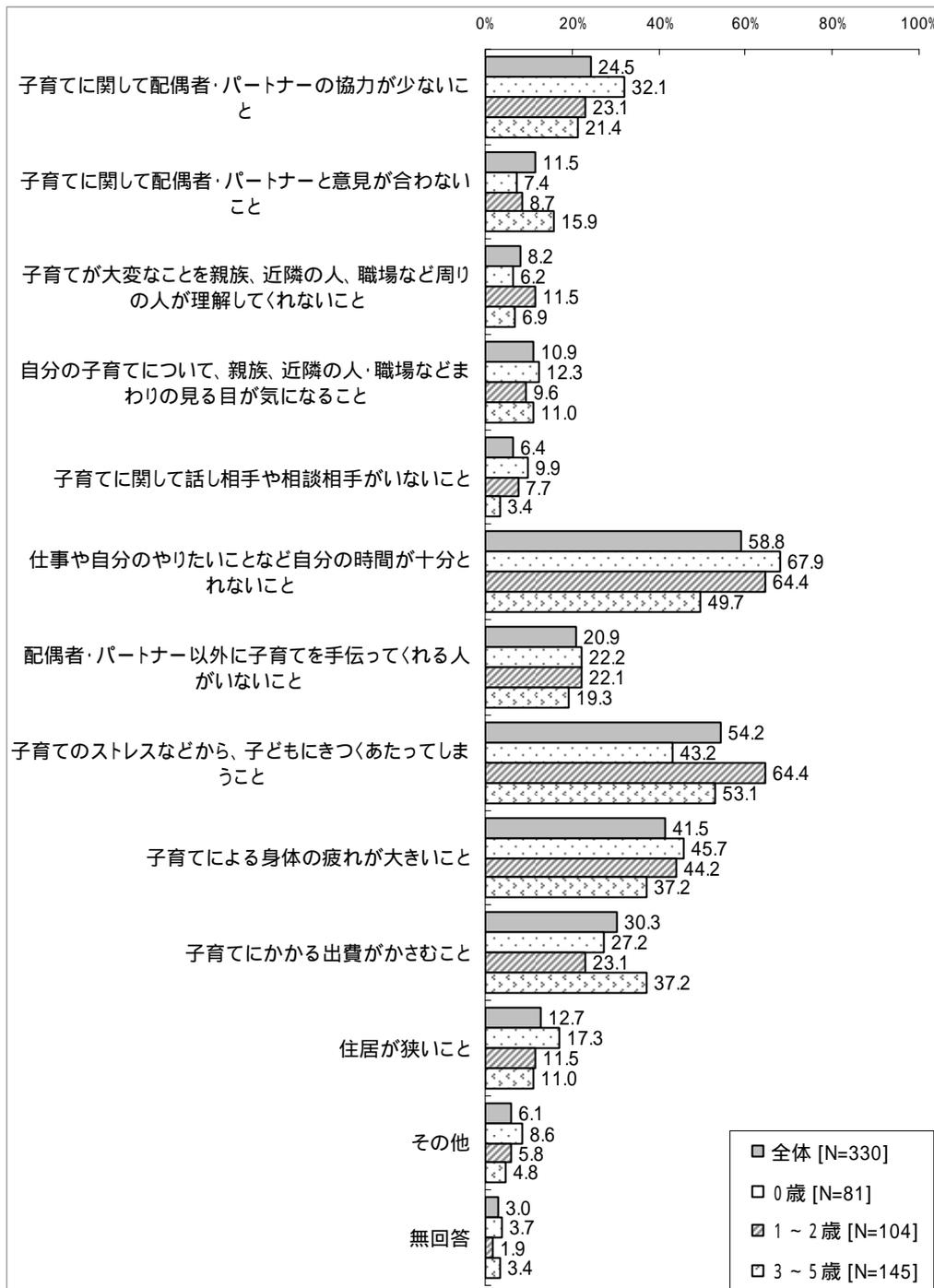
図表 II-144 子どもに関する日常の悩みごと[N=330；複数回答]



また、親の心身の状態に関する日常の悩みごとを聞いたところ、「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分とれないこと」(58.8%)、「子育てのストレスなどから、子どもにきつくあたってしまうこと」(54.2%)、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」(41.5%)の順に高い割合となっています。

これを年齢別に見ると、「子育てのストレスなどから、子どもにきつくあたってしまうこと」という人の割合は1～2歳で高く、「子育てにかかる出費がかさむこと」という人の割合は3～5歳で高くなっています。

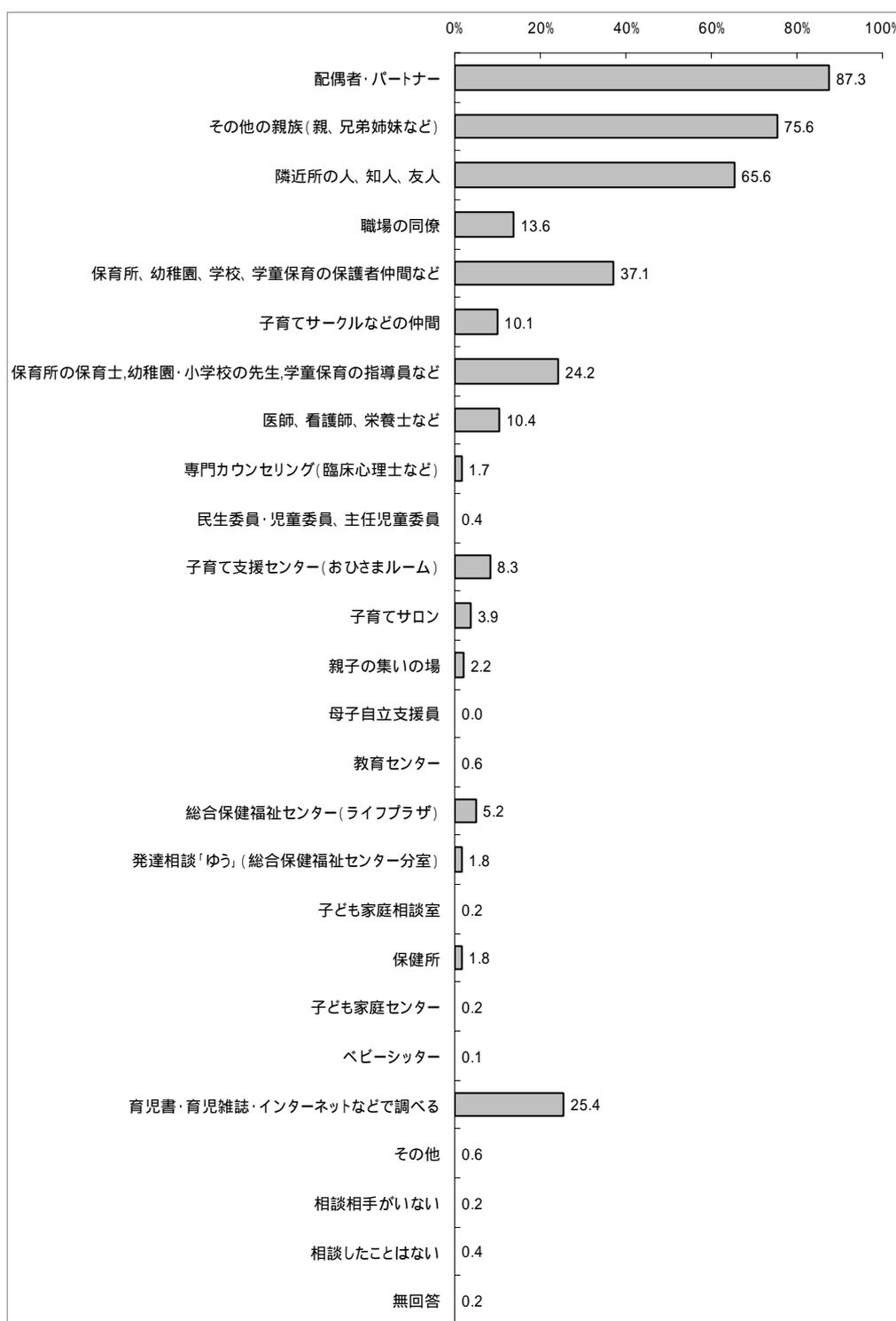
図表 II-145 親の心身の状態に関する日常の悩みごと[N=330；複数回答]



(2) 子育てに関する相談相手

身近な地域での、子育ての相談相手を聞いたところ、「配偶者・パートナー」(87.3%)、「その他の親族(親、兄弟姉妹など)」(75.6%)、「隣近所の人、知人、友人」(65.6%)の順に、高い割合となっています。

図表 II-146 身近な地域での子育ての相談相手[N=1,066；複数回答]



これを年齢別に見ると、「育児書・育児雑誌・インターネットなどで調べる」という人の割合は、年齢が下がるにつれて高くなっています。

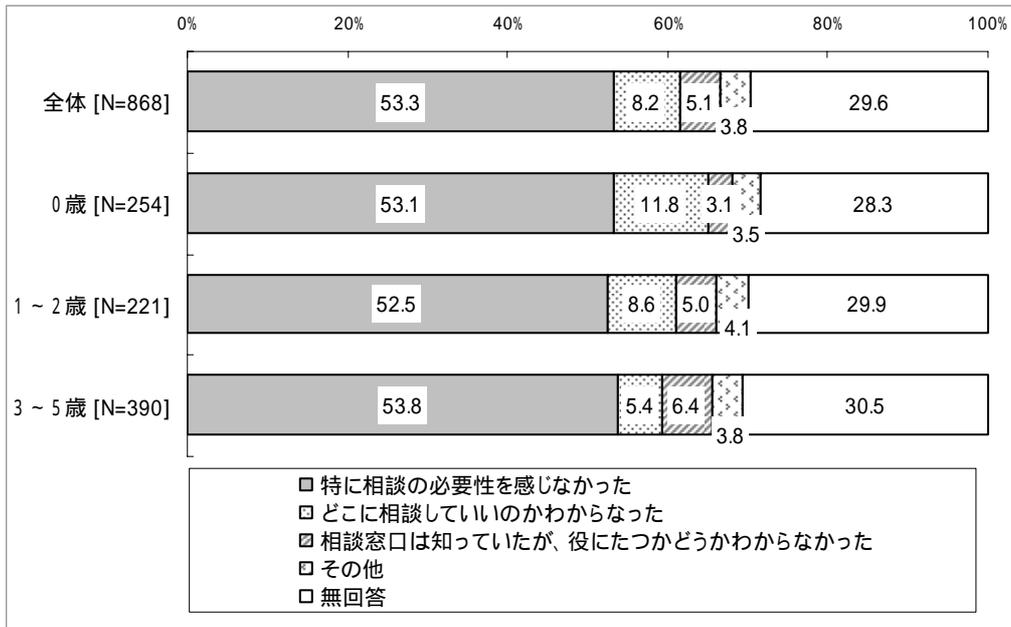
図表 II-147 (年齢別)身近な地域での子育ての相談相手[N=1,066 ; 複数回答]

	全体 [N=1,066]	0歳 [N=333]	1～2歳 [N=274]	3～5歳 [N=456]
配偶者・パートナー	87.3	88.3	90.1	85.1
その他の親族(親、兄弟姉妹など)	75.6	79.0	79.6	70.8
隣近所の人、知人、友人	65.6	65.5	67.9	64.5
職場の同僚	13.6	13.8	12.4	14.3
保育所、幼稚園、学校、学童保育の保護者仲間など	37.1	18.0	31.8	54.2
子育てサークルなどの仲間	10.1	13.2	14.2	5.5
保育所の保育士、幼稚園・小学校の先生、学童保育の指導員など	24.2	14.4	22.3	32.5
医師、看護師、栄養士など	10.4	15.3	9.9	7.2
専門カウンセリング(臨床心理士など)	1.7	0.6	2.6	2.0
民生委員・児童委員、主任児童委員	0.4	0.3	0.4	0.4
子育て支援センター(おひさまルーム)	8.3	9.9	10.2	6.1
子育てサロン	3.9	6.0	4.7	2.0
親子の集いの場	2.2	3.0	3.3	0.9
母子自立支援員	0.0	0.0	0.0	0.0
教育センター	0.6	0.3	1.1	0.4
総合保健福祉センター(ライフプラザ)	5.2	8.1	4.7	3.3
発達相談「ゆう」(総合保健福祉センター分室)	1.8	1.2	0.7	2.9
子ども家庭相談室	0.2	0.3	0.4	0.0
保健所	1.8	2.7	1.5	1.3
子ども家庭センター	0.2	0.6	0.0	0.0
ベビーシッター	0.1	0.0	0.4	0.0
育児書・育児雑誌・インターネットなどで調べる	25.4	35.4	24.8	18.6
その他	0.6	0.6	0.0	0.9
相談相手がいない	0.2	0.0	0.0	0.4
相談したことはない	0.4	0.6	0.4	0.2
無回答	0.2	0.0	0.0	0.4

子育ての相談相手として、公的相談窓口、機関のいずれも回答しなかった人に、その理由を聞いたところ、「特に相談の必要性を感じなかった」という人の割合が最も高く 53.3% となっています。また、「どこに相談していいのかわからなかった」という人の割合は、8.2% となっています。

これを年齢別に見ると、「どこに相談していいのかわからなかった」という人の割合は、年齢が下がるにつれて高くなっています。

図表 II-148 公的相談窓口、機関に相談しない理由[N=868]



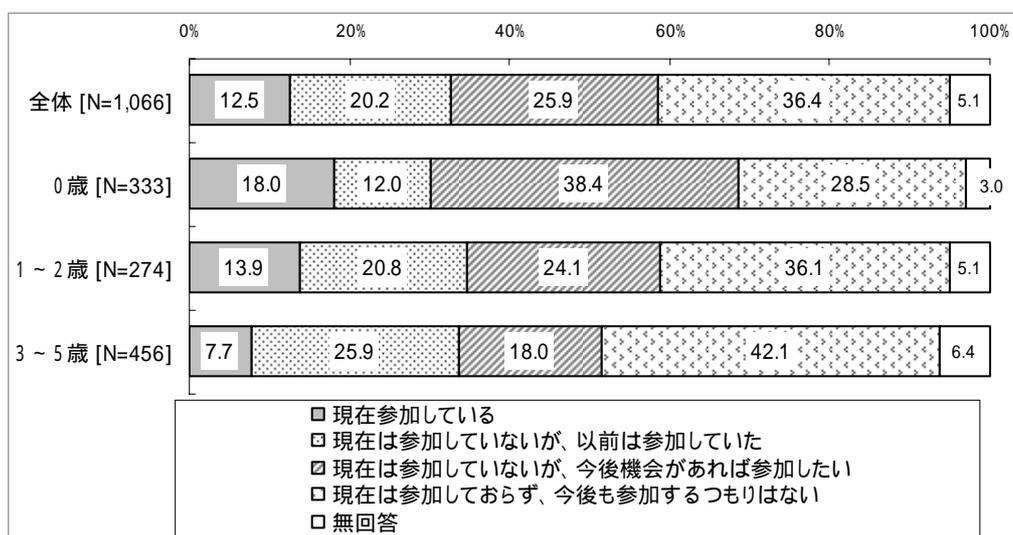
(3) 地域における子育て支援の状況

子育てに関するサークルなど、自主的な活動に参加しているか聞いたところ、「現在は参加しておらず、今後も参加するつもりはない」(36.4%)、「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」(25.9%)、「現在は参加していないが、以前は参加していた」(20.2%)の順に高い割合となっています。

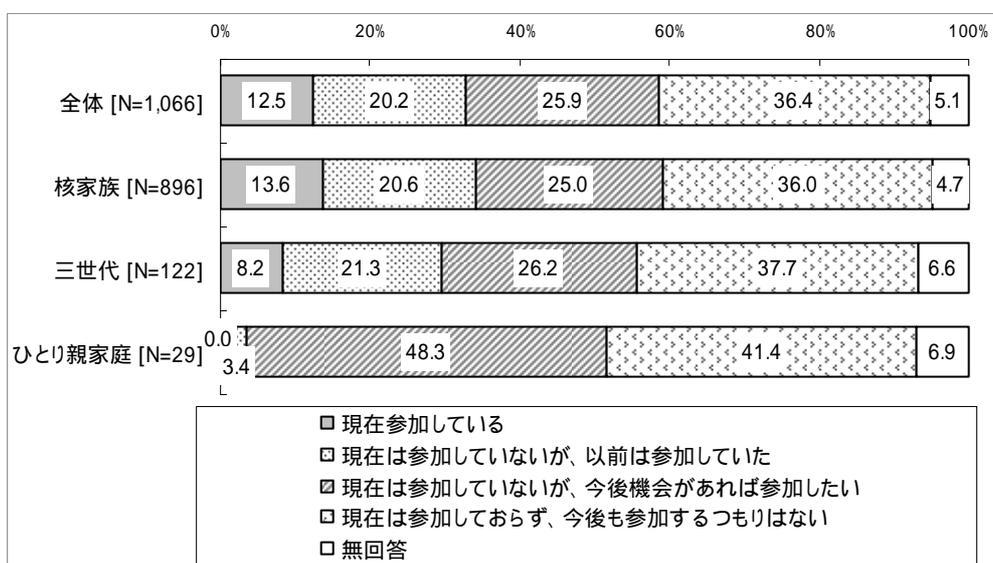
これを年齢別に見ると、「現在参加している」「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」という人の割合は、年齢が下がるにつれて高くなっています。

また、家族構成別に見ると、「現在参加している」という人の割合は、核家族より三世代で低くなっています。また、「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」という人の割合は、ひとり親家庭で高くなっています。

図表 II-149 子育てに関するサークルなど自主的な活動に参加しているか[N=1,066]

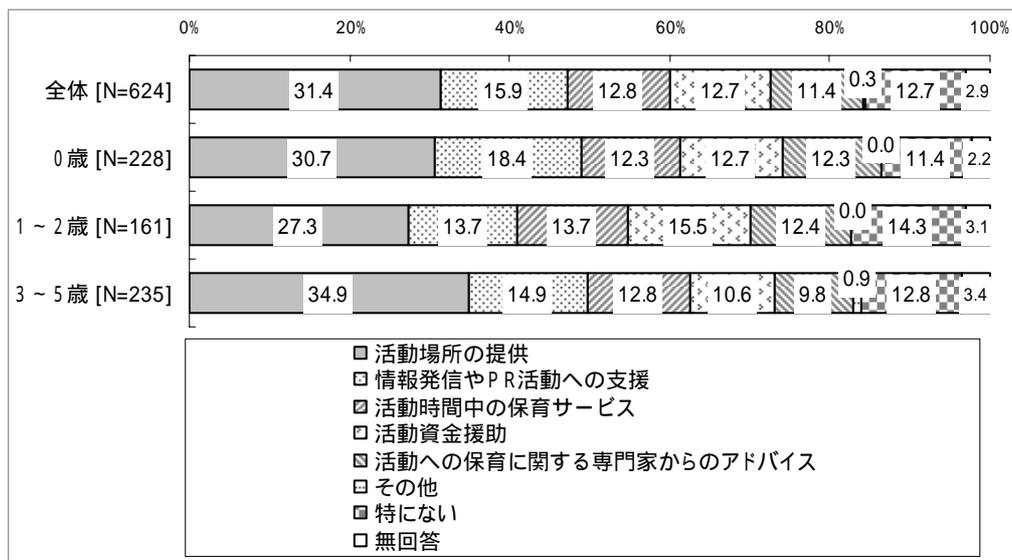


図表 II-150 (家族構成別) 子育てに関するサークルなど自主的な活動に参加しているか[N=1,066]



子育てに関するサークルなど自主的な活動について、「現在参加している」「現在は参加していないが、以前は参加していた」「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」と回答した人に、自主活動をしていくにあたって行政にして欲しい支援を聞いたところ、「活動場所の提供」という人の割合が最も高く31.4%、次いで、「情報発信やPR活動への支援」(15.9%)、「活動時間中の保育サービス」(12.8%)の順に高い割合となっています。

図表 II-151 子育ての自主活動をしていくにあたって行政にして欲しい支援[N=624]

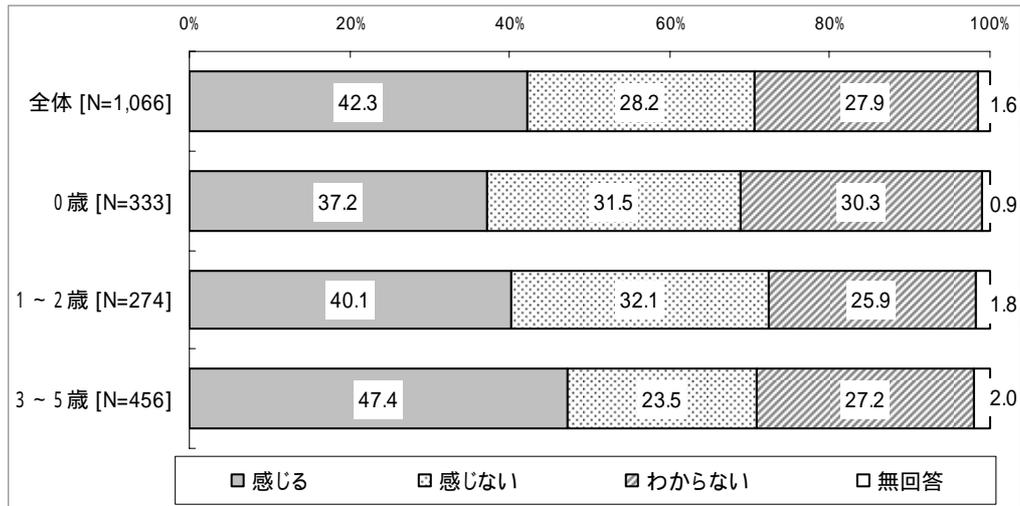


子育てが地域の人に支えられていると感じるかを聞いたところ、「感じる」という人の割合が最も高く 42.3%、次いで、「感じない」(28.2%)、「わからない」(27.9%)の順に高い割合となっています。

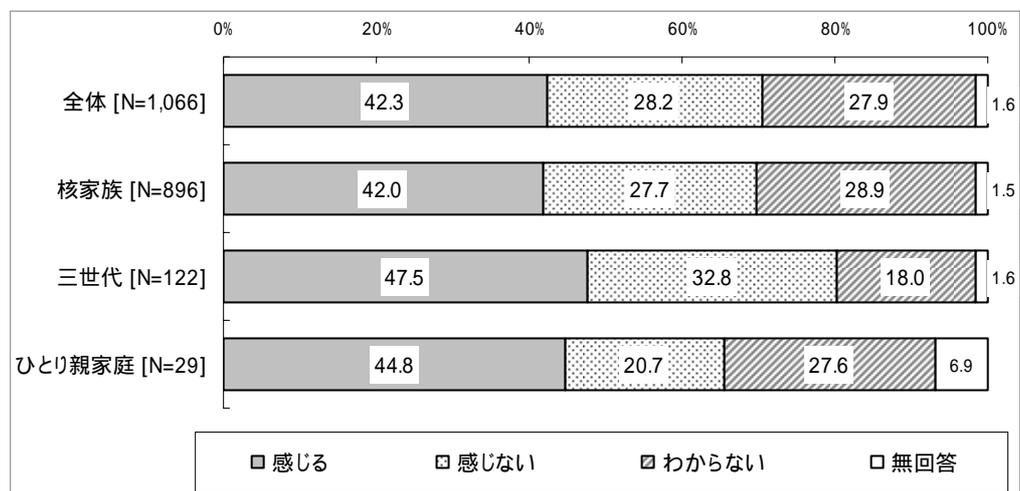
これを年齢別に見ると、「感じる」という人の割合は、年齢が上がるにつれて高くなっています。

また、家族構成別に見ると、「感じる」「感じない」いずれの人の割合も、三世代で高くなっています。

図表 II-152 子育てが地域の人に支えられていると感じるか[N=1,066]



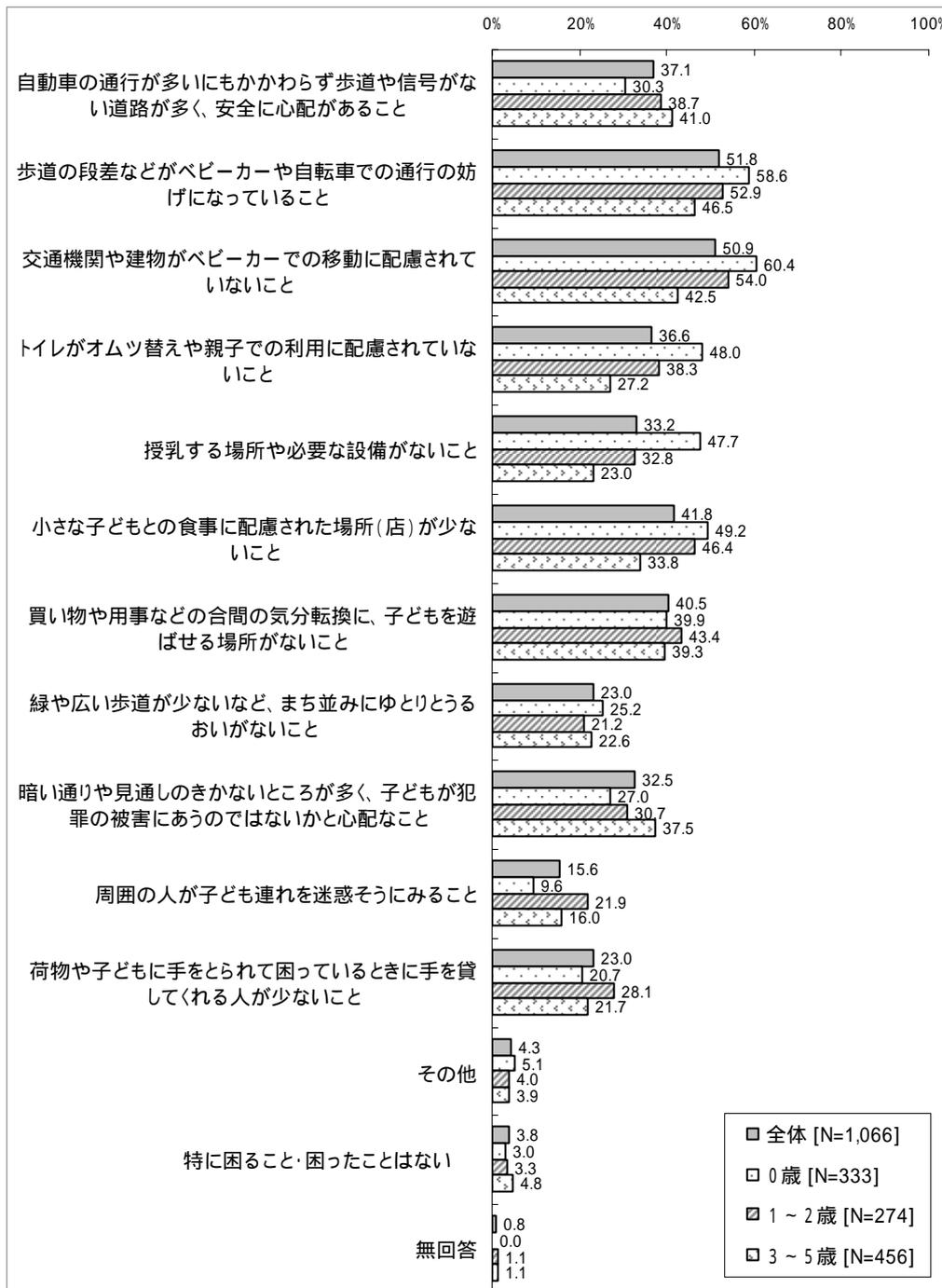
図表 II-153 (家族構成別) 子育てが地域の人に支えられていると感じるか[N=1,066]



(4) 子育てを支援する生活環境の整備

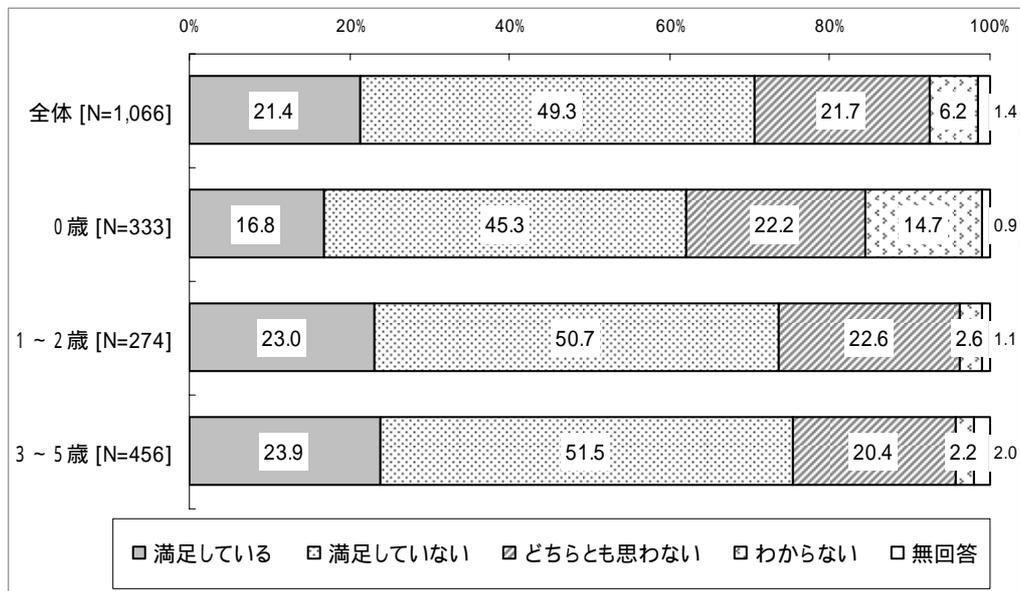
子どもと外出する際、困ること、困ったことがあるか聞いたところ、「歩道の段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっていること」(51.8%)、「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと」(50.9%)、「小さな子どもとの食事に配慮された場所(店)が少ないこと」(41.8%)、「買い物や用事などの合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がないこと」(40.5%)の順に高い割合となっています。

図表 II-154 子どもと外出する際、困ること、困ったことがあるか[N=1,066；複数回答]



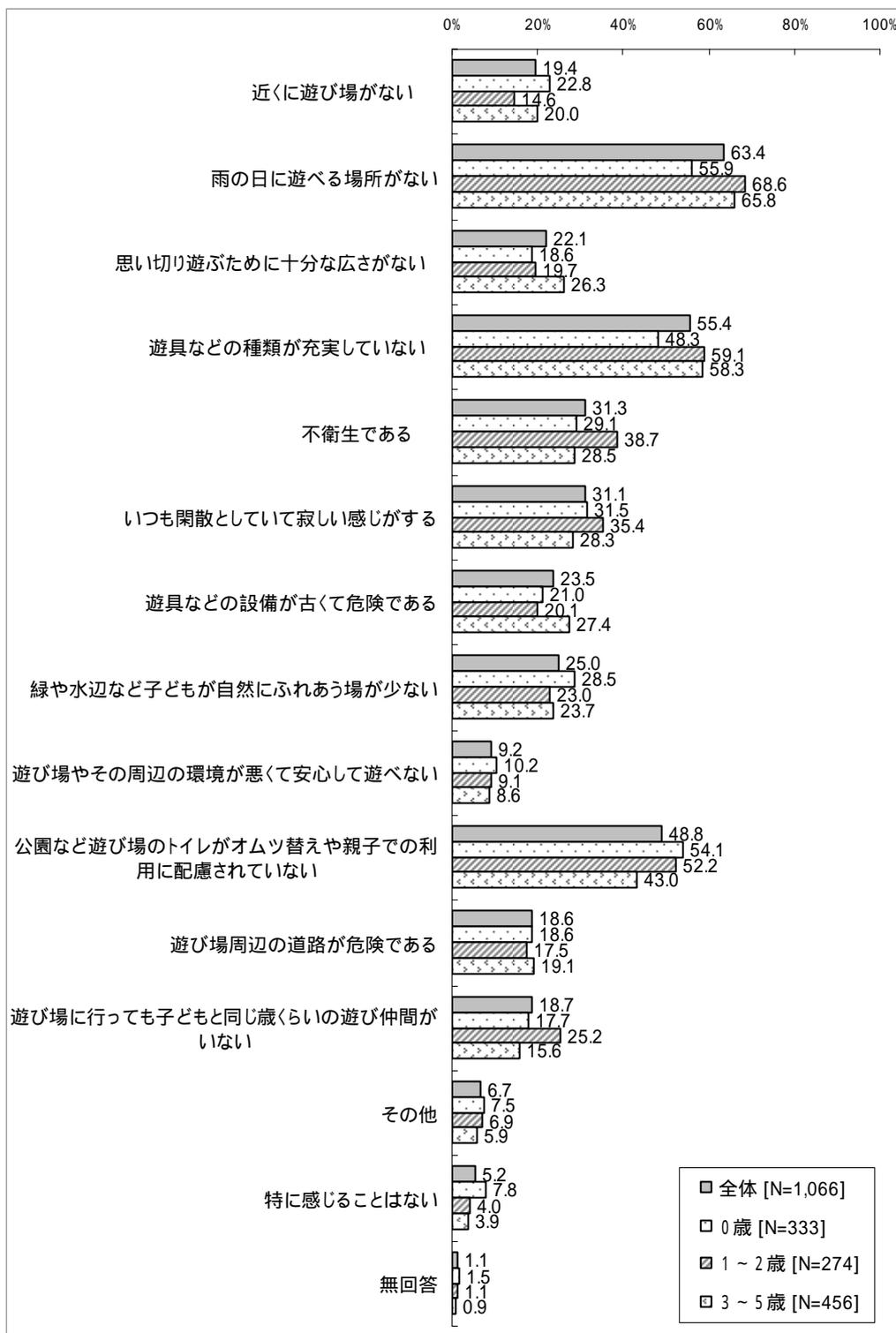
地域における子どもの遊び場に対する満足度を聞いたところ、「満足していない」という人の割合が最も高く 49.3%、次いで、「どちらとも思わない」(21.7%)、「満足している」(21.4%) の順に高い割合となっています。

図表 II-155 地域における子どもの遊び場に対する満足度[N=1,066]



地域における子どもの遊び場に対して感じることを聞いたところ、「雨の日に遊べる場所がない」(63.4%)、「遊具などの種類が充実していない」(55.4%)、「公園など遊び場のトイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていない」(48.8%)の順に高い割合となっています。

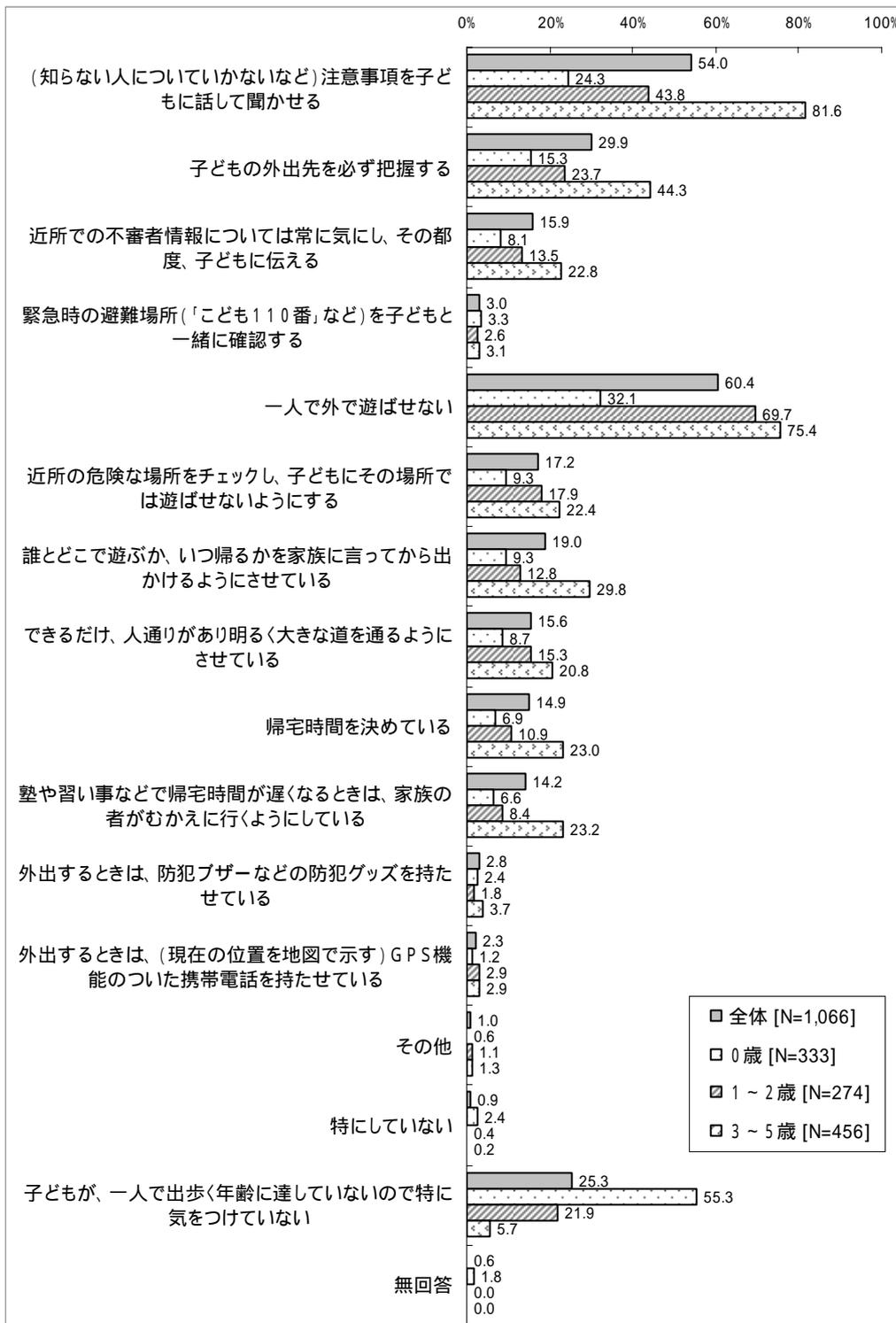
図表 II-156 地域における子どもの遊び場に対して感じること [N=1,066 ; 複数回答]



(5) 子どもの安全対策

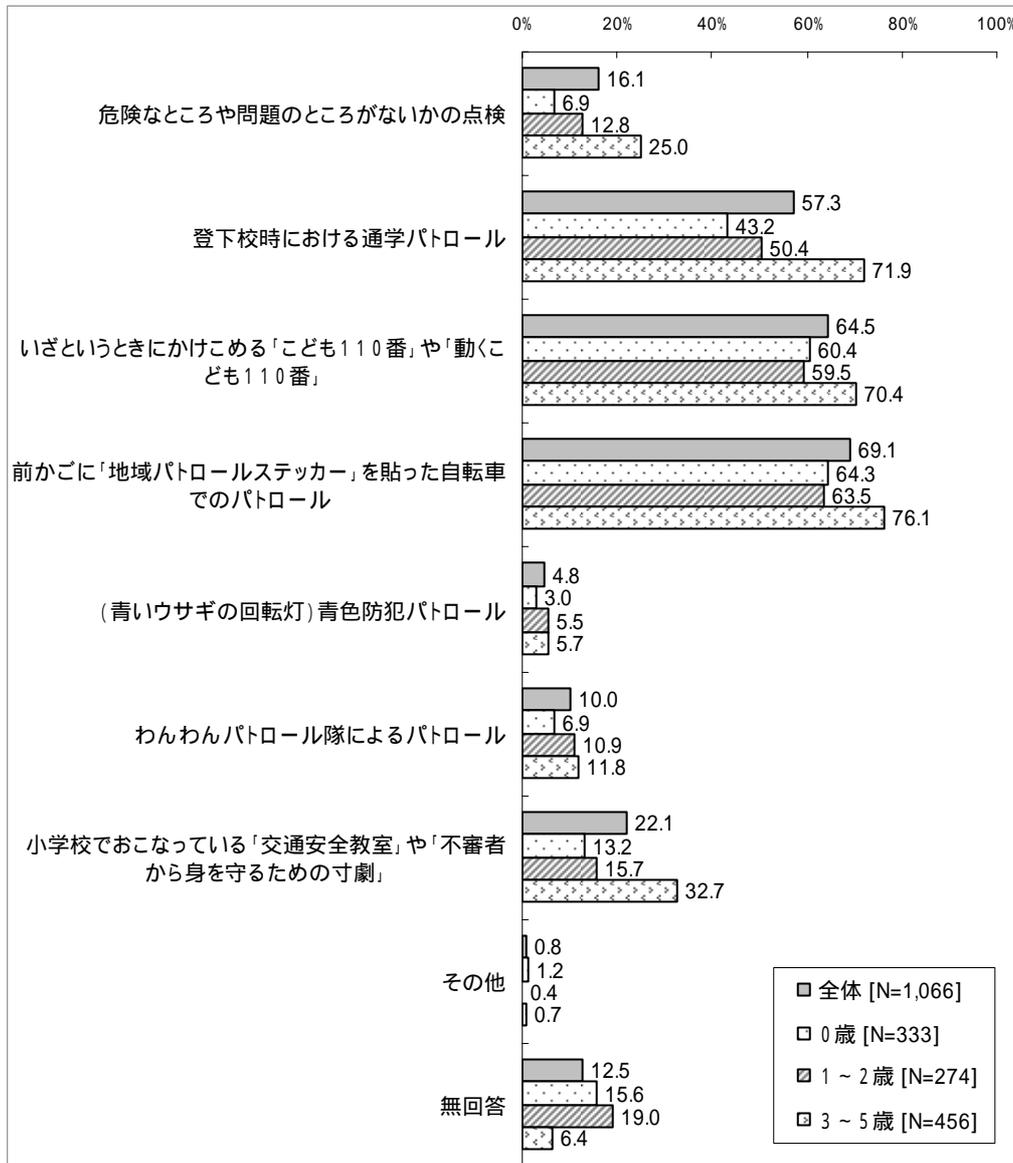
普段、子どもの安全対策として実施していることを聞いたところ、「一人で外で遊ばせない」という人の割合が最も高く60.4%、次いで「(知らない人についていかないなど)注意事項を子どもに話して聞かせる」という人の割合が高く54.0%となっています。

図表 II-157 普段、子どもの安全対策として実施していること[N=1,066；複数回答]



箕面市の子どもを守るための取り組みで知っているものを聞いたところ、「前かごに『地域パトロールステッカー』を貼った自転車でのパトロール」(69.1%)、「いざというときにつけこめる『こども110番』や『動くこども110番』」(64.5%)、「登下校時における通学パトロール」(57.3%)の順に高い割合となっています。

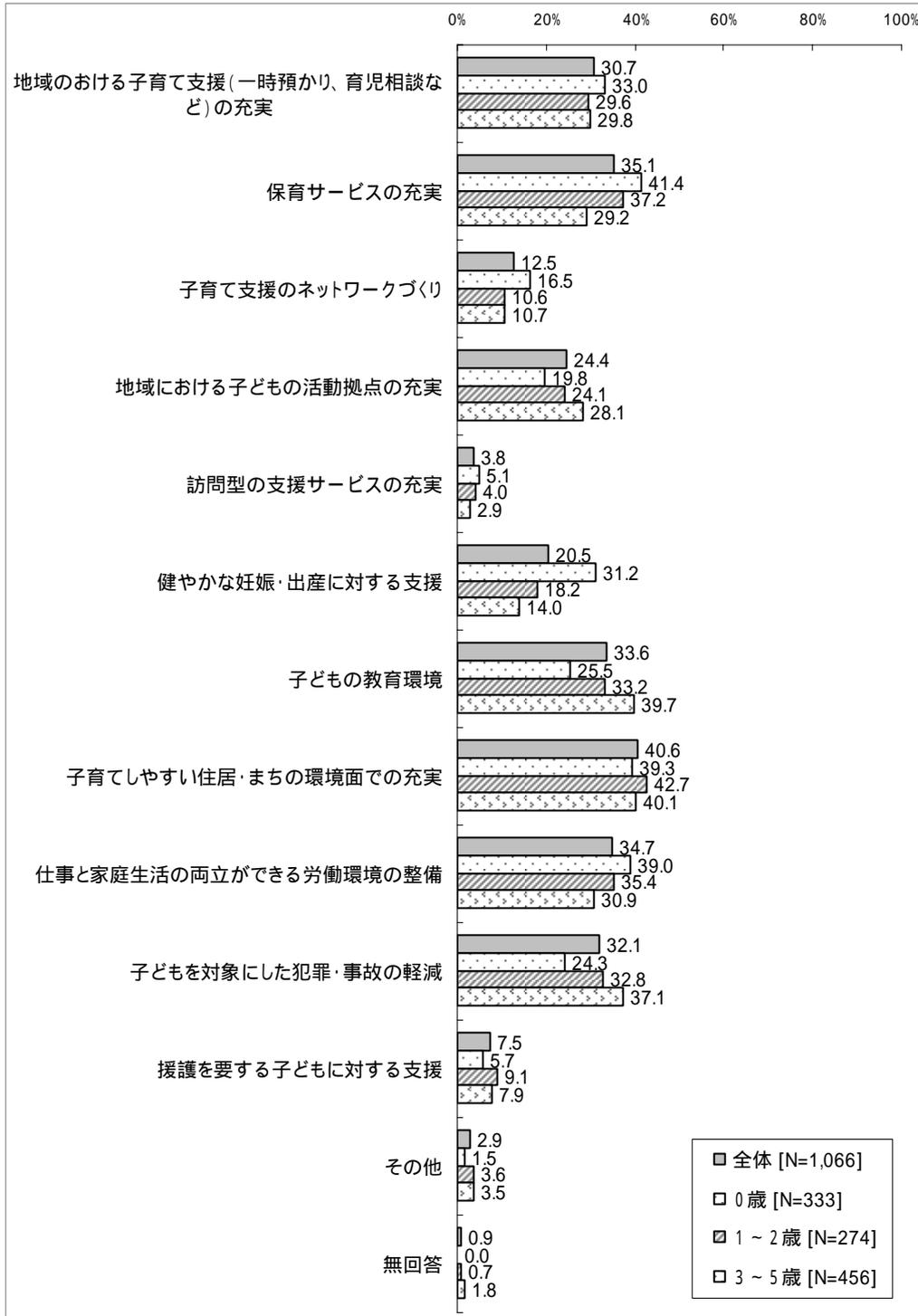
図表 II-158 箕面市の子どもを守るための取り組みで知っているもの[N=1,066；複数回答]



(6) 有効な子育て支援施策・対策

子育てをする中で、有効と感じる施策・対策を聞いたところ、「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」(40.6%)、「保育サービスの充実」(35.1%)、「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」(34.7%)の順に高い割合となっています。

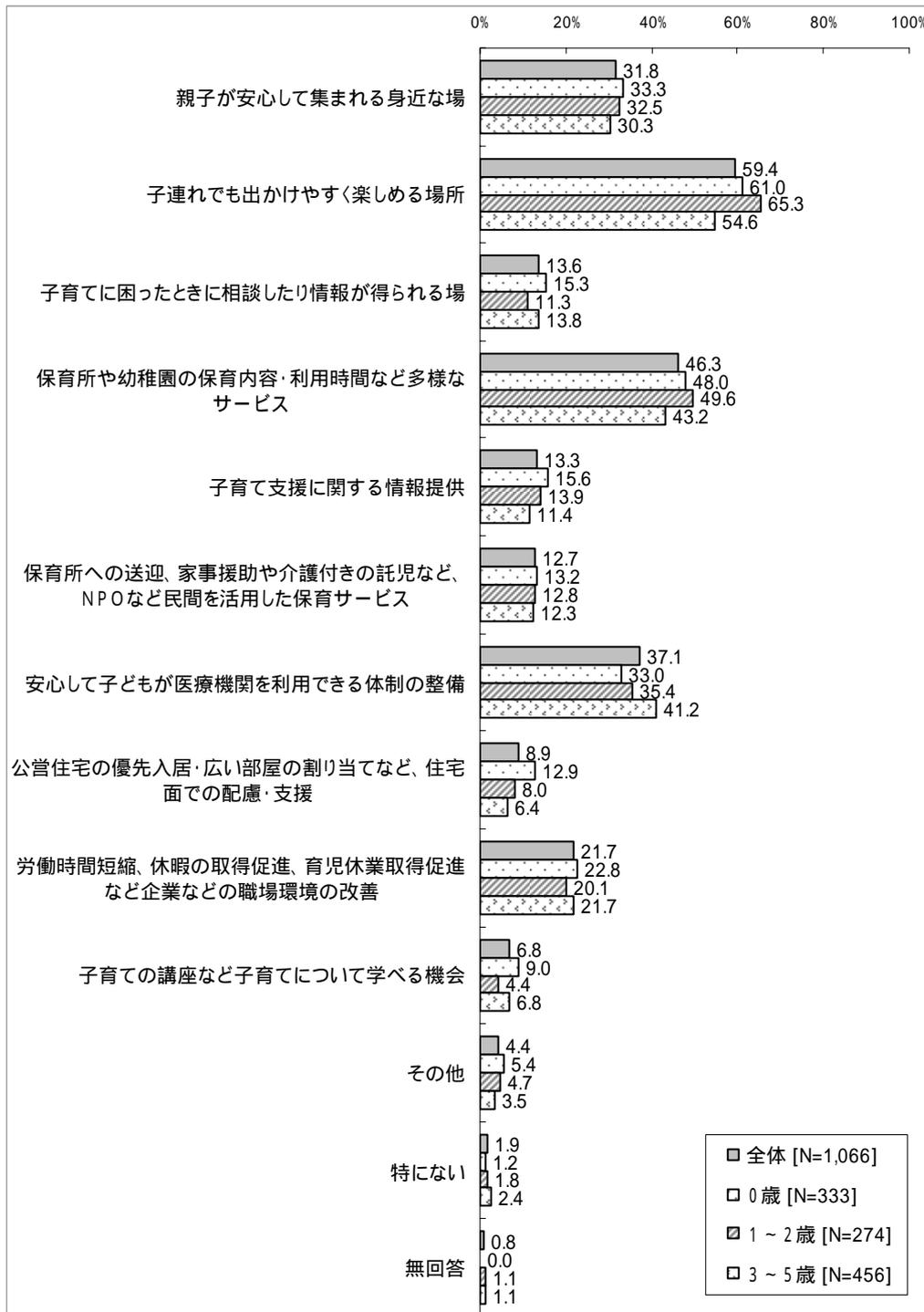
図表 II-159 子育てをする中で、有効と感じる施策・対策[N=1,066；複数回答]



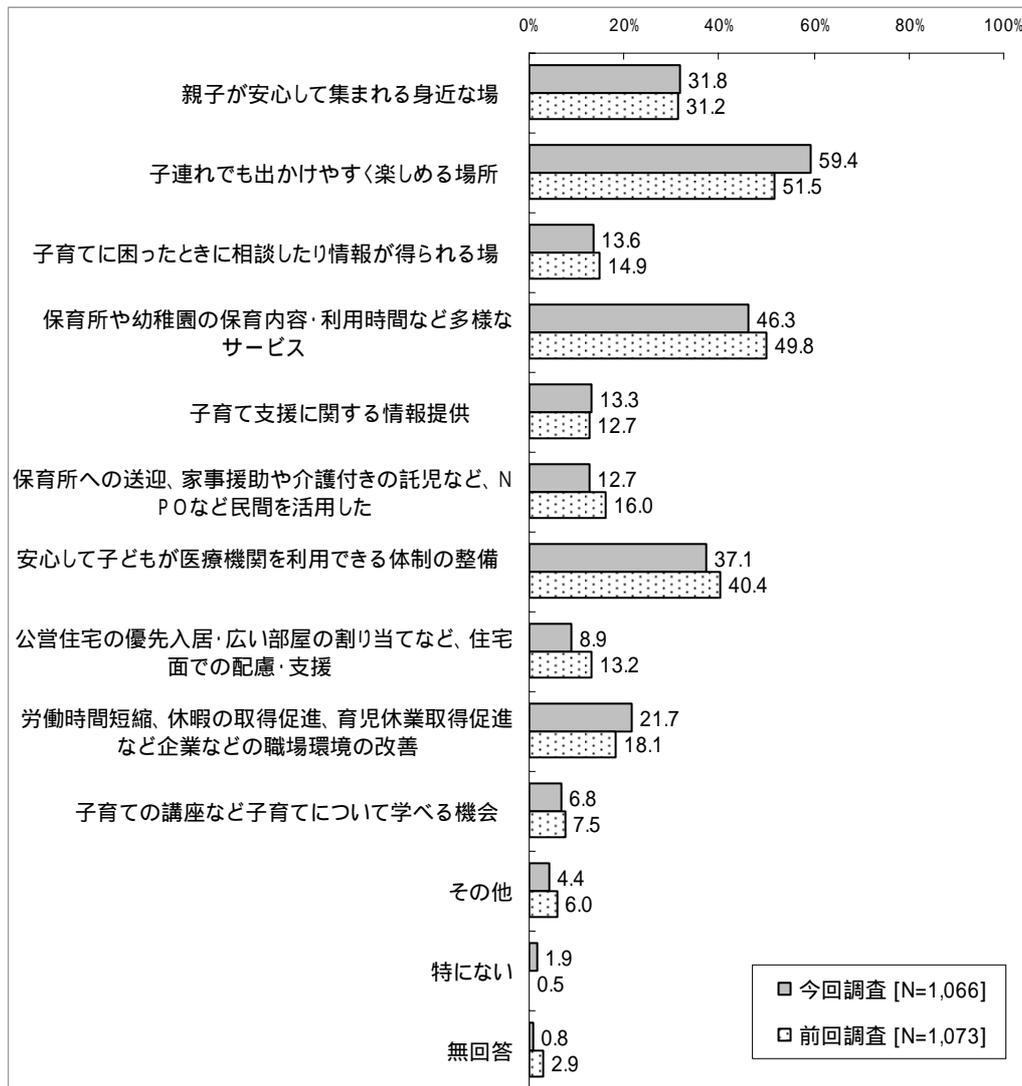
何が充実すれば、箕面市で子育てがしやすくなるか聞いたところ、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所」という人の割合が最も高く 59.4%、次いで、「保育所や幼稚園の保育内容・利用時間など多様なサービス」という人の割合が高く 46.3%となっています。

前回調査と比較すると、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所」という人の割合が、7.9ポイント上昇しています。

図表 II-160 箕面市で子育てをする上で、何が充実すれば子育てがしやすくなるか[N=1,066；複数回答]



図表 II-161 (前回調査との比較)箕面市で子育てをする上で、何が充実すれば子育てがしやすくなるか[複数回答]

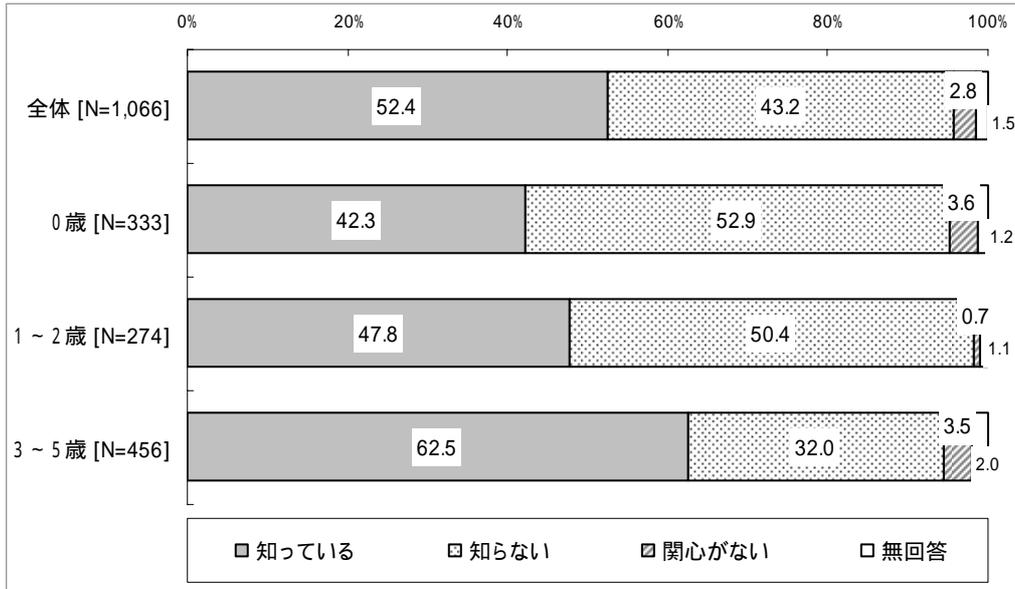


14 . 小中一貫教育の取り組み

箕面市が全市で小中一貫教育の取り組みを進めていることを知っているか聞いたところ、「知っている」という人が52.4%、「知らない」という人が43.2%となっています。

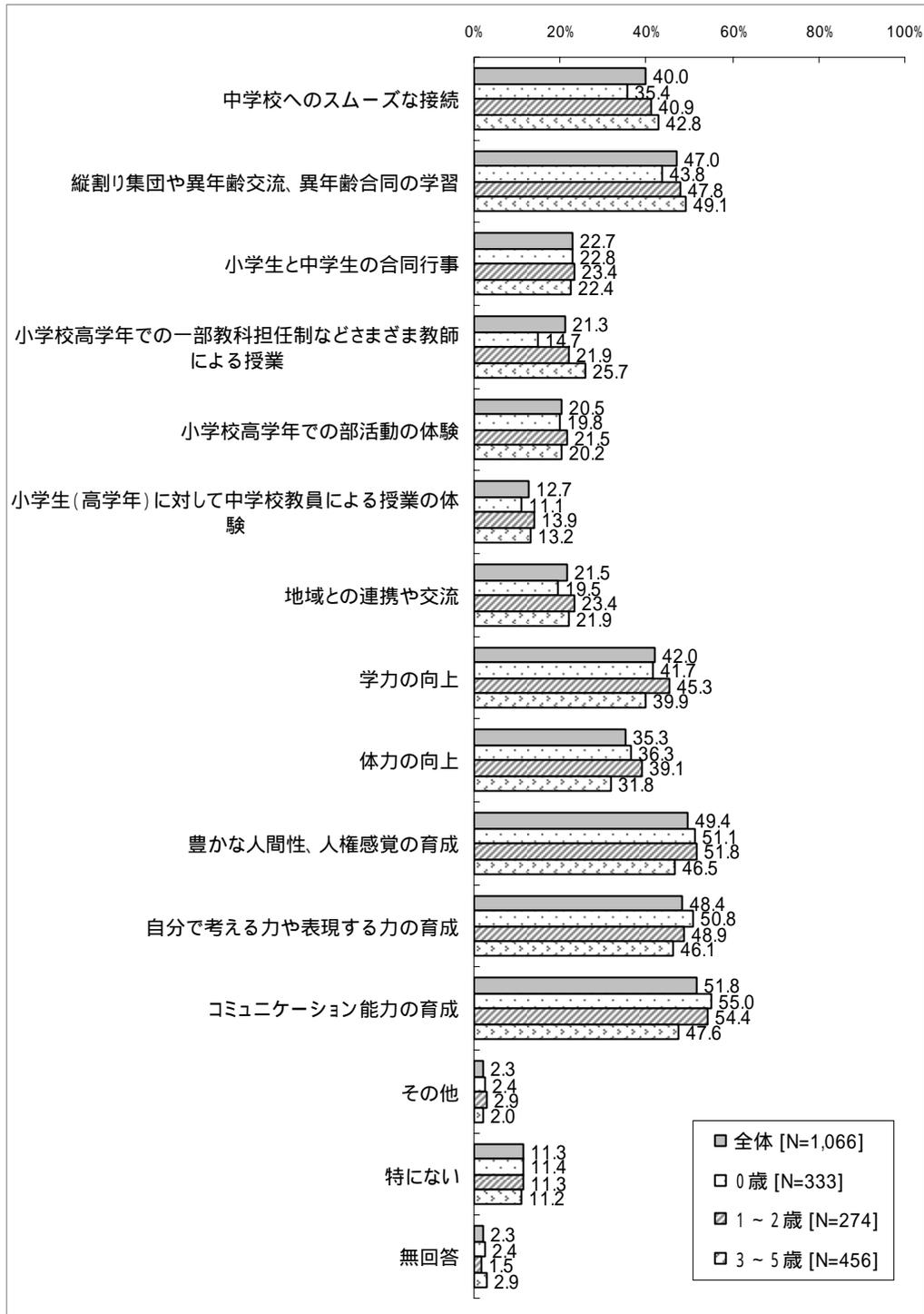
これを年齢別に見ると、年齢が上がるにつれて、「知っている」という人の割合が高くなっています。

図表 II-162 箕面市における小中一貫教育の取り組みの認知状況[N=1,066]



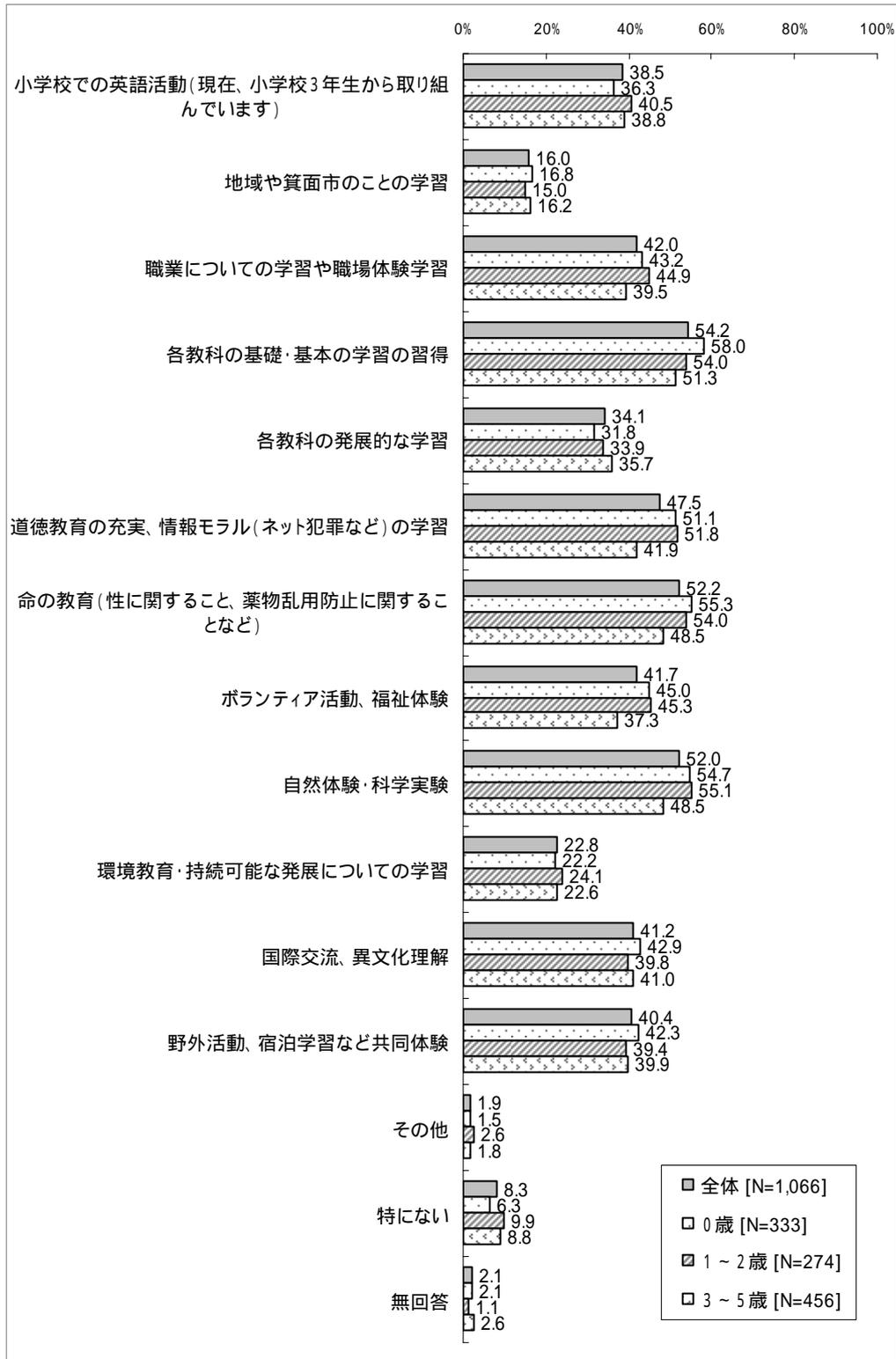
小中一貫教育に期待することを聞いたところ、「コミュニケーション能力の育成」(51.8%)、「豊かな人間性、人権感覚の育成」(49.4%)、「自分で考える力や表現する力の育成」(48.4%)の順に高い割合となっています。

図表 II-163 小中一貫教育に期待すること[N=1,066 ; 複数回答]



小中一貫教育の教育内容に望むことを聞いたところ、「各教科の基礎・基本の学習の習得」(54.2%)、「命の教育(性に関すること、薬物乱用防止に関することなど)」(52.2%)、「自然体験・科学実験」(52.0%)の順に高い割合となっています。

図表 II-164 小中一貫教育の教育内容に望むこと[N=1,066 ; 複数回答]



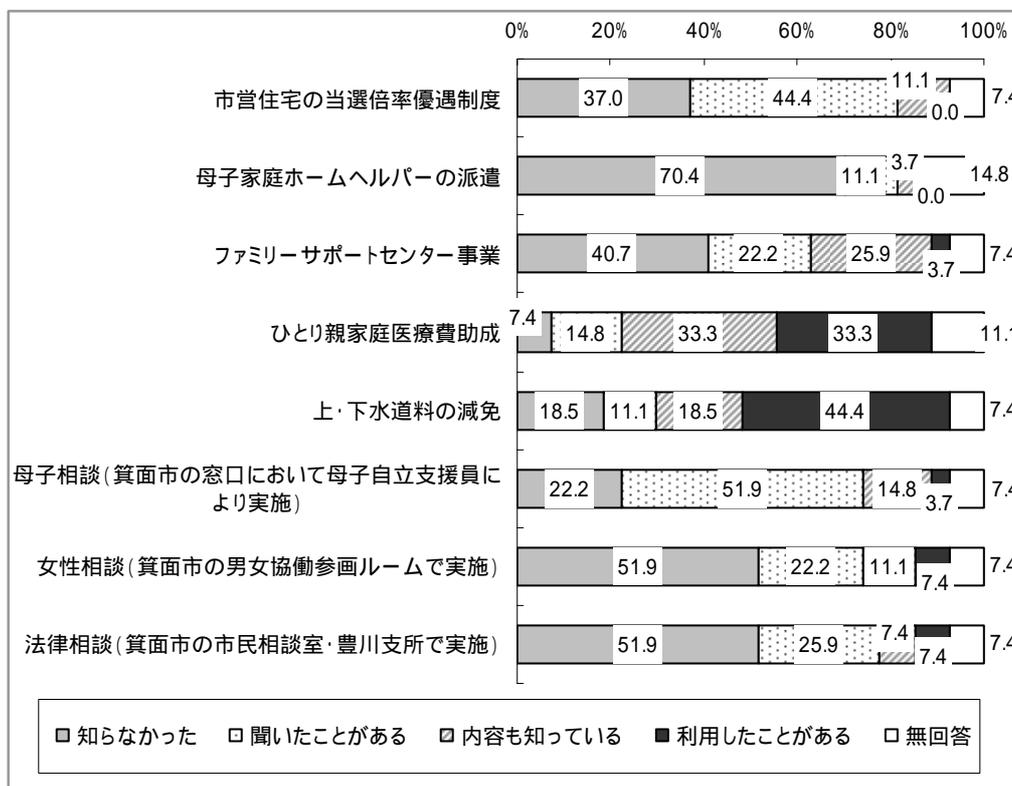
15 . 母子世帯の制度・施策の認知度・利用度・利用意向

(1) 母子世帯の制度・施策の認知度・利用度

「聞いたことがある」「内容も知っている」「利用したことがある」をあわせて認知度をみると、「ひとり親家庭医療費助成」「上・下水道の減免」「母子相談」は認知度が高く7～8割となっています。また、「母子家庭ホームヘルパーの派遣」は「知らなかった」という人の割合が70.4%と認知度が低くなっています。

「利用したことがある」という人の割合から利用度を見ると、認知度の高い「ひとり親家庭医療費助成」「上・下水道の減免」では利用度が高く3～4.5割となっています。その他については、利用度は1割未満となっています。「母子相談」は認知度が70.4%であるのに対し、利用度は3.7%にとどまっています。

図表 II-165 母子世帯の制度・施策の認知度・利用度[N=27]



(2) 母子世帯の制度・施策の利用意向

利用意向を見ると、「ひとり親家庭医療費助成」(70.4%)、「上・下水道の減免」(66.7%)
では利用意向が高くなっています。

図表 II-166 母子世帯の制度・施策の利用意向[N=27；複数回答]

